

旧カリキュラム		歯学部歯学科の教育目標:				歯学部歯学科のディプロマポリシー (DP)					
		医療人として自覚と責任に溢れ、独創的な科学的視野を持ち、継続した学習及び研究意欲を持ち、地域医療の貢献・向上に意欲的で、幅広い教養を身につけた慈愛に満ちた歯科医師を育成する。				◎: DP達成のために、特に重要な事項 ○: DP達成のために、重要な事項 △: DP達成のために、望ましい事項					
学年	科目整理 No.	授業科目名	授業の目的	授業の到達目標	コミュニケーション力	倫理観・生命科学の基本的知識	科学的視点・思考・行動	口腔領域疾患の専門的知識	歯科治療の基礎的知識	チーム医療の基礎的知識	
					①多様な人々と良好な人間関係を構築するコミュニケーション力を身につけている。	②建学の精神と一般教養ならびに高い倫理観と生命科学に関する基本的知識を身につけている。	③グローバルな社会で歯科医師の果たす役割を科学的視点から捉え、思考し、行動することができる。	④口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する専門的知識を修得している。	⑤歯科治療に必要な高頻度治療の基礎的知識を身につけている。	⑥地域包括医療などのチーム医療に関する基礎的知識を身につけている。	
1年生	1	歯科学概論/基礎系歯学体験実習	歯学部に入學したばかりの学生が、歯科医学・医療の概要を把握し、自己の専門分野となる歯科医学に対する関心を高めるために、人と会話することや、食物を摂取することの重要性を学び、多くの分野に細分化された歯学の構成と内容を理解する。	1) 学内および学外講師の講演を聞き、参考となる事項を列挙し、自らのキャリアデザインに適用できる。 2) 附属病院来院患者を想定して初診から歯科治療終了までの流れについて説明できる。 3) ヒトのからだの構造と生命の形づくりの基本を説明できる。 4) 歯科と医科の関わりから、生理学の重要性を説明できる。 5) 歯科医学において生命の分子的基盤を理解することの意義を説明できる。 6) 病理診断の基礎として、病気の原因と経過について説明できる。 7) 顕微鏡による微生物の発見から現在に至る「微生物と人間の関わり」を説明できる。 8) 8020 運動などを通して、国民の健康づくりと歯科医師の役割を概説し、口腔衛生の重要性を説明できる。 9) 薬理学の序章として、薬物を安全に使用するための留意点を説明できる。 10) 歯科材料の種類とその多様性、未来へ繋がる新しい歯科材料の開発過程を説明できる。 11) 歯の形、歯の構造、歯の形成過程を説明できる。 12) 歯の硬組織疾患の病態や様々な治療法について概要を説明できる。 13) 「歯髄・根尖歯周組織の常態」と「歯痛を生じる疾患の概要」を説明できる。 14) 「歯周組織の構造」と「歯周病の病因・病態」について概説できる。 15) 歯科の診療で小児歯科の果たす役割と重要性について説明できる。 16) 歯学部学生が心肺蘇生法を学ぶ意義を述べ、その方法を説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	○	

			<p>17) 口腔環境ならびに身体 の健康増進に寄与する矯正歯科治療の概要と効果を説明できる。</p> <p>18) 医科と歯科の診療において口腔外科の果たす役割と扱う疾患を説明できる。</p> <p>19) 口腔・顎顔面から口腔咽頭部に至る領域の生理的・臨床的な意義とその障害を説明できる。</p> <p>20) 「放射線の医学・歯学における利用」、「人体に対する放射線の影響」および「放射線防護の方法」を説明できる。</p> <p>21) 「内科疾患が口腔内病変に及ぼす影響」、「歯科診療が全身疾患に及ぼす影響」および「歯科診療と内科疾患との関連」を説明できる。</p> <p>22) 歯科医に必要な外科学の知識、技能、考え方の基本を説明できる。</p> <p>23) 歯科医療施設見学に基づいて、自らのキャリアデザインについて述べるができる。</p>							
2 年生	2	人体の構造	<p>歯学の基礎知識として、人体諸器官の基本的な形態、構造および機能を理解し、修得する。</p>	<p>1) 身体 の部位を解剖学的に区別できる。</p> <p>2) 身体 の方向用語を正確に用いることができる。</p> <p>3) 骨の基本構造と結合様式を説明できる。</p> <p>4) 筋組織の構造と機能を説明できる。</p> <p>5) 骨格筋の構造と機能を説明できる。</p> <p>6) 生体を構成する主な骨と筋を列挙できる。</p> <p>7) 頭蓋骨の構成と構造を説明できる。</p> <p>8) 中枢神経系、末梢神経系の構造を説明できる。</p> <p>9) 脈管系とリンパ系の構造と役割を説明できる。</p> <p>10) 心臓の構造と血液循環を説明できる。</p> <p>11) 呼吸器系の構造を説明できる。</p> <p>12) 消化管の基本構造と機能を説明できる。</p> <p>13) 内分泌系の構造と機能を説明できる。</p> <p>14) 泌尿器系の構造と機能を説明できる。</p> <p>15) 生殖器系の構造と機能を説明できる。</p> <p>16) 感覚器の構造と機能を説明できる。</p>	△	◎	◎	○	△	
	3	実習：人体の構造	<p>教科書で学んだ人体構造の理解を深めるために、人体解剖により三次元的に理解する。献体について理解し、生命の尊厳や倫理観について考える。</p>	<p>1) 頭蓋骨の構成と構造を説明できる。</p> <p>2) 身体 の部位を解剖学的に区別できる。</p> <p>3) 生体を構成する主な骨と筋を列挙できる。</p> <p>4) 主な動脈と静脈を列挙できる。</p> <p>5) 脳と脊髄の基本構造と機能を説明できる。</p> <p>6) 口腔、鼻腔、舌、大唾液腺の特徴を部位ごとに説明できる。</p> <p>7) 心臓、肺、縦隔の構造と機能を説明できる。</p> <p>8) 消化管の基本構造と機能を説明できる。</p> <p>9) 腎臓と尿路の構造と機能を説明できる。</p> <p>10) 生殖器の構造と機能を説明できる。</p>	○	◎	◎	○	○	
	4	歯の構造	<p>歯科医学の基礎を修得するために必要な歯と口腔の諸器官について、形態学および組織学的な特徴を学ぶ。そして、これらの機能と構造を学ぶことで、臨床歯学で学ぶ疾患の病因や病態を捉えることができる学力を身につける。また、主として歯の形態の特徴について歯種、顎差、左右差の鑑別がで</p>	<p>1) 歯と歯周組織の肉眼的形態と機能が説明できる。</p> <p>2) 歯の種類、名称、歯種、歯式および歯の方向用語が説明できる。</p> <p>3) エナメル質の構造と組織学的特徴が説明できる。</p> <p>4) 象牙質と歯髓の構造と組織学的特徴が説明できる。</p> <p>5) セメント質と歯根膜の構造と組織学的特徴が説明できる。</p> <p>6) 歯槽骨と歯肉の構造と組織学的特徴が説明できる。</p> <p>7) 永久歯の歯種による形態と機能および歯の大きさを比較し、上下顎、左右側の違いを説明できる。</p> <p>8) 歯種(切歯、犬歯、小臼歯、大臼歯)の特徴を説明できる。</p> <p>9) 永久歯と乳歯の形態的特徴や相違点について説明できる。</p> <p>10) 上顎歯と下顎歯の位置関係を理解し、歯の配列と咬合について説明できる。</p> <p>11) 歯の異常について説明できる。</p>		◎	○	○		

		き、さらに顎口腔の機能を合わせ理解する。								
5	実習・歯の構造	歯科医学の基礎となる歯の形態を理解するために、模型歯による歯の計測、写生、そして石塑粘土による造形を行い、立体的に歯の形態的特徴について修得する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 永久歯着脱模型を用い、歯の三歯徴と歯種、顎側、左右側の違いを修得し、歯の鑑別を説明できる。 2) 歯軸の概念を修得し、歯全長、歯冠長、歯根長、歯冠近遠心径、歯冠頬舌径をノギスで測り、歯の計測方法を説明できる。 3) 計測値をもとに、上顎中切歯の2倍値で方眼紙上に展開図として写生し、浮彫像の描記ができる。 4) 上顎中切歯の3次元的な形態を理解するために、石塑粘土を用いて造形ができる 5) 計測値をもとに、上顎犬歯の2倍値で方眼紙上に展開図として写生し、浮彫像の描記ができる。 6) 上顎犬歯の3次元的な形態を理解するために、石塑粘土を用いて造形ができる。 7) 計測値をもとに、上顎第一小臼歯の2倍値で方眼紙上に展開図として写生し、浮彫像の描記ができる。 8) 上顎第一小臼歯の3次元的な形態を理解するために、石塑粘土を用いて造形ができる。 9) 計測値をもとに、上顎第一大臼歯の2倍値で方眼紙上に展開図として写生し、浮彫像の描記ができる。 10) 上顎第一大臼歯の3次元的な形態を理解するために、石塑粘土を用いて造形ができる。 11) 計測値をもとに、下顎第一大臼歯の2倍値で方眼紙上に展開図として写生し、浮彫像の描記ができる。 12) 下顎第一大臼歯の3次元的な形態を理解するために、石塑粘土を用いて造形ができる。 13) 乳臼歯の形態を大臼歯と比較し、乳臼歯の鑑別ができる。 		◎	○	○			
6	細胞の構造と機能	歯科医学を修得するために、生体の構造を明らかにする解剖学はすべての歯科医学の領域の基礎である。特に顕微解剖(組織学)は、病理組織検査・細胞診、組織培養、バイオテクノロジー関係の領域においては重要な基礎知識となる。からだのしくみの基本構造と機能を理解するばかりでなく、口腔諸器官の微細構造について、歯および歯周組織を主体としたそのはたらきや関連のある疾患について臨床的にも修得させる。なお、関連する組織発生、器官発生についても理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 細胞膜、核および細胞内小器官の構造と機能や細胞の分泌と吸収機構を説明できる。 2) 上皮細胞、細胞の接着装置、腺の分泌物の性状、形態および分泌機構について分類できる。 3) 結合組織や硝子軟骨、弾性軟骨および線維軟骨の特徴、さらに骨の構造、軟骨内骨化と膜内骨化の機序、成長様式を説明できる。 4) 骨格筋組織、心筋組織、平滑筋組織の構造と機能を説明できる。 5) 有髄神経線維、無髄神経線維やシナプスおよび末梢神経の構造について説明できる。 6) 血液、骨髄の基本構造と機能について説明できる。 7) 動脈、毛細血管、静脈や心臓、刺激伝導系、リンパ管、胸管の構造と機能的差異、さらに組織液、リンパ液の流れを説明できる。 8) リンパ小節、リンパ節、ワルダイエル咽頭輪を構成する各扁桃や、脾臓、胸腺の組織構造と機能を説明できる。 9) 口唇、舌乳頭、耳下腺、顎下腺、舌下腺の細胞構成の違い、さらに口腔に続く咽頭と食道を組織学的に説明できる。 10) 胃の粘膜と胃底腺、幽門腺、噴門腺と十二指腸、空腸、回腸や肝臓、膵臓の組織構造的特徴を説明できる。 11) 腎臓の腎小体、尿細管と尿管、さらに膀胱の移行上皮、筋層、さらに尿道の男女差について組織学的に説明できる。 12) 精巣、精子を体外に導く導管系と、それに付属した腺と精液の性状、さらに陰茎の構造と機能を説明できる。 		◎	○	○			
7	実習・細胞の構造と機能	細胞の構造と機能の講義で習得した知識をより深めるために、光学顕微鏡とコンピュータによるデジタルスライドを用い、組織標本をスケッチ・色付けをし、各組織学的名称を記入することで、立体的に正常組織構造を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 光学顕微鏡の構造と取り扱い方、実習で使用する永久標本の染色方法と細胞間橋の構造について説明できる。 2) 膠様組織、弾性線維、弾性組織の構造について説明できる。 3) 軟骨組織の種類と構造について説明できる。 4) 平滑筋組織、骨格筋組織、心筋組織と坐骨神経の構造について説明できる。 5) 骨組織の構造について説明できる。 6) リンパ節と脾臓の組織構造、さらにヒト末梢血球の分類とそれぞれの特徴と機能を説明できる。 7) 胸腺の皮質、髄質とハッサル小体、さらに口蓋扁桃の重層扁平上皮と陰窩の構造的特徴を説明できる。 8) H-E 染色、レゾルシン・フクシン染色による動脈と静脈の組織構造と血管系の役割の違いを説明できる。 9) 特殊粘膜である糸状、茸状乳頭と葉状乳頭および有郭乳頭の組織構造について説明できる。 10) 消化管の入り口である口唇と大唾液腺である耳下腺、顎下腺、舌下腺の組織構造の違いについて説明できる。 		◎	○	○			

			<p>11) 腺組織である肝臓と内分泌腺と外分泌腺を合わせ持つ膵臓の組織構造を説明できる。</p> <p>12) 食道および十二指腸、さらに腎臓の細胞と組織構造を説明できる。</p> <p>13) 内分泌腺の一般的構造を理解し、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎の構造を説明できる。</p> <p>14) 気管の粘膜上皮と粘膜下組織と、さらに肺臓の粘膜上皮の特徴的な構造を説明できる。</p> <p>15) エナメル質の組織構造について説明できる。</p> <p>16) 象牙質の組織構造について説明できる。</p> <p>17) 歯髄の組織構造について説明できる。</p> <p>18) セメント質の組織構造について説明できる。</p> <p>19) 歯周組織の組織構造について説明できる。</p> <p>20) エナメル器・歯乳頭・歯小囊の組織構造について説明できる。</p>						
8	人体の機能	<p>医学の基礎としての生理学を理解するために、人体機能を中心として細胞生理学、植物性機能および動物性機能について学び、生体の機能に関する基本的知識を修得する。</p>	<p>1) ニューロンの基本的構造と機能を説明できる。</p> <p>2) 静止膜電位の形成と活動電位の発生機序を説明できる。</p> <p>3) 神経細胞間のシナプス伝達を説明できる。</p> <p>4) 筋の収縮機序であるフィラメントの滑走説を説明できる。</p> <p>5) 体性反射の機序と機能的意味を説明できる。</p> <p>6) 姿勢制御の機序と制御に関わる脳幹の役割を説明できる。</p> <p>7) 随意運動における運動単位の動員機構を説明できる。</p> <p>8) 反射による顎運動の調節機構を説明できる。</p> <p>9) 咀嚼リズムの生成における脳幹の役割を説明できる。</p> <p>10) 自律神経の機能とその制御様式を説明できる。</p> <p>11) 心臓における電気現象と機械現象を説明できる。</p> <p>12) 血管系およびリンパ系の構造と機能を説明できる。</p> <p>13) 呼吸器の構造と機能およびその調節機構を説明できる。</p> <p>14) 体性感覚受容器と感覚受容特性を説明できる。</p> <p>15) 痛覚の受容器とその伝達様式を説明できる。</p> <p>16) 発声器官と構音の形成機序を説明できる。</p> <p>17) 聴覚の受容器と伝導路の構造と機能を説明できる。</p> <p>18) 眼球の構造と機能および情報識別機構を説明できる。</p> <p>19) 平衡器官の構造と機能およびその受容機構を説明できる。</p> <p>20) 味覚受容器の構造と機能および識別機序を説明できる。</p> <p>21) 嗅覚受容機構とその識別機構を説明できる。</p> <p>22) 内分泌の機能と特徴ならびに調節機構を説明できる。</p> <p>23) 消化管の構造と機能およびその調節機構を説明できる。</p> <p>24) 体液と血液の組成並びに血液凝固について説明できる。</p> <p>25) 体温調節中枢と産熱、放熱のしくみを説明できる。</p> <p>26) 腎臓の構造と機能並びに排尿について説明できる。</p> <p>27) 体液の pH や浸透圧が一定に保たれる機序を説明できる。</p> <p>28) 小脳と基底核の機能及びその運動調節機序を説明できる。</p> <p>29) 大脳の構造と機能および脳機能計測法を説明できる。</p>			◎	◎	○	
9	実習：人体の機能	<p>生体の機能を調べるためには様々な実験や検査が行われる。それらが実際にどの様に行われるか知るために、よく用いられる測定技術を習得し、それら技術の限界や内在する誤</p>	<p>1) 心電図の記録を行い、アイントーベンの正三角形を作図できる。</p> <p>2) 心電図と指尖脈波の関係を説明できる。</p> <p>3) 正しく血圧測定をできる。また、誤った方法では測定値にどの様な違いが生じるか説明できる。</p> <p>4) 開口反射を誘発し、咬筋筋電図の応答から反射弓を説明できる。</p> <p>5) 口腔および皮膚の二点弁別閾を計測し、触圧覚の感度を説明できる。</p> <p>6) 音声波形の周波数分析を行い基本周波数とフォルマントの意義を説明できる。</p> <p>7) 呼吸数、SpO₂、脈拍数、PETCO₂の計測を行い、深呼吸や息こらえ時の変化から呼吸の調節機序を説明できる。</p>			◎	◎	○	

		差、危険性も併せて理解する。	8) 誘発筋電図の記録を行い、末梢神経の伝導速度を算出できる。 9) 味覚閾値の検査方法と甘味抑制物質による認知閾値の変化を説明できる。								
10	生命の分子的基盤	分子レベルの知識を基盤とした包括的な歯学の理解を可能とするために、生物がどのような分子から構成され、生命のない分子がどのように集合して生命ある生体を形成し、自己を維持・複製するかを理解し、特に顎顔面・口腔組織を構成する分子とその代謝については、その詳細を修得する。	【春】 1) 生命を構成する基本的物質(アミノ酸、タンパク質、糖質、脂質、ヌクレオチド、核酸)の構造と機能を説明できる。 2) 生体物質の合成と分解の過程を説明できる。 3) 生体内におけるエネルギーの流れについて説明できる。 4) 遺伝子の基本的な構造と機能について説明できる。 5) 遺伝情報発現の流れ(セントラルドグマ)と分子機構を説明できる。 6) 遺伝子工学の生命科学と医療への応用を説明できる。 【秋】 7) 口腔および全身を構成する主な細胞外マトリックス分子の構造と機能を説明できる。 8) 口腔の軟組織と硬組織の構成成分を説明できる。 9) 硬組織形成の機構を分子レベルで説明できる。 10) 血液中のカルシウムの恒常性とその調節機構を説明できる。 11) 局所的に起こる骨の改造現象とその調節機構を説明できる。 12) 破骨細胞による骨吸収の分子機構を説明できる。 13) 「唾液成分とその機能」、「唾液に含まれる有機成分の生合成」および「唾液の分泌機構」を説明できる。 14) 歯面への付着物(ペリクル、プラーク、歯石)の成分、形成過程および病因性を説明できる。 15) 血液・尿に関する基本的な生化学的臨床検査法の原理と異常値の意味を説明できる。	△	◎	◎	○	△	△		
11	実習:生命の分子的基盤	「生命の分子的基盤」という科目で講義される内容は、すべて実験を通して得られた事実に基づいている。本実習では、生化学の実験を遂行するために必要とされる基本的な実験技術を習得して実際に実験することにより、講義内容についての理解を深め、知識の定着を図る。	【春】 1) 生化学実験の基本的な知識と技術を身につけ、効率良く安全に実験できる。 2) 糖質の分離と定性分析ができる。 3) ホモジネートの調製と遠心分離法による細胞分画ができる。 4) タンパク質量法の原理を理解して定量実験を実施し、「試料中のタンパク質濃度」と「細胞分画におけるタンパク質の回収率」を算出できる。 5) 酵素の活性測定を実施し、反応の初速度、酵素量、および比活性を算出できる。 6) 酵素活性の測定実験を行い、酵素反応のミカエリス定数(Km)と最大反応速度を算出し、薬物の阻害様式を推定できる。 【秋】 10) 基本的な臨床生化学検査として、尿検査と血糖検査を実施できる。 11) 口腔と全身の関連性を理解した上で、尿検査と血糖検査に関する基準値と異常値の意味を説明できる。 12) 唾液の性状と成分を分析する実験を実施し、唾液の機能を分子レベルで説明できる。 13) 歯の脱灰を実施し、脱灰した歯にコラーゲンが含まれていることを実験で示すことができる。 14) 歯の脱灰液中のCaとPを定量してCa/Pを算出し、その意味づけができる。	△	◎	◎	○	△	△		
12	生体材料・歯科材料	生体材料・歯科材料の組成と性質について学び、更にそれぞれの組成からなる歯科材料の性質の詳細について学ぶ。	1) 歯科用石膏の種類とそれぞれの性質について説明できる。 2) 印象材の種類とそれぞれの性質について説明できる。 3) 義歯床用材料の種類とそれぞれの性質について説明できる。 4) 成形歯冠修復材料の種類とそれぞれの性質について説明できる。 5) 歯科用セメントの種類とそれぞれの性質について説明できる。 6) 歯科用合金の種類とそれぞれの性質について説明できる。 7) 歯科用合金の熱処理のメカニズムについて説明できる。 8) ろう付けの原理について説明できる。 9) 鋳造法について説明できる。 10) 鋳造欠陥の種類とそれぞれの原因・特徴について説明できる。 11) 歯科用ワックスの種類とそれぞれの性質について説明できる。		◎	○					

			<p>12)埋没材の種類とそれぞれの性質について説明できる。</p> <p>13)歯科用陶材の種類とそれぞれの性質について説明できる。</p> <p>14)歯科用インプラント材料の性質について説明できる。</p> <p>15)CAD/CAM システムの原理とその材料について説明できる。</p> <p>16)再生医療、生体移植用材料について説明できる。</p>						
13	歯の欠損	<p>歯は咀嚼器官として、また発語器官として機能し、さらには審美的な面や心理的な面にも影響を及ぼす。したがって、歯が欠損すると心身にさまざまな不具合が生ずる。そして、損なわれた形態と機能を回復するために歯科治療、なかでも歯科補綴治療が必要になる。</p> <p>そこで、臨床学科への最初の入り口として、歯科補綴学ならびに関連諸学科を学ぶための足がかりとして歯科的な常識とでも呼ぶべき基本的な事項を習得する。</p> <p>到達目標・歯科補綴学の基本的な事項を説明できる。</p>	<p>1)顎口腔系を構成する組織器官について説明できる。</p> <p>2)歯の欠損の原因について説明できる。</p> <p>3)歯質や歯の欠損に対する歯冠修復の概要について説明できる。</p> <p>4)可撤性義歯の概要について説明できる。</p> <p>5)歯科インプラントの概要について説明できる。</p> <p>6)顎口腔領域の基本的な構造と機能を説明できる。</p> <p>7)歯の欠損に伴う硬組織と軟組織の形態的变化について説明できる。</p> <p>8)歯の欠損によって生じる障害の概要について説明できる。</p> <p>9)咀嚼機能の評価法を説明できる。</p> <p>10)歯の欠損に伴う咀嚼機能の変化について説明できる。</p> <p>11)構音器官としての口腔の形態と機能を説明できる。</p> <p>12)発語機能の評価法を説明できる。</p> <p>13)歯の喪失に伴う顔貌と口腔内の変化を説明できる。</p> <p>14)歯の喪失に伴う心理面への影響を説明できる。</p> <p>15)歯科補綴学に関連する基準点について説明できる。</p> <p>16)歯科補綴学に関連する基準線について説明できる。</p> <p>17)歯科補綴学に関連する基準面について説明できる。</p> <p>18)天然歯列と人工歯列の咬合彎曲について説明できる。</p> <p>19)Bonwill 三角、Balkwill 角について説明できる。</p> <p>20)歯科補綴学に関連する下顎位について説明できる。</p> <p>21)下顎の限界運動について説明できる。</p> <p>22)下顎の基本運動について説明できる。</p> <p>23)下顎の機能運動について説明できる。</p> <p>24)下顎運動について説明できる。</p> <p>25)咬合の基本的事項について説明できる。</p> <p>26)被蓋について説明できる。</p> <p>27)機能咬頭と剪断咬頭について説明できる。</p> <p>28)咬合様式について説明できる。</p> <p>29)咬合器の分類と性能について説明できる。</p> <p>30)どの咬合器を使用すべきかを説明できる。</p> <p>31)アルコン型咬合器とコンダイラー型咬合器について説明できる。</p>	○	○	◎			
14	実習：歯冠形成	<p>歯科補綴治療の主目的である、歯列と咬合の修復と保全について理解を深め、診療技術を高めるために、歯冠形態・歯列内における歯の相互の位置関係・咬合関係・歯冠形態と顎運動との協調性についての知識、および器材の扱い方を習得する。</p>	<p>1)歯科医になる者としての自覚を持って、実習にふさわしい身だしなみで臨むことができる。</p> <p>2)実習機の使用方法、実習器材の名称と使用目的を説明できる。</p> <p>3)歯列模型の役割を説明できる。</p> <p>4)咬合器の基本構造と役割を説明できる。</p> <p>5)生体の顎口腔系と、歯列模型・咬合器との対応関係について説明できる。</p> <p>6)石膏を適切に扱うことができ、模型の咬合器への装着ができる。</p> <p>7)インレーワックスとワックスアップ用器具を正しく扱うことができる。</p> <p>8)歯冠形態の造形手順を説明できる。</p> <p>9)歯冠の解剖的特徴を、立体的に造形して表現することができる。</p> <p>10)歯冠形態が、歯列のなかで調和しているかを判定できる。</p> <p>11)咬合関係が適切であるかを診断できる。</p>	○	◎	◎		○	

			<p>12) 咬合紙の使用方法を説明できる。</p> <p>13) 理想的な咬合接触状態を説明できる。</p> <p>14) 機能的な歯冠形態について説明できる。</p>									
15	社会と歯学	<p>人々の健康づくりやヘルスプロモーションをすすめていくために必要な一般衛生学、公衆衛生学、予防医学、および社会医学的な手法を身につけるために、歯科医師が健康づくりに関係する人々と協調して、臨床および社会において人々の健康づくりを支援できる知識と技術・態度を修得する。</p>	<p>1) 人をとりまく環境と健康で過ごすための方法を説明できる。</p> <p>2) 健康の概念と健康の保持増進の意義について説明できる。</p> <p>3) 疫学と科学的根拠に基づいた医療 (EBM: Evidence-based Medicine) の応用を説明できる。</p> <p>4) 感染症の成立、伝播形式を説明できる。</p> <p>感染症の予防、ワクチン、サーベイランスを説明できる。</p> <p>5) 生活習慣病予防と健康管理の重要性について説明できる。</p> <p>6) 温熱環境と生体との関係を説明できる。</p> <p>空気の正常成分の変動と異常成分を説明できる。</p> <p>水、上下水道と生活を説明できる。</p> <p>7) 公害とは、公害予防のための仕組みを説明できる。</p> <p>8) 国民の栄養の現状と食事摂取基準について説明できる。</p> <p>9) 食中毒および食品の保存について説明できる。</p> <p>10) 将来の人口構造の変化について説明できる。</p> <p>11) 母子保健の水準、対策の現状を説明できる。</p> <p>12) 学校保健活動における保健教育、保健管理、学校安全について説明できる。</p> <p>13) 成人・老人保健に関する法令、制度を説明できる。</p> <p>14) 産業保健の法令、組織、健康管理・職業病・THP を説明できる。</p> <p>15) 社会保障制度の概要、歴史、制度を説明できる。</p> <p>16) 口腔衛生学の意味と内容を説明できる。</p> <p>予防の水準、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションを説明できる。</p> <p>17) 健康、歯口の健康、ライフスタイルを説明できる。</p> <p>18) 歯の表層の性質、萌出後の成熟、再石灰化を説明できる。</p> <p>19) 歯の沈着物の種類、歯垢の成立・代謝・意義を説明できる。</p> <p>20) う蝕の原因・症状・疫学・予防法を説明できる。</p> <p>21) 個人のお蝕リスクを評価する方法を説明できる。</p> <p>22) 歯周疾患その他の疾患の原因・症状・疫学・予防法を説明できる。</p> <p>23) う蝕予防処置法、フッ化物の歯科へ用いられるようになった由来と予防メカニズムを説明できる。</p> <p>24) フッ化物の応用法の種類、応用法および注意事項について説明できる。</p> <p>25) 鍍銀法、小裂溝鎮塞法の種類、予防効果について説明できる。</p> <p>26) 国民栄養調査、食生活について説明できる。</p> <p>27) 食生活と歯科疾患との関係について説明できる。</p> <p>28) 歯口清掃の意義、注意事項、歯磨剤について説明できる。</p> <p>29) 歯口清掃の方法、歯口清掃補助用具の使い方について説明できる。</p> <p>30) 歯・口腔の健康をあらわす指数の条件、種類について説明できる。</p> <p>31) 歯・口腔の健康をあらわす指数の応用法、使用上の注意について説明できる。</p> <p>32) 疫学の方法論、分析法を説明できる。</p> <p>33) 早(初)期う蝕診断、検診の種類、検出基準、検出誤差、調査法を説明できる。</p> <p>34) 検診、調査結果の分析法を説明できる。</p> <p>35) 統計調査資料の活用法について説明できる。</p> <p>36) 公衆衛生活動の手順、地域展開法を説明できる。</p> <p>37) 衛生教育、健康づくり、ヘルスプロモーションのねらい、方法・展開法を説明できる。</p> <p>38) 母子歯科保健の法・制度、水準、指導法を説明できる。</p> <p>39) 学校保健の法令・保健教育を説明できる。</p> <p>40) 児童・生徒・学生の歯・口腔の健康づくりに関する学校保健管理を説明できる。</p>					○	◎	○	○	○

			<p>41) 成人・老人の歯科保健対策を説明できる、生活習慣病の改善指導を説明できる。 8020、寝たきり老人、高齢者への保健指導を説明できる。 42) 保健所の活動・歯科活動を説明できる。 43) 産業歯科活動の法令・職業性歯科疾患を説明できる。 44) 医療の国際協力と歯科活動を考える。 45) 市町村の活動・歯科活動を説明できる。 46) 社会科学的な視点で歯科を考えることを説明できる。 47) 医療需要の特異性、医療需要を左右する因子について説明できる。 48) 法の種類、歯科医師と法的義務、保険医療情報の取り扱いを説明できる。 49) 医療法、医師法・薬剤師法・保健師助産師看護師法を説明できる。 50) 医療関係者と個人情報保護について説明できる。 51) 歯科の医療経済の特異性、それを左右する因子について説明できる。 52) 社会保障制度の内容について説明できる。 53) 社会保障制度のうち社会福祉について説明できる。 54) 社会保障制度のうち介護保険制度について説明できる。 55) 歯科医療管理の中で歯科医療のシステムの実際について説明できる。 56) 歯科医療における滅菌・消毒、院内感染の予防を説明できる。 57) 歯科医療の中で歯科医院における人事管理について説明できる。 58) 歯科医療における保険診療の字際を説明できる。 59) 歯科診療における医事紛争の原因と予防について説明できる。 60) 歯科医療における医療倫理とその特異性を説明できる。</p>								
16	歯科基礎科学	第一学年で習ったことを踏まえて、歯科医学を修得するための基礎科学としての生物学・物理学・化学を学ぶ。	<p>1) 動物の行動を遺伝的要因と環境要因から説明できる。 2) 生物の進化と多様性について説明できる。 3) 進化の基本的な考え方を説明できる。 4) 力のつりあいと回転運動について説明できる。 5) 光の伝搬特性と波動特性について説明できる。 6) 熱の性質および伝達の法則について説明できる。 7) 電場と地場の性質を説明できる。 8) 粒子性と波動性について説明できる。 9) 原子の構造について説明できる。 10) 電子・電子殻・電子軌道について説明できる。 11) 化学結合について説明できる。</p>			◎	○				
17	情報の科学	パソコンを利用して情報を得る方法と発信する方法を学ぶための知識、技能および態度を修得する。	<p>1) ハードウェアの構成を説明できる。 2) ソフトウェアの役割について説明し、操作できる。 3) データファイルの作成、複写、移動ができる。 4) キーボードの基本操作ができる。 5) インターネットシステムの概要、問題点、危険性、使用上のマナーを説明できる。 6) アカウントとパスワードを説明できる。 7) パスワードの管理ができる。 8) 電子メールを送受信し、添付ファイルを扱うことができる。 9) WWW ブラウザを使うことができる。 10) 検索エンジンを使って必要な情報を探し出すことができる。 11) ワードプロソフトを使い、文書ファイルの作成や保存ができる。 12) 表計算ソフトを使い、作表、計算式を埋め込みとグラフ化できる。 13) プレゼンテーションソフトを使い、発表することができる。</p>			○	◎	◎	◎	◎	
18	医の原則	歯科医師に対する社会の要請に応えるために、患	<p>1) 近代から現代に至る医学(歯科医学)と医療(歯科医療)の発展の過程を説明できる。 2) 種々の先端医療の現状、利点および問題点について説明できる。</p>			◎	△	△	◎	○	◎

		者の診療にあたって心得ておかなければならない 歯科医師としての倫理を 修得する。	<ul style="list-style-type: none"> 3) 人間としての倫理、医療人としての倫理を理解した上で、法と倫理の違いを説明できる。 4) 医師の義務を踏まえながら、患者の権利・責務・義務、および自己決定権について説明できる。 5) インフォームド・コンセントについて説明できる。 6) 歯科医師の義務と裁量権について説明できる。 7) 末期患者の苦痛を理解した上で、病気の告知についてどのようにすべきか説明できる。 8) 病院内での感染予防について説明できる。 9) ターミナルケアにおける安楽死と尊厳死について説明できる。 10) 死の判定について、脳死と植物状態の違いを含めて説明できる。 11) チーム医療と医療保障について説明できる。 12) 遺伝子検査・遺伝子治療について説明できる。 							
19	歯科医療 における 安全性	安全な歯科医療を患者に 提供するための安全管理 体制と危機管理について 学ぶこと。	<ul style="list-style-type: none"> 1) 医療事故の概念について説明できる。 2) 医療事故はどのような状況でおこりやすいかを説明できる。 3) 医療事故を防止するには、個人の注意力はもとより組織的なリスク管理が必要であることを説明できる。 4) 医療機関における安全管理体制を概説できる。 5) 医療事故に関連した法律の基本的事項を説明できる。 6) 歯科患者における院内感染と対策について説明できる。 							
3 年生	20	病因・病 態・診断	<p>口腔を含む全身の疾患を 理解するために、疾患の 予防、診断、治療を主とし た臨床歯科医学の基本的 知識を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 細胞傷害と組織傷害および萎縮の原因と形態的所見について説明できる。 2) 修復と再生の意義とこれらの形態的所見を説明できる。 3) 循環障害の成因、形態およびその転帰を説明できる。 4) 炎症の概念、発症機構および病理組織学的特徴を説明できる。 5) 感染によって生じる病態を説明できる。 6) 免疫の概念を説明できる。 7) 腫瘍の病因と病態を説明できる。 8) 加齢に伴う変化を説明できる。 9) 歯と歯周組織に生じる疾患の概要を説明できる。 10) tooth wear の原因と症状を説明できる。 11) 口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。 12) 歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。 13) 歯の発育障害と加齢変化の病因と病態を説明できる。 14) 歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。 15) 歯周疾患の病因と病態を説明できる。 16) 顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を説明できる。 17) 顎骨に発生する非歯原性嚢胞の種類と特徴を説明できる。 18) 軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。 19) 歯原性腫瘍の種類と特徴を説明できる。 20) 非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を説明できる。 21) 腫瘍類似疾患の種類と特徴を説明できる。 22) エプーリスの特徴と症状を説明できる。 23) 前癌病変の特徴と症状を説明できる。 24) 前癌状態の種類と特徴を説明できる。 25) 口腔癌の特徴と症状を説明できる。 26) 口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類を説明できる。 27) 唾液腺腫瘍の種類と特徴を説明できる。 	◎	◎	◎	◎	△	○	
	21	実習・病 因・病態・ 診断	口腔を含む全身の疾患を 理解するために、疾患の 予防、診断、治療を主とし	<ul style="list-style-type: none"> 1) 細胞傷害と組織傷害および萎縮の形態的所見について説明できる。 2) 修復と再生の形態的所見を説明できる。 3) 循環障害の形態を説明できる。 4) 炎症の病理組織学的特徴を説明できる。 	◎	◎	◎	◎	△	○

		た臨床歯科医学の基本的知識を習得する。	<p>5) 感染によって生じる病態を説明できる。</p> <p>6) 免疫の病態を説明できる。</p> <p>7) 腫瘍の病態を説明できる。</p> <p>8) 加齢に伴う変化を説明できる。</p> <p>9) 歯と歯周組織に生じる疾患の概要を説明できる。</p> <p>10) tooth wear の病態を説明できる。</p> <p>11) 口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。</p> <p>12) 歯の硬組織の疾患の病態を説明できる。</p> <p>13) 歯の発育障害と加齢変化の病態を説明できる。</p> <p>14) 歯髄・根尖歯周組織疾患の病態を説明できる。</p> <p>15) 歯周疾患の病態を説明できる。</p> <p>16) 顎骨に発生する歯原性嚢胞の特徴を説明できる。</p> <p>17) 顎骨に発生する非歯原性嚢胞の特徴を説明できる。</p> <p>18) 軟組織に発生する嚢胞の特徴を説明できる。</p> <p>19) 歯原性腫瘍の特徴を説明できる。</p> <p>20) 非歯原性良性腫瘍の特徴を説明できる。</p> <p>21) 腫瘍類似疾患の特徴を説明できる。</p> <p>22) エプーリスの特徴を説明できる。</p> <p>23) 前癌病変の特徴を説明できる。</p> <p>24) 前癌状態の特徴を説明できる。</p> <p>25) 口腔癌の特徴を説明できる。</p> <p>26) 口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類を説明できる。</p> <p>27) 唾液腺腫瘍の種類と特徴を説明できる。</p>							
22	感染と免疫	細菌、真菌、ウイルス、および免疫機構を学ぶことによって、基本的な生命科学の原理を理解し、歯科領域における感染症の発症メカニズム、治療法および予防法を確立するための必要な知識を習得する。	<p>1) 真核生物と原核生物の違いについて説明できる。</p> <p>2) 原核生物である細菌細胞の構造の基本について説明できる。</p> <p>3) グラム陰性及び陽性菌の構造と機能について説明できる。</p> <p>4) 代表的な細菌の培養方法について説明できる。</p> <p>5) タンパク質と核酸代謝の概要について説明できる。</p> <p>6) 微生物を利用した遺伝子操作の概要について説明できる。</p> <p>7) 細菌のエネルギ獲得の概要について説明できる。</p> <p>8) 医科歯科における感染防御としての滅菌・消毒の概要について説明できる。</p> <p>9) 化学療法の概要について説明できる。</p> <p>10) ウイルスの特徴と構造・増殖の概要について説明できる。</p> <p>11) 代表的な DNA ウイルスを列挙し、説明できる。</p> <p>12) 代表的な RNA ウイルスを列挙し、説明できる。</p> <p>13) 免疫機構の概略について説明できる。</p> <p>14) 自然免疫と獲得免疫を説明できる。</p> <p>15) 細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。</p> <p>16) アレルギの種類の列記し、説明できる。</p> <p>17) 代表的な真菌症、原虫症を起こすものを列記し、説明できる。</p>			◎	○	○		
23	実習:感染と免疫	細菌、真菌、ウイルス、および免疫学に関する実技を学ぶことによって、基本的な生命科学の原理を理解し、歯科医療に従事す	<p>1) グラム染色を行うことができる。</p> <p>2) 特殊染色で染色される菌体構造物について説明できる。</p> <p>3) スピロヘータなどの運動性細菌の運動性を説明し、位相差顕微鏡で観察できる。</p> <p>3) カンジダ菌の特徴を説明できる。</p> <p>4) 細菌の生化学的反応を説明できる。</p>			○	◎	○		

		<p>る際に必要な知識を習得する。</p>	<p>5)PCR 反応を説明できる。 6)抗体の特異性を説明できる。 7)抗菌薬の作用機序を説明できる。 8)口腔細菌の培養を行うことができ、グラム染色を行い顕微鏡で観察することができる。 9)歯肉溝と唾液中の微生物の種類の違いについて説明できる。 10)口腔微生物に対する消毒薬の効果について説明できる。 11)口腔細菌の各種糖および糖アルコールの発酵能について説明できる。 12)口腔細菌の不溶性グルカンを介した管壁付着能について、その機構を説明できる。 13)プラスミド DNA の制限酵素による切断を行い、制限酵素の性質について説明できる。 14)遺伝子の切断と電気泳動を行い、その原理と手法について説明できる。 15)インフルエンザウイルスの感染機構を説明できる。 16)ウイルスの力価について説明できる。</p>							
24	生体と薬物	<p>薬理学は生体に対する化学物質(薬物)の作用を研究する学問であり、薬物の作用機序を知るために薬物が生体のどこで、どのように作用するのかを研究することを特徴としている。この特徴を有する薬理学では、基礎医学の知識を用いた総合的な薬理作用の理解および薬物に関する十分な知識を得ることにより、歯科医療あるいは研究活動において薬物を適切に使用する能力を身に付けることを目的としている。</p>	<p>1)医学歯学における薬理学の意義および歯科医療との関連について説明できる。 2)医薬品の定義と日本薬局方の概要を説明できる。 3)薬理作用の基本形式を説明できる。 4)薬理作用と用量の関係を説明できる。 5)薬物-受容体の相互作用および、受容体の種類とその細胞内情報伝達系を説明できる。 6)受容体を介する薬理作用の機序と受容体を介さない機序を説明できる。 7)自律神経系の特徴と支配臓器、カテコールアミンやアセチルコリンの合成と代謝を説明できる。 8)アドレナリン受容体に直接あるいは間接的に作用してアドレナリンと同様な作用を表す薬物およびアドレナリン時の作用を遮断する薬物について説明できる。 9)アセチルコリン受容体に直接あるいは間接的に作用してアセチルコリンと同様な作用を表す薬物およびアセチルコリン時の作用を遮断する薬物について説明できる。 10)薬物の代表的な吸収経路と生体内における分布について説明できる。 11)薬物の代謝、と排泄について説明できる。 12)薬物の反復投与や併用により生じる現象を説明できる。 13)睡眠薬と鎮静薬の作用に関する基本的事項を説明できる。 14)向精神薬の作用に関する基本的事項を説明できる。 15)抗痙攣薬および痙攣誘起薬の作用に関する基本的事項を説明できる。 16)中枢性筋弛緩薬、中枢性興奮薬および認知症治療薬の作用に関する基本的事項を説明できる。 17)心血管系に作用する薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。 18)高血圧の治療薬の作用に関する基本的事項を説明できる。 19)体液の平衡に影響する薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。 20)造血と血液機能に関する薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。 21)脂質異常症治療薬およびビタミンの作用に関する基本的事項を説明できる。 22)骨粗鬆症治療薬の作用に関する基本的事項を説明できる。 23)唾液腺に作用する薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。 24)消化器に作用に関する基本的事項を説明できる。 25)呼吸器系に作用する薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。 26)カルシウム代謝調節ホルモン、性ホルモンおよび関連薬物に関する基本的事項を説明できる。 27)血糖値調節ホルモン、副腎皮質ホルモンおよび関連薬物に関する基本的事項を説明できる。 28)ヒスタミン、セロトニン、アンジオテンシン、ブラジキニン、サイトカイン類などのオータコイドおよびその関連薬物に関する基本的事項を説明できる。 29)プロスタグランジン類、ロイコトリエン類、トロンボキサン類などの脂肪酸類およびその関連薬物に関する基本的事項を説明できる。 30)一般薬理学における基本的事項に関する知識を整理し説明できる。</p>				◎	○	○	

			<p>31) 消毒薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>32) 局所麻酔薬の作用および、その副作用・有害作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>33) 全身麻酔薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>34) 止血薬および筋弛緩薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>35) 麻薬性鎮痛薬の作用に関する基本的事項を説明できる。。</p> <p>36) 解熱性鎮痛薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>37) ステロイド性抗炎症薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>38) 非ステロイド性抗炎症薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>39) 抗菌薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>40) 歯科疾患に適用される経口抗菌薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>41) 臨床上の緊急事態の対応に使用される薬物に関する基本的事項について説明できる。</p> <p>42) 抗悪性腫瘍薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>43) 抗真菌薬および抗ウイルス薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>44) 齶蝕および口内炎の予防および歯周治療に使用される薬物に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>45) 薬物の併用と相互作用に関する基本的事項を説明できる。</p>						
25	実習: 生体と薬物	<p>講義で学習した薬物について、実験を通して具体的に薬物の効果を詳細に観察し、薬理作用を統合的に理解すること、および実験結果をまとめ考察する力を養うことを目的としている。</p>	<p>1) 動物実験の心得、実習における一般的注意事項を説明できる。</p> <p>2) 腸管平滑筋に作用する薬物の作用機序を説明できる。</p> <p>3) 血管平滑筋に作用する薬物の作用機序を説明できる。</p> <p>4) 抗炎症薬、抗アレルギー薬の作用機序を説明できる。</p> <p>5) 血圧に作用する薬物の作用機序を説明できる。。</p> <p>6) 局所麻酔薬の作用機序を説明できる。</p> <p>7) 局所麻酔時の合併症とその対応について説明できる。</p> <p>8) 種々の方法で適用された薬物の生体内運命を説明できる。</p> <p>9) 心臓に作用する薬物の作用機序を説明できる。</p> <p>10) 鎮痛薬の作用機序を説明できる。</p> <p>11) 鎮痛薬の一般的副作用、有害作用を説明できる。</p> <p>12) 薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>13) 薬理作用を規定する要因(用量と反応、感受性)および薬物の併用(拮抗作用)を説明できる。</p> <p>14) 薬物の効果を規定する要因としての心理的影響を説明できる。</p> <p>15) 薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。</p>		◎	○	○		
26	実習: 生体材料・歯科材料	<p>2年次に学習した講義内容について、実際に材料に触れることによって、それらの取扱い法および性質についてを学ぶ。</p>	<p>1) 印象材の種類とそれぞれの練和法および性質について説明できる。</p> <p>2) 歯科用石膏の種類とそれぞれの性質について説明できる。</p> <p>3) 義歯床用材料であるアクリルレジン組成と性質について説明できる。</p> <p>4) 成形歯冠修復材料であるコンポジットレジンの組成と性質について説明できる。</p> <p>5) インレーワックスの応力緩和による変形について説明できる。</p> <p>6) 歯科用セメントの組成および性質について説明できる。</p> <p>7) 加工効果と熱処理硬化のメカニズムの違いについて説明できる。</p> <p>8) 鑄造の一連の行程を理解し、鑄造収縮と埋没材の総合膨張との関係について説明できる。</p> <p>9) 固定ろう付けおよび自在ろう付けの手技を取得し、それぞれの原理について説明できる。</p>		◎	◎			
27	硬組織疾患の病態と診断	<p>歯の硬組織に生じる様々な疾患の病態を知るために、それら検査法、診断や治療法を学習し、その基本を修得する。</p>	<p>歯の硬組織に生じる様々な疾患の病態と、それらの検査法、診断や治療法について理解する</p> <p>1) 歯の硬組織疾患の概要を説明できる。</p> <p>2) う蝕症の発症、進行のメカニズム、原因を知り、各ステージにおける病態を説明できる。</p> <p>3) う蝕とう窩の違いを理解し、各々を説明できる。</p> <p>4) 高齢者のう蝕についての概要を説明できる。</p> <p>5) う蝕症の診断に関わる検査法を列挙し各々を説明できる。</p> <p>6) う蝕症における脱灰と再石灰化について説明できる。</p>		○	○	◎	△	○

			<p>7)う蝕の予防、再発抑制について説明できる</p> <p>8)歯の損耗症の病態ならびに対応法を説明できる。</p> <p>9)象牙質知覚過敏症の病態ならびに対応法を説明できる。</p> <p>10)歯の破折の種類と対応について説明できる。</p> <p>11)歯の形成異常の種類を説明できる。</p> <p>12)変色歯の臨床的な分類を説明できる。</p> <p>13)硬組織切削法を列挙し、各々の特徴を説明できる。</p> <p>14)歯髄・象牙質の保護と修復方法について説明できる。</p> <p>15)術野隔離法、歯肉排除法、歯間分離法、隔壁法に必要な機材を列挙し、説明できる。</p> <p>16)直接法修復と間接法修復について説明できる。</p> <p>17)接着性修復、非接着性修復について説明できる。</p> <p>18)「窩洞」の意義、種類、具備すべき条件について説明できる。</p> <p>19)アマルガム修復について説明できる。</p> <p>20)水銀汚染とその対策について説明できる。</p> <p>21)レジン材料の特徴、材料の分類を説明できる。</p> <p>22)レジン材料と歯質(エナメル質、象牙質)、他の修復材料(セラミクス、金属、セメント等)との接着メカニズムを理解し、その原理を説明できる。</p> <p>23)レジン材料と接着を用いた修復方法の種類と概要を説明できる。</p> <p>24)レジン修復後の術後の変化について説明できる。</p> <p>25)内分泌攪乱作用(環境ホルモン)について説明できる。</p>							
28	実習:硬組織疾患の病態と診断	「硬組織疾患の病態と診断」の講義で学習した事項について理解を深めるため、模型歯やシミュレーターなどを利用して実習し、知識を深める。また、硬組織疾患の診断や治療のための器機の基本的な使用方法を学び、手技の修練をする。	<p>硬組織疾患の診断や治療のための器機の基本的な使用法や基礎的な治療法について実施することができる。</p> <p>1) 器械・器具の名称と用途を的確に言える。またそれらの把持法や整理が正しくできる。</p> <p>2) エアータービン、マイクロモーターの構造を理解し、これらを正しく保持できる。</p> <p>3) 切削器具の取扱い、診療の姿勢保持が正しく行える。</p> <p>4) う窩の構造を説明し、除去すべき病的歯質を指摘できる。</p> <p>5) う窩の開拡、感染象牙質除去が正しく行える。</p> <p>6) ラバーダムについて理解し、その基本的な操作ができる。</p> <p>7) 各種修復補助法について、正しく操作できる。</p> <p>8) カリエスリスク検査の意義と目的を説明し、実施できる。</p> <p>9) 各種歯科用セメントについて正しく操作できる。</p> <p>10) 各種接着材について、それぞれの接着のメカニズムを理解し、正しく操作できる。</p> <p>11) 正確にレジンを充填し、解剖学的形態を付与できる。</p> <p>12) レジンの重合収縮など、材料的特性を理解し、これらに対応した基本操作ができる。</p> <p>窩洞の基本的概念し、正しく形成できる。</p>		○	◎	◎	△	○	
29	歯周組織の常態、病態と病因	歯周病の診断・治療を理解し学習するために、基礎系科目で学んだ知識を歯周病学の分野に当てはめてゆくことで、歯周組織の構造、歯周病の病態と病	<p>1) 歯周疾患の特徴と症状を説明できる。</p> <p>2) 歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。</p> <p>3) 歯肉、歯根膜、セメント質、歯槽骨の機能について説明できる。</p> <p>4) 歯周疾患の病因と病態および進行の機序を説明できる。</p> <p>5) 歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。</p> <p>6) 歯周組織に特徴的な免疫応答について説明できる。</p> <p>7) 歯肉炎・歯周炎の初発因子と修飾因子を説明できる。</p>	○	○	◎	◎	○	○	

		<p>因を学び、基礎的知識を習得する。</p>	<p>8) プラーク付着・形成・成熟過程を説明できる。 9) 咬合性外傷の原因と病態および進行の機序を説明できる。 10) 歯周病と関連する全身疾患を列挙できる。 11) 歯周炎に喫煙が及ぼす影響を説明できる。 12) 禁煙指導・支援の重要性を説明できる。 13) 歯周病の検査の目的について説明できる。 14) 歯周組織検査の検査項目を列挙し、それぞれの項目を測定する意義を説明できる。 15) 咬合・フレミタスの検査法について説明できる。 16) 健全な歯周組織および歯周病に関連するエックス線写真所見を説明できる。 17) 日本歯周病学会の歯周病分類で示される疾患について説明できる。 18) 口臭の発生機序について説明できる。 19) 口臭症の分類とその治療法について説明できる。</p>						
30	全部欠損補綴	<p>無歯顎者に関する基礎的な事項と、診療に必要な知識や心構え、全部床義歯の特徴と製作法を習得する。</p>	<p>1) 顎口腔領域の加齢変化について説明できる。 2) 無歯顎者の解剖について説明できる。 3) 全部床義歯の構成要素について説明できる。 4) 全部床義歯の維持、安定について説明できる。 5) 主訴、既往歴、現症、検査について説明できる。 6) 全部床義歯の製作順序について説明できる。 7) 無歯顎補綴における診断について説明できる。 8) 無歯顎補綴における治療計画について説明できる。 9) 印象採得の考え方について説明できる。 10) 印象採得の種類と術式について説明できる。 11) 仮想咬合平面について説明できる。 12) 咬合採得を行う下顎位について説明できる。 13) 咬合採得法について説明できる。 14) 咬合器の種類と特徴について説明できる。 15) 咬合器装着法について説明できる。 16) 義歯の咬合について説明できる。 17) 人工歯選択について説明できる。 18) 人工歯の排列法について説明できる。 19) 歯肉形成の目的と方法について説明できる。 20) 蝸義歯試適時の検査事項について説明できる。 21) 義歯の埋没法について説明できる。 22) 義歯の重合法について説明できる。 23) 咬合器再装着について説明できる。 24) 人工歯削合について説明できる。 25) 義歯の咬合様式について説明できる。 26) 義歯の研磨法について説明できる。 27) 義歯装着時の検査について説明できる。 28) 義歯装着時の処置について説明できる。 29) 義歯装着時の指導について説明できる。 30) 義歯装着後の不快事項について説明できる。 31) 義歯装着後の不快事項への対応について説明できる。 32) 不具合となった義歯への改善法について説明できる。 33) 初診から術後管理までの流れについて説明できる。 34) 即時義歯について説明できる。 35) 治療義歯について説明できる。</p>	○	○	◎			

		<p>無歯顎者を対象とする全部欠損補綴治療に用いる全部床義歯について、義歯の形態や構造を理解し、製作手順と関連する器具の名称および操作法を習得する。 さらに、この補綴治療が作業模型と咬合器を使った間接法のうえに成り立っていること、咬合様式として両側性平衡咬合が重要であること、材料の理工学的性質を理解して操作すると作業効率が向上することを実習として学ぶ。 実習は、限られた時間と資源の中での全部床義歯の診療過程の一部分であるが、病院での臨床実習に必要なとされる基本的事項の多くを学習することになる。”</p>	<p>36)無歯顎者のインプラント義歯について説明できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)トレー用常温重合レジンの適切な操作ができる。 2)咬合床の構成を説明できる。 3)咬合床の標準的な形態を説明できる。 4)咬合床を製作できる。 5)仮想咬合平面の設定のための基準点・基準平面が説明できる。 6)仮想咬合平面設定のための器具の名称と操作方法が説明できる。 7)仮想咬合平面を設定できる。 8)下顎安静位法による咬合高径の設定の手順が説明できる。 9)平均値咬合器について説明できる。 10)咬合器の各部の構造と名称を説明できる。 11)咬合平面板を適切に設定できる。 12)模型を咬合器へ適切に装着できる。 13)スプリットキャスト法を説明できる。 14)オーバーバイトとオーバージェットを説明できる。 15)前歯部の咬合堤の適切な削除ができる。 16)前歯部人工歯を歯種の特徴をふまえて適切に排列ができる。 17)人工歯固着のための適切なワックス操作ができる。 18)調節彎曲が説明できる 19)臼歯部人工歯の排列ができる。 20)両側性平衡咬合の概念が説明できる。 21)咬合器を適切に操作することができる。 22)咬合紙による咬合接触の印記状態を判断できる。 23)上下の人工歯の咬合接触関係を記録できる。 24)審美的・機能的な歯肉形成について説明できる。 25)審美的・機能的な歯肉形成を行うことができる。 26)ろう義歯を適切にフラスクに埋没できる。 27)適切に流ろうができる。 28)適切なレジン分離材の塗布ができる。 29)レジンの填入時期を説明できる。 30)適切な填入をすることができる。 31)適切な重合操作を行うことができる。 32)適切な掘り出しのための器械器具の操作ができる。 33)スプリットキャストによる適切な咬合器再装着ができる。 34)重合収縮による咬合関係の変化が確認できる。 35)選択削合を適切に行うことができる。 36)自動削合を適切に行うことができる。 37)咬合小面の種類を区分できる。 38)3つの咬合小面をスケッチして記録できる。 39)埋没材の適切な除去ができる。 40)研磨器具の名称が説明できる。 41)研磨の手順が説明できる。 42)研磨面が適切に研磨できる。 						
31	実習:全部欠損補綴			○	○	◎			
32	部分欠損補綴	<p>部分床義歯学は、歯列の部分的な欠損部を可撤性義歯で補填・修復して、口腔の諸機能の回復・改善</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1)歯科補綴学の中での部分床義歯の特殊性と歴史的変遷を説明できる。 2)歯の欠損による具体的な生体の変化と義歯による形態的・機能的回復の機構を説明できる。 3)部分床義歯の構成要素を理解し、各部の名称およびその形状と機能を説明できる。 4)欠損様式と部分床義歯の分類を説明できる。 	△	○	○	○		

		<p>を図ることに関する理論と術式とを追及する、臨床歯科医学の一分野である。部分床義歯の適用対象は、1歯欠損から、1歯残存まで、その臨床的守備範囲は広い。本講義では、先ず歯列の部分的欠損によって生ずる顎口腔系の形態的・機能的病態を理解し、次いで、そこに適用される部分床義歯の形態と機能、およびその具体的な製作法を修得する。</p>	<p>5)支持、把握、維持機能の義歯を安定させる基本事項を理解し、生体の負担能力、特に部分床義歯に特有な残存歯部と欠損部との力学的調和の重要性を説明できる。 6)部分床義歯の各種の支台装置それぞれの名称と形態、適応性を説明できる。 7)線鉤、鑄造鉤の双方に関して、基本的な支台装置としての価値を理解し、それらの製作法、材料などを含め、その機能原理と荷重のバランスの重要性を説明できる。 8)磁性アタッチメントも含め、クラスプ以外の各種支台装置に関して説明できる。 9)部分床義歯の臨床手順の概要を理解し、各診査項目の意義と臨床手順を説明できる。 10)部分床義歯の設計に関する多様な論理とそれぞれの根拠を説明できる。 11)印象材、印象用トレー、咬合器など、各種の臨床術式とそれに関する材料、用具について、具体的な内容を説明できる。 12)義歯の完成までの手順を理解し、装着後の調整、修理、患者教育などを説明できる。</p>						
33	冠・橋義歯補綴	<p>歯の実質欠損、歯列の部分的欠如ならびに咬合の補調和などに起因する、顎口腔系の機能、審美性の障害に対し、冠・橋義歯補綴治療でその回復を図るための知識と、その際に必要となる処置法と補綴装置の調製技術を理解する。</p>	<p>1)クラウンブリッジ補綴学の定義と意義を説明できる。 2)クラウンブリッジ治療の歴史を説明できる。 3)クラウンブリッジ治療と健康科学とのかかわりを説明できる。 4)クラウンブリッジ治療の利益と不利益を説明できる。 5)クラウンブリッジ治療に関連するEBMを説明できる。 6)各種歯冠修復の臨床的意義と適応症を説明できる。 7)医療面接の意義と内容を説明できる。 8)各種検査の意義と内容を説明できる。 9)顎機能・咬合ならびに支台歯の評価・臨床診断について説明できる。 10)感染予防の基本的な考え方と補綴歯科治療における対策を説明できる。 11)クラウンブリッジの失敗の原因をあげることができる。 12)治療計画を左右する因子をあげることができる。 13)インフォームドコンセントの基本的な考え方を説明できる。 14)高齢者・要介護者におけるクラウンブリッジ補綴について説明できる。 15)クラウンブリッジ補綴における各種要件について説明できる。 16)種々の下顎位について説明できる。 17)下顎運動範囲と基本的な下顎運動について説明できる。 18)歯周組織の構成をあげ、それぞれについて説明できる。 19)クラウンブリッジ補綴歯科治療に先立ち実施する前処置の意義を理解する。 20)各前処置と実際の補綴歯科治療との関連を説明できる。 21)支台歯形成の目的と原則を説明できる。 22)歯頸部辺縁形態の分類と適応症を列挙できる。 23)歯質・歯髄・歯周組織への配慮を説明できる。 24)支台歯形成について説明できる。 25)支台築造について説明できる。 26)プロビジョナルレストレーションについて説明できる。 27)試適、仮着時の注意事項を説明できる。 28)仮着材の種類と特徴を説明できる。 29)印象材の種類と特徴について説明できる。 30)印象用器材について説明できる。 31)歯肉圧排の目的と方法について説明できる。 32)印象法の種類と特徴について説明できる。</p>	○	○	◎	◎	◎	○

			<p>33) 口腔内情報を記録する意義を説明できる。</p> <p>34) 顎間関係の記録(咬合採得)の意義を説明できる。</p> <p>35) 咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。</p> <p>36) 咬合・咀嚼障害の病因と病態について説明できる。</p> <p>37) 作業用模型の構成と要件を説明できる。</p> <p>38) 模型材の種類と性質を説明できる。</p> <p>39) 作業模型の種類と特徴を説明できる。</p> <p>40) 咬合器を分類し特徴を説明できる。</p> <p>41) ワックスの性質を説明できる。</p> <p>42) ワックスアップの種類と注意事項を説明し、行うことができる。</p> <p>43) 埋没材ならびに埋没法の種類と使用法を説明できる。</p> <p>44) 鑄造法の種類と方法を説明できる。</p> <p>45) 鑄造用金属の種類と特性を説明できる。</p> <p>46) 金属の研磨について説明できる。</p> <p>47) ブリッジについて説明できる。</p> <p>48) ポンティックの種類と選択基準を説明できる。</p> <p>49) ブリッジの連結方法と特徴を説明できる。</p> <p>50) 接着ブリッジについて説明できる。</p> <p>51) レジン前装冠について説明できる。</p> <p>52) 陶材焼付冠について説明できる。</p> <p>53) ジルコニアクラウンについて説明できる。</p> <p>54) ジャケットクラウンの製作法を理解する。</p> <p>55) ジャケットクラウンの支台歯への装着法を説明できる。</p> <p>56) オールセラミック修復について説明できる。</p> <p>57) CAD/CAM による補綴装置について説明できる。。</p> <p>58) クラウンブリッジを装着時の点検項目を列挙できる。</p> <p>59) 歯科用セメントの種類と特徴を説明できる。</p> <p>60) 術後管理の重要性を説明できる。</p> <p>61) リコールにについて説明できる。</p> <p>62) 問題発生の予防法を説明できる。</p> <p>63) クラウンブリッジの生存率について説明できる。</p>						
34	歯科臨床検査	<p>歯科臨床の現場ではその結果に基づいて病態的確な把握や評価(診断)、および治療が行われている。本科目は、各検査がどのような原理に基づいているのか、そして、どのように臨床で活用されているのかを学ぶ。</p>	<p>1) 凝固系、血小板、血管系に起因する疾患や病態の検査について説明できる。</p> <p>2) 血液生化学検査法、尿検査法と関連疾患、病態について説明できる。</p> <p>3) 口腔領域における感染性疾患、特異性炎の検査や診断について概略を説明できる。顎関節雑音および関連咀嚼筋の圧痛、顎運動域の測定方法など顎関節機能の総合評価、画像診断について説明できる。疼痛や日常生活支障度に関する検査法を説明できる。</p> <p>4) 免疫・アレルギー疾患と発生機序、検査法について説明できる。</p> <p>5) 腫瘤形成性疾患の病因、一般的症状、診断手順、治療法に必要な検査法を説明できる。</p> <p>6) 一般的小児顎顔面外傷の種類、症状、診断、治療に関する検査法について説明できる。</p> <p>7) 口腔を中心とした先天性疾患に関する、出生前、出生後、遺伝子検査および診断、遺伝カウンセリングの概要について説明できる。</p> <p>8) 摂食嚥下機能の分類、原因、診断(評価)および上部気道維持の正常な状態、障害の概要について説明できる。</p> <p>9) 歯科診療室における全身的偶発症、モニターの計測法および計測値の意味について説明できる。</p> <p>10) 肺機能に関する検査と診断および歯科治療に際して異常な肺機能を持つことの影響について説明できる。</p> <p>11) 動脈血ガス分析値、生体内の酸素の移動、アシドーシス、アルカローシスについて説明できる。</p>			△	◎	○	

			<p>12) 歯科で 사용되는放射線の種類、人体への影響、各種画像検査、X線検査と診断の概要について説明できる。</p> <p>13) 歯の硬組織疾患の病因、病態を説明できる。歯髄・根尖歯周組織疾患の病因、病態、症状、診断、治療法と歯痛の機序を説明できる。</p> <p>14) 歯周疾患の病因、病態、診断、治療方針および検査法とメンテナンス法について説明できる。</p> <p>15) 咬合、咀嚼の概要、咬合検査の目的と方法および咀嚼能力検査の目的と方法について説明できる。</p>							
35	顎顔面部の成長発育と不正咬合	不正咬合の予防と改善について考究するために、顎顔面頭蓋の成長発育とそれに伴う咬合の育成、ならびに不正咬合の成因、身体への影響を探求し、基礎的な知識を修得する。	<p>1) 歯科矯正学の定義を説明できる。</p> <p>2) 不正咬合に伴って生じる障害を理解し、矯正歯科治療の目的と意義を説明できる。</p> <p>3) 成長発育の定義について説明できる。</p> <p>4) 頭部(脳頭蓋・顔・顎)の成長発育を説明できる。</p> <p>5) 歯列と咬合の成長発育を説明できる。</p> <p>6) 正常咬合の概念、成立・保持条件を説明できる。</p> <p>7) 不正咬合の原因、種類、診察、検査を説明できる。</p> <p>8) 不正咬合の症例分析結果の評価を行うことができる。</p> <p>9) 不正咬合の診断、治療法の立案および予防法を説明できる。</p> <p>10) 矯正力による全身および局所的反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。</p> <p>11) 矯正治療に必要な力学を説明できる。</p>	○		○	◎			
36	不正咬合の診断と治療	不正咬合の予防と改善のために、必要となる診断、治療方針・方法の策定ならびに治療の実際について学習する。	<p>1) 矯正治療における固定の定義、意義、種類について説明できる。</p> <p>2) 矯正治療の種類、開始時期、流れについて説明できる。</p> <p>3) 乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期の治療について説明できる。</p> <p>4) 外科的矯正治療、先天性疾患に起因する不正咬合の治療について説明できる。</p> <p>5) 矯正治療における抜歯の目的と意義、必要生について説明できる。</p> <p>6) 抜歯・非抜歯の判定基準について説明できる。</p> <p>7) さまざまな矯正装置の基本構成、作用機序、使用方法、適応について説明できる。</p> <p>8) 矯正治療における保定の必要生と意義、種類を説明できる。</p> <p>9) 矯正治療の偶発症、起こりうる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。</p> <p>10) 矯正治療に用いる器具・器材の名称と使用方法、材料の特性を説明できる。</p> <p>11) 矯正治療後の評価方法について説明できる。</p>	○		○	◎			
37	実習:社会と歯学	2年生、3年生で学習した社会と歯学(衛生学・口腔衛生学)の知識を実際に応用できるようにするために、各実習内容に関する方法技術を実習形式にて修得する。	<p>1-2) 社会と歯学(衛生学、口腔衛生学、社会歯科学)の実技、口腔衛生学・衛生学の実習、器具の使用、研究診査ができる。</p> <p>3-7) 研究計画を立案し、実施(実験・測定)することができる。</p> <p>8-9) 各検定方法(t検定、カイニ乗検定、相関係数の有意性検定)を実施するとともにその内容を説明できる。</p> <p>10-11) う蝕の検出、CPIの検出とその誤差の原因と対策について説明できる。</p> <p>12-13) フッ化物物局所塗布、小裂溝充填およびRDテスト、グルコースクリアランスについて説明できる。</p> <p>14-15) グループ毎に行う研究結果の発表に対する質問に対して的確な受け答えができる。</p>	○	○	◎	◎			
38	歯科東洋医学/スポーツ歯学/歯科の歴史	現代歯科医学の成り立ちやスポーツ歯学、歯科東洋医学の基本的事項を理解するために、歯科医学・医療の歴史的現実、歯科東洋医学の入門的内容、スポーツ歯学の基礎と臨床について修得する。	<p>1) 歯科医学や歯科医療の特異性を通じて、歯科医学を学ぶ意味を理解し、有史以前、ギリシャ、アレクサンドリア、ローマ、古代中国の医療・歯科医療を説明できる。</p> <p>2) 僧院、アラビア、隋・唐、飛鳥・天平、鎌倉・室町時代の医療・歯科医療を説明できる。</p> <p>ルネッサンスにおける臨床医学の確立など16・17世紀の医療・歯科医療を説明できる。</p> <p>3) 18世紀の医療、歯科医療、日本の医療を説明できる。</p> <p>近代歯科医学の3祖に(フォーシャー、ハンター、パフ)について説明できる。</p> <p>4) 日本に近代歯科医学が導入される現代歯科医学前史を説明できる。</p> <p>5) 日本の歯科医制の移り変わりを医制の移り変わりとともに説明できる。</p> <p>6) 徒弟式、塾、歯科医学校、歯科医学、専門学校、歯科大学の各時期について学び説明できる。</p> <p>同門会、大同団結時代、日本連合歯科医会時代、公法人の時代、臨戦体制の時代、社団法人の時代の歯科医師会について説明できる。</p>		○		○			○

			<p>7) 家庭における口腔衛生習慣の移り変わりについて説明できる。</p> <p>8) 歯科疾患に用いられてきた指標について説明できる。</p> <p>9) スポーツ歯学に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>10) スポーツ歯学の臨床、マウスガード作製法のアウトラインを説明できる。</p> <p>11) 東洋歯科医学の歴史について理解し説明できる。</p> <p>12) 東洋歯科医学の医学観を理解し説明できる。</p> <p>13) 東洋歯科医学の理論を説明できる。</p> <p>14) 東洋歯科医学の診断について説明できる。</p> <p>15) 歯科臨床への東洋医学の応用について説明できる。</p>						
39	歯科医師の基本的態度	<p>社会に貢献する職業人としての歯科医師の基本的な態度を身につけるために、医療コミュニケーションの基本的知識、技能、態度を修得する。</p>	<p>1) 良好な患者－歯科医師関係の構築におけるコミュニケーション・倫理・チーム医療について基本的事項を説明できる。</p> <p>2) 理想的な歯科医療を提供するための「日常のコミュニケーションの基礎的知識、態度、技能」を説明し、実施できる。</p> <p>3) 根拠に基づく医療（EBM）と患者自身の物語に基づく医療（NBM）を説明できる。</p> <p>4) インフォームドコンセントのプロセスを説明できる。</p> <p>5) 歯科医師のプロフェッショナリズムを説明できる。</p> <p>6) 歯科医師の医療人としての職業規範を理解し、自らの理想とする歯科医師像を表現できる。</p> <p>7) 社会に貢献する理想的な医療人としてキャリアを継続する省察的実践家の基本的態度を説明し、自らのキャリアデザインを説明できる。</p>	◎	○	○			◎
40	生涯学習/対人関係能力	<p>歯科医師にとっての基本的な態度、論理的思考能力、表現方法を学び、生涯学習のための基本的能力をつける。また、対人関係能力、特にコミュニケーションの方法を知り、多様化専門化している歯科医療の方向性を知る。</p>	<p>1) 教科書の重要事項や問題点をプライオリティーにより抽出することができる。</p> <p>2) 実習の成果を要約でき、口頭で述べることができる。</p> <p>3) Evidence-based medicine を説明できる。</p> <p>4) 歯科医師にとってのコミュニケーションの目的と技法を理解できる。</p> <p>5) 医療現場で信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を具体的に説明できる。</p> <p>6) 医療現場で他科とコミュニケーションの必要性を説明できる。</p> <p>7) 診療所および総合病院における歯科医療を理解できる。</p> <p>8) 歯科ボランティア活動の実態を説明できる。</p> <p>9) 歯科における同窓会活動を説明できる。</p> <p>10) 歯科医療の社会的問題の概要を理解できる。</p> <p>11) 国際学会の意義を説明できる。</p> <p>12) 歯科医師の国際的活動の概略を説明できる。</p>	○				○	◎
4年生	41	硬組織疾患の治療	<p>歯の硬組織に生じる様々な疾患の病態を知るために、それら検査法、診断や治療法を学習し、その基本を修得する。</p> <p>歯の硬組織に生じる様々な疾患の病態と、それらの検査法、診断や治療法について理解する</p> <p>1) 歯の硬組織疾患の概要を説明できる。</p> <p>2) う蝕症の発症、進行のメカニズム、原因を知り、各ステージにおける病態を説明できる。</p> <p>3) レジン材料の特徴、材料の分類を説明できる。</p> <p>4) 直接法修復と間接法修復について説明できる。</p> <p>5) 接着性修復、非接着性修復について説明できる。</p> <p>6) レジン材料と歯質（エナメル質、象牙質）、他の修復材料（セラミクス、金属、セメント等）との接着メカニズムを理解し、その原理を説明できる。</p> <p>7) レジン材料と接着を用いた修復方法の種類と概要を説明できる。</p> <p>8) レジン修復後の術後の変化について説明できる。</p> <p>9) 内分泌攪乱作用（環境ホルモン）について説明できる。</p> <p>10) 各種歯科用セメントの種類について列挙し説明できる</p> <p>11) 各種歯科用セメントの特徴を理解し、臨床での用途を説明できる。</p>		○	○	◎	△	○

			<p>12) セラミック修復の特徴を説明できる。</p> <p>13) セラミック修復の種類、製作法を説明できる。</p> <p>14) セラミック修復の接着メカニズムを理解し、その原理を説明できる。</p> <p>15) メタルインレー修復の特徴を説明できる。</p> <p>16) 窩洞の仮封、暫間修復について説明できる。</p> <p>17) メタルインレー修復における技工操作について説明できる。</p> <p>18) メタルインレー修復における「合着」の原理を説明し、使用される材料、器具などを列挙できる。</p> <p>19) ホワイトニングの種類、各術式について説明できる。</p> <p>20) ホワイトニングの適応症、禁忌症について説明できる。</p> <p>21) 保存修復領域と歯科用レーザーの関連について説明できる。</p> <p>22) レーザーの基本原理、種類について説明できる。</p> <p>23) レーザーと生体との相互作用について説明できる。</p> <p>24) レーザーの安全性、危険性について説明できる。</p> <p>修復治療のメンテナンス、術後管理の意義について説明できる。</p>						
42	実習:硬組織疾患の治療	「硬組織疾患の病態、診断・治療」の講義で学習した事項について理解を深めるため、模型歯やシミュレーターなどを利用して実習し、知識を深める。また、硬組織疾患の診断や治療のための器機的基本的な使用法を学び、手技の修練をする。	<p>硬組織疾患の診断や治療のための器機的基本的な使用法や基礎的な治療法について実施することができる。</p> <p>1) 器械・器具の名称と用途を的確に言える。またそれらの把持法や整理が正しくできる。</p> <p>2) エアータービン、マイクロモーターの構造を理解し、これらを正しく保持できる。</p> <p>3) 切削器具の取扱い、診療の姿勢保持が正しく行える。</p> <p>4) ラバーダムについて理解し、その基本的な操作ができる。</p> <p>5) 各種修復補助法について、正しく操作できる。</p> <p>6) 各種歯科用セメントについて正しく操作できる。</p> <p>7) 各種接着材について、それぞれの接着のメカニズムを理解し、正しく操作できる。</p> <p>8) 正確にレジン充填し、解剖学的形態を付与できる。</p> <p>9) レジンの重合収縮など、材料的特性を理解し、これらに対応した基本操作ができる。</p> <p>10) 窩洞の基本的概念し、正しく形成できる。</p> <p>11) メタルインレー修復窩洞が正確に形成できる。</p> <p>12) メタルインレー修復における技工操作が実施できる。</p> <p>13) ポーセレン(セラミクス)材料の特徴を理解し、正しい接着操作ができる。</p> <p>14) ポーセレンラミネートベニアを正しく形成できる。</p>	○	◎	◎	△	○	
43	歯髓組織の常態と疾患	歯の健康を回復し、歯の機能を維持させるために、歯内治療学を理解することで、歯と歯周組織に生じる疾患の治療の進め方の基本的な知識を修得する。	<p>1) 歯内治療学の目的、意義を説明できる。</p> <p>2) 歯・歯周組織の構造と機能を説明できる。</p> <p>3) 口腔内診査法を説明できる。</p> <p>4) 歯の硬組織疾患・歯髓・根尖歯周組織疾患の症状、診断および治療法を説明できる。</p> <p>5) 無菌的処置を説明できる。</p> <p>6) 根管処置を説明できる。</p> <p>7) 根尖性歯周組織疾患の臨床病理と臨床症状を説明できる。</p> <p>8) 根管充填の目的、時期および方法を説明できる。</p> <p>9) 根尖性歯周組織疾患の診断法と治療方針を説明できる。</p> <p>10) 根管充填を説明できる。</p> <p>11) 歯髓・根尖歯周組織疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。</p> <p>12) 歯髓・根尖歯周組織疾患の治療時における合併症(偶発症)について、種類、処置および予防を説明で</p>	○	○	◎			

			<p>きる。</p> <p>13) 歯髄・根尖歯周組織疾患の治療後の治癒機転と予後を説明できる。</p> <p>14) 歯内外科手術の種類と適応症を説明できる。</p> <p>15) 失活歯の変色の原因、種類および処置を説明できる。</p> <p>16) 歯根吸収の原因、症状、診断および処置を説明できる。</p>								
44	実習・歯髄組織の常態と疾患	歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の治療のために、根管治療についての知識、技能および態度を修得する。	<p>1) 歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の診察、検査、診断が正しくできる。</p> <p>2) 適切な髄腔開拓ができる。</p> <p>3) ラバーダム防湿ができる。</p> <p>4) 隔壁が適切にできる。</p> <p>5) 電氣的根管長測定が正しくできる。</p> <p>6) 根管拡大・形成、根管洗浄が適切にできる。</p> <p>7) 根管貼薬・仮封が正しくできる。</p> <p>8) 根管充填が適切にできる。</p> <p>9) 仮封材・根管充填材の除去が適切にできる。</p> <p>10) 補綴物の除去が適切にできる。</p>			○	○	◎	◎		
45	歯周疾患の診断と治療法	「歯周組織の常態、病態と病因」において学習した歯周病に関する基礎的な知識をもとに、歯周病治療を行えるようにするために、歯周病の治療法に加え、治療技術の習得に必要な基本的知識を修得する。	<p>1) 歯周治療の標準的な進め方について説明できる。</p> <p>2) 歯周基本治療、歯周外科手術、口腔機能回復治療、メンテナンス、サポータティブペリオドンタルセラピーについて説明できる。</p> <p>3) 歯周基本治療の目的を説明できる。</p> <p>4) 炎症性因子と外傷性因子について説明できる。</p> <p>5) 適切な口腔清掃法を指導し、セルフケアについての動機づけができる。</p> <p>6) 機械的ブラークコントロールについて説明できる。</p> <p>7) スケーリング・ルートプレーニングの目的と方法について説明できる。</p> <p>8) 化学的ブラークコントロールの目的と方法について説明できる。</p> <p>9) 咬合性外傷の病態と治療法について説明できる。</p> <p>10) 咬合調整の目的と方法について説明できる。</p> <p>11) ブラキシズムの種類と対応法について説明できる。</p> <p>12) 暫間固定の目的と方法について説明できる。</p> <p>13) 歯周外科手術の種類と適応症を説明できる。</p> <p>14) 切除療法・組織付着療法・歯周組織再生療法・歯周形成手術の理論、目的、種類、適応症、術式、治癒形態について説明できる。</p> <p>15) 歯周外科手術に用いる器材の選択ができる。</p> <p>16) 歯周組織再生療法で用いられる材料について説明できる。</p> <p>17) 症例に応じた歯周外科手術法の選択ができる。</p> <p>18) 根分岐部病変に特徴的な原因、診断とその処置について説明できる。</p> <p>19) 歯周病治療における口腔機能回復治療について説明できる。</p> <p>20) メンテナンスとサポータティブペリオドンタルセラピーの目的、方法と意義について説明できる。</p> <p>21) 歯周病分野におけるグローバルな最新研究が今後の歯科医学発展の礎となることを認識できる。</p>			○	○	◎	◎	○	◎
46	実習：歯周治療の基礎	歯周病治療を実践するために、「歯周組織の常態、病態と病因」「歯周疾患の診断と治療法」講義の知識を基礎に、模型実習を通して、歯周治療において必要とされる基本的術式を修得する。	<p>1) 健常な歯周組織および歯周病に関連するエックス線写真所見を抽出できる。</p> <p>2) エックス線写真検査の結果を説明できる。</p> <p>3) 歯周組織検査の検査項目を列挙し、それぞれの項目を測定する意義を説明できる。</p> <p>4) プロービングデプス、クリニカルアタッチメントレベル、動揺度の測定ができる。</p> <p>5) 歯周組織検査の結果を説明できる。</p> <p>6) 各種ブラッシング法を実践できる。</p> <p>7) 歯間清掃用具の使用法を実践できる。</p> <p>8) 適切な口腔清掃法を指導し、セルフケアについての動機づけができる。</p> <p>9) 適切なスケーリング・ルートプレーニングができる。</p>			◎	△	◎	○	◎	○

			<p>10) キュレット型スクレーラーの研磨(シャープニング)ができる。</p> <p>11) 咬合異常(早期接触や側方運動時における干渉)を検査し、記録することができる。</p> <p>12) 検査結果に基づいた咬合調整が実践できる。</p> <p>13) A-splint(ワイヤーレジン固定)が実践できる。</p> <p>14) エナメルボンディングレジン固定を説明できる。</p> <p>15) メスや骨膜剥離子を用いた歯肉弁の形成ができる。</p> <p>16) 縫合(外科結び)ができる。</p> <p>17) 歯肉切除術の術式を模型上で実践できる。</p> <p>18) フラップ手術の術式を模型上で実践できる。</p>							
47	実習:部分欠損補綴	<p>部分床義歯学は、歯列の部分的な欠損部を義歯で補填・修復して、口腔の諸機能の回復・改善を図ることに関する理論と術式を追及する、臨床歯科医学の一分野である。この部分床義歯の実際の製作方法を習得することが実習の主目的である。このためには部分床義歯学はもちろんのこと、歯科理工学および材料学的な基礎知識も十分に理解していることが必要であり、これらの知識を参考にして、実習模型上で部分床義歯を製作する。</p>	<p>1) 部分床義歯の特徴と意義を学ぶ研究用模型のサベイングを行い、義歯設計の手順を適切にできる。</p> <p>2) 部分床義歯の構成要素であるレスト・ガイドプレーン・隣接面板を理解し、その前処置意義と機能を把握し、正しく設計できる。</p> <p>3) 基礎床、咬合堤の意義を理解し、実際の基礎床が正しく製作できる。</p> <p>4) 咬合堤の製作方法を習得し、ワックス操作が正しくできる。</p> <p>5) 部分欠損患者の咬合採得を理解し、咬合採得ができる。</p> <p>6) 下顎運動を理解し、部分床義歯製作に用いる咬合器に模型装着ができる。</p> <p>7) フェイスポートランスファーとチェックバイト法を学び、咬合器の扱いができる。</p> <p>8) 複模型を使用して鑄造鉤を製作できる。</p> <p>9) 線鉤の種類と意義を理解し、その製作ができる。</p> <p>10) レストの種類と意義を理解し、鑄造レストを製作できる。</p> <p>11) 部分床義歯の構成要素を理解し、そのうちの各種支台装置の適応症を判断できる。</p> <p>12) 部分床義歯の人工歯排列ができる。</p> <p>13) 部分床義歯の歯肉形成ができる。</p> <p>14) 部分床義歯の埋没、填入、取り出しができる。)義歯取りだし方法を習得する。</p> <p>15) 部分床義歯の咬合様式を理解し、それに合わせた人工歯の削合ができる。</p> <p>16) 研磨の意義を理解し、効率の良い研磨ができる。</p>	△	○	○	◎			
48	実習:冠・橋義歯補綴	<p>・授業の目的:歯質欠損ならび歯列の一部欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解するために実施する。</p>	<p>学生は歯質欠損に対する歯冠修復の基本的な態度、知識および技能を身につける。</p> <p>1) 支台歯形成の目的と原則を理解する。</p> <p>2) 患者にこれから行うことを伝えることができる。</p> <p>3) 処置に応じたポジショニングができる。</p> <p>4) 形成する歯を正しく選択できる。</p> <p>5) 適切な切削器具を選択できる。</p> <p>6) ハンドピースの操作が適切にできる。</p> <p>7) 全部金属冠・前装冠の支台歯形成の基本的な手技ができる。</p> <p>8) 歯頸部辺縁形態の分類と適応を列挙できる。</p> <p>9) 歯髄保護の種類を述べ、その重要性を説明できる。</p> <p>10) 歯髄保護に配慮できる。</p> <p>11) 清潔に配慮した操作ができる。</p> <p>12) 患者の痛みや不快感に配慮した器材操作ができる。</p> <p>13) 安全性に配慮した器材操作ができる。</p> <p>14) プロビジョナルレストレーションの臨床的意義を説明できる。</p> <p>15) プロビジョナルレストレーションの種類と製作法を説明し、実施する。</p> <p>16) 患者にこれから行うことを伝えることができる。</p> <p>16) 処置に応じたポジショニングができる。</p> <p>17) 常温重合レジンの基本的な手技ができる。</p> <p>18) 試適、仮着時の注意事項を説明できる。</p>	○	◎	○	◎	○	○	

- | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | <p>19) 仮着材の種類と特徴を説明できる。</p> <p>20) 仮着の基本的な手技ができる。</p> <p>21) 清潔に配慮した操作ができる。</p> <p>22) 患者の痛みや不快感に配慮した器材操作ができる。</p> <p>23) 安全性に配慮した器材操作ができる。</p> <p>24) 印象材の種類と特徴について説明できる。</p> <p>25) 印象用器材について説明できる。</p> <p>26) 歯肉圧排の目的と方法について説明できる。</p> <p>27) 印象採得の基本的な手技ができる。</p> <p>28) 顎間関係の記録(咬合採得)の意義を説明できる。</p> <p>29) 咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。</p> <p>30) 作業模型の要件を列挙できる。</p> <p>31) 模型材の種類と性質を説明できる。</p> <p>32) 作業模型の種類と特徴を説明できる。</p> <p>33) 作業模型の製法を説明できる。</p> <p>34) 作業模型作製の基本的な手技ができる。</p> <p>35) 咬合器を調節機構により分類できる。</p> <p>36) 的確に咬合器装着の基本的な手技ができる。</p> <p>37) 的確に歯型分割の基本的な手技ができる。</p> <p>38) 的確に歯型のトリミングの基本的な手技ができる。</p> <p>39) ろう型の要件を列挙できる。</p> <p>40) ワックスの種類と特性を理解する。</p> <p>41) ろう型の種類を理解する。</p> <p>42) ワックスアップの基本的な手技ができる。</p> <p>43) 安全性に配慮した器材操作ができる。</p> <p>44) 埋没材ならびに埋没法の種類と使用法を説明できる。</p> <p>45) 埋没の基本的な手技ができる。</p> <p>46) 鋳造法の種類と方法を説明できる。</p> <p>47) 鋳造用金属の種類と特性を説明できる。</p> <p>48) 鋳造の基本的な手技ができる。</p> <p>49) 鋳造体調整の基本的な手技ができる。</p> <p>50) 咬合調整について説明できる。</p> <p>51) 金属の研磨について説明できる。</p> <p>52) 咬合調整の基本的な手技ができる。</p> <p>53) 研磨の基本的な手技ができる。</p> <p>54) クラウン試適前の点検項目を列挙できる。</p> <p>55) クラウン試適時の調整手順を説明できる。</p> <p>56) クラウン隣接面の調整方法を説明できる。</p> <p>57) クラウン咬合面の調整方法を説明できる。</p> <p>58) 仮着が必要な場合と必要でない場合を説明できる。</p> <p>59) 歯科用セメントの種類をあげることができる。</p> <p>60) 各種歯科用セメントの特徴を述べることができる。</p> <p>61) クラウン試適の基本的な手技ができる。</p> <p>62) 咬合調整の基本的な手技ができる。</p> <p>63) クラウン合着の基本的な手技ができる。</p> <p>64) セメント練和の基本的な手技ができる。</p> <p>65) 余剰なセメントを除去できる。</p> | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

			<p>66)メタルコーピングの形態を説明し、作製する。 67)レジンとの維持方法を説明し、実施する。 68)メタルフレーム調整の基本的な手技ができる。 69)レジン前装冠の利欠点を説明できる。 70)レジン前装冠の適応症について説明できる。 71)前装材と金属の維持、結合方法について説明できる。 72)前装部の製作について手順を説明できる。 73)メタルフレーム調整の基本的な手技ができる。 74)レジン築盛の基本的な手技ができる。 75)ブリッジの臨床的意義を説明できる。 76)ブリッジの適応症を説明できる。 77)ブリッジの種類をあげ、説明できる。 78)ブリッジの構成要素について説明できる。 79)ブリッジの支台装置の種類を説明できる。 80)ポンティックの種類をあげ、説明できる。 81)ポンティックの種選択基準を説明できる。 82)ブリッジの支台装置とポンティックの材料を説明できる。 83)ブリッジの設計における支台歯の選択基準を説明できる。 84)ブリッジの連結方法と特徴を説明できる。 85)陶材焼付冠の適応症を述べることができる。 86)陶材と金属の機械的性質を説明できる。 87)陶材と金属の結合を理解する。 88)メタルコーピングの形態を説明できる。 89)陶材焼付冠の製作法を説明できる。 90)支台歯形成の目的と原則を理解する。 81)ハンドピースの操作が適切にできる。 92)適切な切削器具を選択できる。 93)支台歯形成の基本的な手技ができる。 94)支台築造の意義、種類および特徴を説明できる。</p>						
49	口腔・顎顔面領域の疾患 I	<p>口腔外科学は医学と歯学との接点にあって、全身との関わりが強い。4年生春学期では疾患の基本となる炎症から学び、引き続き外傷、顎関節疾患についての症状、診断、治療について学ぶ。</p>	<p>1)炎症の基本事項と消炎について説明できる。 2)歯周組織炎の原因、経過、症状、診断、治療について説明できる。 3)顎炎の原因、経過、症状、診断、治療について説明できる。 4)顎骨組織周囲炎の原因、経過、症状、診断、治療について説明できる。 5)歯性上顎洞炎と特異性炎の原因、経過、症状、診断、治療について説明できる。 6)口内炎の種類、原因、経過、症状、診断、治療について説明できる。 7)歯性全身感染症の原因、経過、症状、診断、治療について説明できる。 8)損傷の分類、症状、治療について説明できる。 9)口腔外科領域の軟組織損傷の症状、診断、治療について説明できる。 10)顎骨骨折の症状、診断について説明できる。 11)顎骨骨折の治療について説明できる。 12)顎関節症の病態について説明できる。 13)顎関節症の診断と治療について説明できる。 14)顎関節の先天異常、発育異常、腫瘍の症状、診断、治療について説明できる。 15)提示された上記疾患症例について症状、診断、治療について説明できる。</p>	○	○	◎			
	(秋)	<p>口腔外科学は医学と歯学との接点にあって、全身との関わりが強い。4年生秋</p>	<p>1)顎変形症の種類、症状について説明できる。 2)顎変形症の治療について説明できる。について説明できる。 3)口腔領域における血液疾患について説明できる。</p>	○	○	◎			

		<p>学期では引き続き顎関節疾患および顎変形症、血液疾患についての症状、診断、治療について学ぶ。さらに口腔外科疾患の疼痛、潰瘍、腫脹について学ぶ。</p>	<p>4) 口腔領域における血小板異常についての症状と対処を説明できる。 5) 口腔領域における血液凝固異常についての症状と対処を説明できる。 6) 口腔領域における赤血球系疾患についての症状と対処を説明できる。 7) 口腔領域における白血球系疾患についての症状と対処を説明できる。 8) 感染予防について説明できる。 9) 顎関節の炎症の症状、診断、治療について説明できる。 10) 顎関節の脱臼と骨折の症状、診断、治療について説明できる。 11) 顎関節の強直症の症状、診断、治療について説明できる。 12) 口腔外科領域の疼痛について説明できる。 13) 口腔外科領域の潰瘍について説明できる。 14) 口腔外科領域の診断について説明できる。 15) 提示された上記疾患症例について症状、診断、治療について説明できる。</p>							
50	口腔・顎顔面領域の疾患Ⅱ	<p>1 口腔外科学総論 口腔外科を理解するために基本的な知識を習得する。 2 腫瘍学総論 口腔の腫瘍を理解するために、基本的な医学的および医療における知識を習得する。 3 悪性腫瘍①—総論— 口腔の腫瘍を理解するために、基本的な医学的および医療における知識を習得する。 4 悪性腫瘍② —診断— 口腔悪性腫瘍の診断を理解するために、必要な知識を習得する。 5 悪性腫瘍③—治療— 口腔悪性腫瘍の治療を理解するために、基本的な知識を習得する。 6 悪性腫瘍④—緩和医療— 口腔悪性腫瘍に関わる緩和医療を理解するために、基本的な知識を習得する。 7 腫瘍形成性疾患① 腫瘍形成性病変の成因となる炎症、嚢胞、良性腫瘍を理解するために、必要な知識と、非歯原性腫瘍について習得する。 8 腫瘍形成性疾患② —</p>	<p>1 口腔外科とは 1) 口腔外科と一般外科の類似点および相違点、特殊性を説明できる。 2 腫瘍学総論 1) 口腔のがんについて説明できる。 2) 発癌について説明できる。 3) 腫瘍の「診断の深さ」について説明できる。 4) 医療のキーワード(EBM など)について説明できる。 5) 医療安全について説明できる。 3 悪性腫瘍① 総論 1) 悪性腫瘍の定義について説明できる。 2) 悪性腫瘍の原因・誘因について説明できる。 3) 悪性腫瘍の疫学について説明できる。 4 悪性腫瘍② 診断 1) 悪性腫瘍における臨床診断、画像診断、病理診断、遺伝子診断について説明できる。 2) 悪性腫瘍の臨床病期による分類について説明できる。 5 悪性腫瘍③ 治療 1) 悪性腫瘍の治療および合併症、継発症について説明できる。 2) 口腔癌に対する化学療法の原理と具体的な投与法を理解できる。 3) 抗癌化学療法に併用される放射線療法等を説明できる。 6 悪性腫瘍④ 緩和医療 1) 緩和医療について説明できる。 2) 口腔癌の末期症状について説明できる。 3) がん疼痛について説明できる。 4) DNR について説明できる。 7 腫瘍形成性疾患① 総論 1) 腫瘍形成の成因について説明できる。 2) 腫瘍形成性病変の病理組織学と臨床所見の関連、臨床的意義について説明できる。 8 腫瘍形成性疾患② 顎骨内の腫瘍形成性病変 1) 顎骨内の歯原性/非歯原性腫瘍の分類について説明できる。 2) 顎骨内の歯原性腫瘍の治療、予後について説明できる。 3) 嚢胞の定義、成り立ち、発育、構造について説明できる。 4) 嚢胞の分類 について説明できる。 9 腫瘍形成性疾患③ 口腔にみられる顎骨外の腫瘍形成性病変 1) 腫瘍類似疾患の定義、成り立ち、発育、構造について説明できる。 2) 腫瘍類似疾患の分類について説明できる。</p>				○	○	◎	○

	<p>顎骨内病変一 口腔(骨内)に発生する腫瘍の診断と治療を理解するために必要な知識を習得する。</p> <p>9 腫瘍形成性疾患③一 顎骨外病変一 口腔(骨外)に発生する腫瘍の診断と治療を理解するために必要な知識を習得する。</p> <p>10 腫瘍形成性疾患④一 顔面・頰部一 顔面・頭部に発生する腫瘍の診断と治療を理解するために必要な知識を習得する。</p> <p>11 臨床遺伝学入門 歯と顎顔面の形成異常 口腔・顎顔面頭蓋の形成異常の病因を理解するために、必要な基礎医学を習得する。</p> <p>12 先天異常総論 口腔と顔面の発生を理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>13 先天異常総論 歯、口腔軟組織の異常を理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>14 先天異常総論 口唇裂・口蓋裂、顔面斜裂、顔面横裂などの口腔・顎・顔面の先天異常を理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>15 先天異常各論 口腔・顎顔面頭蓋の先天異常、口腔顎顔面に病変を現す症候群を理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>16 神経疾患 口腔顎顔面領域の神経疾患を理解するために、基本的知識を習得する。</p>	<p>3) 腫瘍類似疾患の病理組織学と臨床所見の関連、臨床的定義について説明できる。</p> <p>4) 腫瘍類似疾患の治療手術について説明できる。</p> <p>10 腫瘍形成性疾患④ 頭部・顔面にみられる腫瘍形成性病変</p> <p>1) 顔面・頭部の腫瘍形成性病変の成り立ち、発育、構造について説明できる。</p> <p>2) 頭部・顔面の腫瘍形成性病変の疾患分類について説明できる。</p> <p>3) 頰部・顔面の腫瘍形成性病変の病理組織学と臨床所見の関連、臨床的定義について説明できる。</p> <p>4) 腫瘍形成性病変の治療手術について説明できる。</p> <p>11 臨床遺伝学入門 染色体異常・遺伝性疾患</p> <p>1) 染色体異常の発現メカニズムについて説明できる。</p> <p>2) 染色体異常と病態について説明できる。</p> <p>12 先天異常総論 総論</p> <p>1) 口腔・顎・顔面の正常発生と異常発生について説明できる。</p> <p>2) 口腔・顎・顔面の発生時期について説明できる。</p> <p>3) 口腔・顎・顔面の先天異常の原因・分類について説明できる。</p> <p>13 13 先天異常総論 歯、頭蓋顔面骨および口腔軟組織の異常</p> <p>1) 歯の萌出異常について説明できる。</p> <p>2) 奇形歯について説明できる。</p> <p>3) 口腔の小帯・舌・粘膜・唾液腺の異常について説明できる。</p> <p>4) 顎顔面骨の形態異常について概説できる。</p> <p>14 先天異常総論 口唇裂・口蓋裂、顔面斜裂、顔面横裂 他</p> <p>1) 口唇口蓋裂の治療について説明できる。</p> <p>2) 口唇口蓋裂に継発する機能障害とその治療について説明できる。</p> <p>15 先天異常各論 染色体異常・遺伝性疾患</p> <p>1) 染色体異常・遺伝性疾患の症状について説明できる。</p> <p>2) 染色体異常・遺伝性疾患の治療について説明できる。</p> <p>16 神経疾患 三叉神経痛・顔面神経麻痺・知覚麻痺・味覚異常</p> <p>1) 三叉神経痛の診断、治療を説明できる。</p> <p>2) 顔面神経麻痺の診断、評価、治療を説明できる。</p> <p>3) 知覚麻痺・味覚異常の原因、診断、治療を説明できる。</p> <p>17 唾液腺疾患各論① 唾液腺の炎症・腫瘍</p> <p>1) 唾液腺の炎症性疾患、腫瘍について症状、検査、診断、治療を説明できる。</p> <p>18 唾液腺疾患各論② 唾液腺の発生異常・機能異常</p> <p>1) 唾液腺の発生異常、機能異常について症状、検査、診断、治療を説明できる。</p> <p>19 口腔の関与する機能障害①</p> <p>1) 摂食嚥下機能の病態、症状、検査、診断、治療を説明できる。</p> <p>2) 上気道維持の障害について病態、症状、検査、診断、治療を説明できる。</p> <p>20 口腔の関与する機能障害②</p> <p>1) 摂食嚥下機能の病態、症状、検査、診断、治療を説明できる。</p> <p>2) 上気道維持の障害について病態、症状、検査、診断、治療を説明できる。</p> <p>21 薬物療法</p> <p>1) 歯科・口腔外科の治療に必要な薬剤の薬理、種類、薬効、適応、を説明できる。</p> <p>22 手術学①</p> <p>1) IC、合併症、手術侵襲、後遺障害、継発症について説明できる。</p> <p>23 手術学②</p> <p>1) 手術器材等の滅菌消毒。手指や術野の消毒の方法、適応、効果を説明できる。</p> <p>2) 手術部位感染 (SSI)について説明できる。</p>						
--	--	---	--	--	--	--	--	--

	<p>17 唾液腺疾患各論① 唾液腺に生じる炎症と腫瘍、唾液腺の発生異常と機能異常を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>18 唾液腺疾患各論② 唾液腺に生じる炎症と腫瘍、唾液腺の発生異常と機能異常を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>19 口腔の関与する機能障害① 口腔の機能および機能障害を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>20 口腔の関与する機能障害② 口腔の機能および機能障害を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>21 薬物療法 口腔領域の疾患の治療に際し全身管理に必要な薬剤を理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>22 手術学①—総論— 手術における合併症、手術侵襲、後遺障害、継発症について理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>23 手術学②—滅菌消毒、感染対策— 手術器材等の滅菌消毒、手術の基本手技、感染対策を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>24 手術学③—手術の基本手技— 軟組織・骨組織の手術基本手技を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>25 手術学④—周術期管</p>	<p>24 手術学③ 1) 手術器具・材料、手術の基本手技を説明できる。 2) 軟組織（皮膚移植・粘膜移植）・骨組織（骨移植・骨延長を含む）の手術について適応・禁忌、手技、器具を説明できる。</p> <p>25 手術学④ 1) 周術期における全身管理について適応、管理方法を説明できる。</p> <p>26 手術学⑤ 1) 抜歯の基本手技について適応、術式、器具を説明できる。 2) 顎骨内病変の手術について適応、術式、器具を説明できる。</p> <p>27 手術学⑥ 1) 組織欠損の再建について適応、術式、再建組織・皮弁、機能・形態の回復を説明できる。</p> <p>28 手術学⑦ 1) 顎矯正手術について適応、術式、機能と形態について説明できる。 2) 顎矯正手術と睡眠障害について説明できる。</p> <p>29 手術学⑧ 1) 補綴前外科の適応、術式、効果を説明できる。 2) 機能補填をする症例の適応、術式、機能補填の効果を説明できる。</p>						
--	---	---	--	--	--	--	--	--

		<p>理— 手術の周術期における全身管理を理解するために、必要な知識を習得する。 26 手術学⑤—抜歯、顎骨内病変の手術— 抜歯および顎骨内病変に対する手術の基本手技を理解するために、必要な知識を習得する。 27 手術学⑥—再建手術組織欠損の再建を理解するために、基本的知識を習得する。 28 手術学⑦—顎矯正手術— 顎矯正手術の術式を理解するために、基本的知識を習得する。 29 手術学⑧—補綴前外科、機能補填— 補綴前外科、機能補填を理解するために、基本的知識を習得する。</p>								
51	歯科麻酔	<p>臨床麻酔に必要な麻酔法の基礎を学び理解する。</p>	<p>1) 歯科麻酔に必要な基礎知識について説明できる。 2) 局所麻酔薬について説明できる。 3) 血管収縮薬について説明できる。 4) 局所麻酔法について説明できる。 5) 局所麻酔薬による偶発症について説明できる。 6) 局所麻酔による偶発症について説明できる。 7) 全身麻酔について説明できる。 8) 吸入麻酔薬について説明できる。 9) 静脈麻酔薬について説明できる。 10) 鎮静法について説明できる。</p>			◎	◎	◎		
52	画像検査	<p>画像検査法の特徴と適応ならびに画像の解釈を理解するとともに、放射線の人体に対する影響と放射線防護の方法を併せて理解する。</p>	<p>1) 放射線の種類、性質、測定法を説明できる。 2) 放射線の人体(胎児を含む)への影響(急性影響と晩発影響等)を説明できる。 3) 放射線防護の基準と方法を説明できる 4) エックス線画像の形成原理を説明できる 5) エックス線装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。 6) 口内法、パノラマ、頭部エックス線撮影の種類および適応を説明できる。 7) 口内法、パノラマエックス線撮影を行い、読影できる。 8) 頭部エックス線撮影、造影検査、CT、歯科用コーンビーム CT、MRI、核医学検査、超音波検査法の原理と基本的特徴を説明できる。 9) 口唇・口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞・腫瘍の診断法を説明できる。</p>	○	◎	○	◎	○	○	
53	小児の歯科治療	<p>小児歯科学授業終了時において、歯科臨床医として</p>	<p>1) 小児歯科学の目的、意義を説明できる。 2) 小児の発達と栄養の特徴について説明できる。</p>	◎	△	○	◎		○	

		小児の歯科的管理が可能な基本的知識と技術、態度を習得する。	3)頭蓋顎顔面、歯列・咬合、歯の発育について説明できる。 4)小児歯科の治療流れと臨床的対応について説明できる。 5)小児の齲蝕と予防について説明できる。 6)小児の齲蝕治療について説明できる。 7)小児の歯周疾患について説明できる。 8)小児の外科的処置について説明できる。 9)小児の歯の外傷と処置について説明できる。 10)小児の口腔保健と医療連携について説明できる。 11)咬合誘導について説明できる。 12)障害児の歯科診療について説明できる。 13)小児歯科と遺伝性疾患について説明できる。 14)小児歯科治療時に留意すべき小児疾患について説明できる。						
54	実習：小児の歯科治療	小児歯科学の講義終了後、小児歯科臨床のために必要な治療計画の立案やう蝕予防処置およびう蝕処置などの基本的な技能、態度、知識を習得する。	1)小児歯科における医療面接ができる。 2)小児の歯科疾患の診察、診断および治療計画の立案、説明が正しくできる。 3)乳歯と幼若永久歯の歯冠修復を適切にできる。 4)予防填塞およびフッ化物塗布が正しくできる。 5)患児および保護者に対しブラッシング指導が適切にできる。 6)保険装置の説明ができる。	◎		○	◎		○
55	実習：不正咬合の診断と治療	不正咬合の治療のため、矯正診断やセファロ分析を修得し、さまざまな矯正装置についての知識・作製技能を修得する。	1)セファロ計測および、その評価を行うことができる。 2)矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。 3)バンドの試適、印象採得ができる。 4)ブライヤー用いてワイヤー屈曲が適切にできる。 5)自在ろう着ができる。 6)舌側弧線装置の作製、装着ができる。 7)タイポドント模型を用いて、補助弾線による歯の移動ができる。 8)マルチブラケット装置の装着ができ、ブラケットによる歯の移動様式を理解できる。	○		○	◎		
56	臨床医学（内科）	臨床医学の基本となる内科学を理解する上で重要な内科疾患、および歯科診療上留意すべき問題を抱える内科疾患を主に取り上げ、全身的疾患を視野に入れた歯科診療に必要な知識や思考方法を学ぶことを目的とする。	1)神経の解剖、機能および神経疾患の病態、診断、治療法を習得する。 2)腎臓の解剖、機能および腎疾患の病態、診断、治療法を習得する。 3)内分泌腺の解剖、機能および内分泌疾患の病態、診断、治療法を習得する。 4)膠原病の病態、診断、治療法を習得する。 5)消化管・肝臓・膵胆道系の構造、機能および消化管疾患・肝疾患・膵胆道系疾患の病態、診断、治療法を習得する。 6)代謝疾患の病態、診断、治療法を習得する。 7)心臓・脈管の構造、機能および循環器疾患の病態、診断、治療法を習得する。 8)呼吸器の解剖、機能および呼吸器疾患の病態、診断、治療法を習得する。 9)アレルギー疾患の病態、診断、治療法を習得する。 10)血液・造血器・リンパ網内系の機能、血液疾患の病態、診断、治療法を習得する。 11)微生物の種類と特性、感染と生体の防御機構、滅菌、消毒、化学療法を習得する。			◎	○		
57	臨床医学（小児科）	小児への歯科学的アプローチはいわゆる「子ども」からでは遅く、出生前からの事象をすでに考慮しなければならず、それを踏まえた全身の各臓器と「口腔・歯」との関連性を、成長・発達の各段階に応じて	小児科学が対象とする学問範囲の理解と小児の基本的診察法及び治療法を説明できる。 出生前成因に基づく疾患の分類、対処法と遺伝カウンセリング法について説明できる。 感染症の概念とその対処法を理解する。更に小児期特有のウイルス感染症について理解できる。 小児期の細菌、真菌症などについて理解する。また予防接種の重要性を説明できる。 歯科で遭遇する上気道・下気道疾患を中心に解説する。更に、摂食障害と呼吸器系疾患の親密な関連性を理解できる。 歯科医療に必要な小児消化器系疾患、各種肝炎を理解できる。 生体防御機構とその疾患、アレルギー疾患、川崎病やリウマチ疾患の概念を理解できる。			○			

		理解していくことが重要である。この認識に立つと、小児の歯科医療を行う上での適切な判断力と応用力を身に付けることが可能となる。本講座では小児科学のこれら基本的な病態解析法とそれに沿った診療法の視点を修得して行く。必要な知識を身に付け、周術期の小児の管理を安心して遂行できるように基礎知識を獲得することを旨とする。	腎疾患の診断、検査と小児期の代表的疾患について理解できる。 先天性心疾患を中心とした病態の把握できる。 小児神経・筋疾患の特徴を理解し、これら疾患に対する歯科治療上の重要点について説明できる。 歯科医が知るべき発達障害や精神発達障害児への知識・理解を説明できる。 新生児期の特有な疾患と病態を理解できる。 小児期の血液疾患、腫瘍性疾患の診断と治療を学ぶ。また輸血の問題点・注意点を述べる。 成長ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、副甲状腺ホルモン疾患を中心に理解できる。 小児の事故、虐待、突然死に対する認識・対処は歯科医にとつての必須事柄であり、理解できる。							
58	臨床医学 (外科)	歯科医として必要と思われる外科学の総論や各論について、基本的な知識を修得する。	1). 外科学の概念や外科的診断法とは何か説明できる。 2). 外科基本手技、滅菌・消毒法の理論を説明できる。 3). 周術期の管理や術後合併症について説明できる。 4). 血液凝固・出血・止血・輸血について理論と実践上の問題点が説明できる。 5). 水・電解質・輸液について理論を説明できる。 6). ショックのメカニズム、救急蘇生法を説明できる。 7). 損傷の種類、損傷の各々の特徴が説明できる。 8). 炎症と観戦についてメカニズムと臨床との関連性が説明できる。 9). 腫瘍の診断と治療について、多様な腫瘍の中で口腔内腫瘍の位置づけができる。 10). 抗腫瘍化学療法の理論と具体的治療法が説明できる。 11). 抗微生物化学療法の理論と具体的治療法が説明できる。 12). 外科において、腫瘍免疫と移植免疫の理論が説明できる。 13). 臓器移植と人工臓器の医療全体における位置づけができる。 14). 循環器系、神経系、消化器系、呼吸器系、内分泌系、泌尿器系、血液、造血管器、リンパ性器官の構造、機能、疾患、診断法、治療法、歯科との関連性が説明できる。	○	○	◎				◎
59	臨床予備 実習	臨床実習において診療参加型臨床実習を行うために、歯科治療における必要不可欠な手技や医療安全および患者との良好なコミュニケーションについての基本的な知識、技能、態度を修得する。	・医療安全について理解し、配慮することができる。 ・感染予防について理解し、配慮することができる。 ・良好な患者－歯科医師関係を築くための対応ができる。 ・初診時の医療面接において必要な情報を収集できる。 ・説明および指導において必要な内容を診査結果などをもとに話すことができる。 ・口唇・口腔・顎顔面領域の基本的な診察および検査ができる。 ・患者の全身状態の把握のための基本的手技ができる。 ・歯科治療の基本的手技を実施できる。 ・心肺蘇生を実施できる。	◎	○	○	◎			○
5 年 生	60 隣接臨床 医学	医療者として国民の健康に寄与するために、歯科医療に関連の深い医学知識および口腔と全身との関わりについての知識を修得する。	・運動器の病気を扱う整形外科学の基本を理解する。 ・眼科学における解剖と生理、代表疾患とその治療を理解する。 ・歯科臨床に必要な精神医学の基礎およびメンタルヘルスについて理解する。 ・頭頸部外科学における頭頸部腫瘍に対する基本的な考えと、鼻、副鼻腔、口腔、咽喉頭腫瘍の診断と治療を理解する。 ・ゲノム情報応用診断学にかかわる高血圧症、2型糖尿病、心筋梗塞症などの生活習慣病をはじめとする多因子疾患に対する遺伝子の関与について理解する。 ・歯科-口腔外科に密接な関連を持つ皮膚疾患-粘膜疾患を理解する。 ・産婦人科学における女性の内分泌環境と、妊娠、出産、婦人科特有の疾患について理解する。	○	○	○	○	△		◎

			・歯科医として必要な耳鼻咽喉科学領域の解剖、生理、病態、主用疾患について理解する。							
61	高齢者の 歯科治療	わが国における高齢者の数は年々増加している。したがって、高齢者が歯科治療を受ける率が今後も増すと考えられている。高齢者の全体像を把握し、歯科治療における特徴や注意すべき点の概要を学ぶ。 到達目標：高齢者の歯科治療における特徴や注意点を説明できる。	1) 高齢者のう蝕の診断、発症・進行制御および予防について説明できる。 2) 高齢者のう蝕に対する修復材の選択と処置法について説明できる。 3) 歯の損耗 (tooth wear) の原因、病態、症状を説明できる。 4) 根面う蝕の原因、病態、症状を説明できる。 5) 老化に伴う唾液腺の構造と機能の変化を説明できる。 6) 高齢者の唾液腺の変化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。 7) 高齢者に多く見られる疾患を説明できる。 8) 老化、加齢現象を説明できる。 9) 老年者の特徴を説明できる。 10) 高齢者に多くみられる疾患を説明できる。 11) 高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。 12) 高齢者に対する抜歯の適応症と禁忌症を説明できる。 13) 加齢現象をふまえての診療を説明できる。 14) 老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。 15) 加齢に伴う構造変化に対する口腔外科手術を説明できる。 16) どうやって栄養を補給するのか説明できる。 17) 栄養補給の阻害因子が何かを説明できる。 18) 加齢に伴う免疫機構の低下と歯周組織の炎症について説明できる。 19) 高齢者の歯周治療における特徴について説明できる。 20) ライフステージに応じた予防について説明できる。 21) 高齢者の心理と行動を理解し説明できる。 22) 高齢者の口腔の特徴を説明できる。 23) 咀嚼機能、審美性、発音機能、心理的障害の回復方法を説明できる。 24) 高齢者に対する補綴治療の問題点を説明できる。 25) 問題点の解決法を説明できる。	○		○	◎			
62	障害者の 歯科治療	障害者の身体的、精神的、心理的特徴と社会環境を理解し、障害者の歯科医療を行うために、必要な基本的事項について修得する。さらに、障害者の口腔環境、口腔機能、歯科疾患の特異性とその口腔健康管理の方法について理解する。	1) 障害者歯科の目的、意義を説明できる。 2) 障害者の定義、分類を説明できる。 3) 障害者の社会的問題と環境について説明できる。 4) 障害者の社会保障および障害者歯科の関連職種について説明できる。 5) 感覚障害、精神遅滞、行動および情緒の障害について説明できる。 6) 肢体不自由、脳血管障害およびその他の中途障害、てんかん、内部障害について説明できる。 7) 小児期・成人期における摂食・嚥下障害について説明できる。 8) 障害者に対する矯正歯科治療について説明できる。 9) 障害者歯科における歯科保健支援について説明できる。	◎	△	○	◎		◎	
63	顎顔面補綴	原疾患としては、腫瘍、外傷、感染症、先天奇形などがあり、応用補綴学とも言うべき顎顔面補綴処置は、これらの疾患に対するリハビリテーションとして、学際的な知識と技能が必要とされる治療である。本講では、この分野の特徴的な事項と、具体的な臨	1) この分野の歴史的な推移と現在の守備範囲を理解し、顎顔面補綴学の目的と意義を説明できる。 2) 口唇口蓋裂患者の治療と補綴処置に関連する外科および言語治療について説明できる。 3) 口唇口蓋裂症例における補綴の問題点と把握とその対処法を説明できる。 4) 腫瘍による上顎欠損の病態とそれに対する補綴処置について説明できる。 5) 腫瘍による下顎欠損の病態とそれに対する補綴処置について説明できる。 6) 頭頸部腫瘍に対する放射線治療の概要とそれに利用される各種補助装置について説明できる。 7) 顎変形症の臨床的問題点と、その対応策を説明できる。 8) 顔表面部の欠損に適応されるエビテーゼの基礎と製作方法を説明できる。 9) 顎顔面補綴症例の治療後のメインテナンスやケアについて説明できる。	○	○	○		△	○	

		床対応策、各種補綴装置の意義などを履修する。									
64	歯科法医学	身元不明死体等の個人識別のために必要な、死体現象、窒息、損傷、高温、低温による障害等の法医学的事項の知識を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・検査対象、死体検案、早期死体現象について理解する。 ・晩期・特殊死体現象、急性窒息について理解する。 ・頸部圧迫による窒息、溺水について理解する。 ・鈍器・鋭器損傷について理解する。 ・交通事故損傷、銃器損傷について理解する。 ・高温・低温・電気による障害について理解する。 ・個人識別の意義、方法について理解する。 ・白骨死体、損壊死体、腐敗死体の個人識別について理解する。 			○	○				
65	インプラント	疾病や外傷等により生体の一部が欠損した場合、その欠損を形態的かつ機能的に修復する方法には移植学、再生医学、インプラント学の3つがある。インプラント学は人工材料で作られた人工臓器を用いて修復する方法である。その中で、口腔インプラント学は上顎または下顎骨内にインプラント体(人工歯根)を埋入し、その上に形態、咬合機能の回復に関与する上部構造を構築する方法である。その基礎的知識と臨床術式について習得する。	<ol style="list-style-type: none"> 1)インプラントの歴史の変遷を説明できる。 2)インプラントの目的・意義を説明できる。 3)インプラントの種類と特徴を説明できる。 4)インプラントの基本構造を説明できる。 5)使用される生体材料を説明できる。 6)治療手順を説明できる。 7)頭頸部の解剖学的知識を説明できる。 8)医療安全を説明できる。 9)インプラントに必要な医療面接を理解する。 10)インフォームドコンセントを説明できる。 11)診察法及び検査法を理解する。 12)成功基準を説明できる。 13)エックス線検査の重要性を説明できる。 14)撮影方法と読影について説明できる。 15)一般的リスクファクターを説明できる。 16)全身的リスクファクターを説明できる。 17)局所的リスクファクターを説明できる。 18)術前準備、麻酔について説明できる。 19)埋入術式を説明できる。 20)埋入時期、荷重時期を説明できる。 21)手術に関する合併症を説明できる。 22)単独冠、連結冠、ブリッジを説明できる。 23)可撤性ブリッジ、オーバーデンチャーを説明できる。 24)暫間補綴装置を説明できる。 25)インプラント治療後の経過中における補綴に関する合併症を説明できる。 26)生体材料とそれに対する生体反応の基礎を説明できる。 27)インプラントの病態、病理、免疫について説明できる。 28)インプラント周囲組織と歯周組織の違いを説明できる。 29)維持療法を説明できる。 30)支持療法を説明できる。 31)経過時に起きる合併症を説明できる。 32)倫理的配慮を説明できる。 33)卒後研修や社会的立場を説明できる。 34)一口腔単位の診断、治療を説明できる。 			○	○	◎			
66	臨床実習・総合	歯科医療人としての基盤を構築するために必要な、	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の個別性および権利を理解できる。 ・患者に配慮した行動ができる。 			◎	◎	◎	◎	◎	◎

	歯学・総合研修	患者との全人的関わりの理解と責任感、歯科医師としての適切な倫理観、態度、価値観を涵養し、基本的臨床技能と知識の習得をすすめ、科学的思考と、より自律的な自己省察能力を得るために、歯科医師としての基本的な態度、生涯学習のための態度と技能、口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する知識と基本的技能を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・医療における倫理の重要性を理解できる。 ・歯科医師の義務について説明できる。 ・自ら問題点を探し出し解決を試みることができる。 ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーションができる。 ・医療スタッフに配慮した行動ができる。 ・初診時および再診時の医療面接において良好な患者－歯科医師関係を築くとともに、臨床推論のための患者情報を適切に聴取できる。 ・説明および指導時の医療面接において患者や家族のレディネスに応じた対応ができる。 ・診察において、口唇・口腔・顎顔面領域の基本的な診察ができる。 ・英語を用いた診療録記載ができる。 ・診断に必要な画像検査の選択ができる。 ・医療面接および診察結果の情報をもとに診断をして治療計画を立てる事ができる。 ・放射線の人体に対する影響と放射線防護について理解し、適切な撮影が実践できる。 ・医療安全・感染予防について適切な対応ができる。 ・保存修復の基本的手技を理解し、実践できる。 ・歯内治療の基本的手技を理解し、実践できる。 ・歯周病治療の基本的手技を理解し、実践できる。 ・部分床義歯による補綴治療の基本的手技を理解し、実践できる。 ・全部床義歯による補綴治療の基本的手技を理解し、実践できる。 ・冠・橋義歯による補綴治療の基本的手技を理解し、実践できる。 ・口腔外科の基本的手技を理解し、実践できる。 ・矯正歯科治療の基本的手技を理解し、説明できる。 ・小児歯科における予防及び治療の基本的手技を理解し、実践できる。 ・口腔衛生に関する基本的手技を理解し、実践できる。 ・歯科治療における全身管理、精神鎮静法、局所麻酔および全身麻酔の基本を説明できる。 ・口腔保健について説明し、実践できる。 ・地域医療、病診連携、多職種連携について保健・医療・福祉の視点から理解できる。 							
67	総合示説	臨床実習開始前に学んだ基礎系専門教育科目の授業内容について更に理解を深めるため、それらを臨床的観点から見直し、新たな知見も追加して、基礎系科目の授業内容と臨床系科目の内容の関連を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業科目「人体の構造」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 2) 授業科目「歯の構造」「細胞の構造と機能」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 3) 授業科目「人体の機能」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 4) 授業科目「感染と免疫」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 	△	○	○	◎	△	○	
6年生	68	総合示説	臨床実習開始前に学んだ基礎系専門教育科目の授業内容について更に理解を深めるため、それらを臨床的観点から見直し、新たな知見も追加して、基礎系科目の授業内容と臨床系科目の内容の関連を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業科目「生命の分子的基盤」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 2) 授業科目「生体と薬物」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 3) 授業科目「病因・病態・診断」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 4) 授業科目「生体材料・歯科材料」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 	△	○	○	◎	△	○
	69	臨床実習・総合	歯科医療人としての基盤を構築するために必要な、	<ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の個性および権利を理解できる。 2) 患者に配慮した行動ができる。 	◎	◎	◎	◎	◎	◎

	<p>歯学・総合研修</p>	<p>患者との全人的関わりの理解と責任感、歯科医師としての適切な倫理観、態度、価値観を涵養し、基本的臨床技能と知識の習得をすすめ、科学的思考と、より自律的な自己省察能力を得るために、歯科医師としての基本的な態度、生涯学習のための態度と技能、口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する知識と基本的技能を修得する。</p>	<p>3) 医療における倫理の重要性を理解できる。 4) 歯科医師の義務について説明できる。 5) 自ら問題点を探し出し解決を試みることができる。 6) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションができる。 7) 医療スタッフに配慮した行動ができる。 8) 初診時および再診時の医療面接において良好な患者－歯科医師関係を築くとともに、臨床推論のための患者情報を適切に聴取できる。 9) 説明および指導時の医療面接において患者や家族のレディネスに応じた対応ができる。 10) 診察において、口唇・口腔・顎顔面領域の基本的な診察ができる。 11) 英語を用いた診療録記載ができる。 12) 診断に必要な画像検査の選択ができる。 13) 医療面接および診察結果の情報をもとに診断をして治療計画を立てる事ができる。 14) 放射線の人体に対する影響と放射線防護について理解し、適切な撮影が実践できる。 15) 医療安全・感染予防について適切な対応ができる。 16) 保存修復の基本的な手技を理解し、実践できる。 17) 歯内治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 18) 歯周病治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 19) 部分床義歯による補綴治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 20) 全部床義歯による補綴治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 21) 冠・橋義歯による補綴治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 22) 口腔外科の基本的な手技を理解し、実践できる。 23) 矯正歯科治療の基本的な手技を理解し、説明できる。 24) 小児歯科における予防及び治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 25) 口腔衛生に関する基本的な手技を理解し、実践できる。 26) 歯科治療における全身管理、精神鎮静法、局所麻酔および全身麻酔の基本を説明できる。 27) 口腔保健について説明し、実践できる。 28) 地域医療、病診連携、多職種連携について保健・医療・福祉の視点から理解できる。</p>						
<p>70</p>	<p>頭頸部の基本構造</p>	<p>歯科臨床に必要な基礎知識として、身体諸器官の基本構造を理解する。</p>	<p>1) 頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 2) 頭頸部の脈管系を説明できる。 3) 口唇・口腔粘膜の特徴を部位ごとに説明できる。 4) 舌の構造と機能を説明できる。 5) 大唾液腺の構造と機能を説明できる。 6) 心臓の構造と血液循環を説明できる。 7) 顎関節の構造と機能を説明できる。 8) 消化管の基本構造と機能を説明できる。 9) 消化管の基本構造と機能を説明できる。 10) 頭頸部の神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。</p>	<p>○</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>

新カリ キュラム	歯学部歯学科の教育目標									
	医療人として自覚と責任に溢れ、独創的な科学的視野を持ち、継続した学習及び研究意欲を持ち、地域医療の貢献・向上に意欲的で、幅広い教養を身につけた慈愛に満ちた歯科医師を育成する。									
歯学部歯学科 カリキュラムマップ				歯学部歯学科のディプロマポリシー(DP)						
				◎:DP達成のために、特に重要な事項 ○:DP達成のために、重要な事項 △:DP達成のために、望ましい事項						
学年	科目整理No.	授業科目名	授業の目的	授業の到達目標	コミュニケーション力	倫理観・生命科学の基本的知識	科学的視点・思考・行動	口腔領域疾患の専門的知識	歯科治療の基礎的技術	チーム医療の基礎的知識
					①多様な人々と良好な人間関係を構築するコミュニケーション力を身につけている。	②建学の精神と一般教養ならびに高い倫理観と生命科学に関する基本的知識を身につけている。	③グローバルな社会で歯科医師の果す役割を科学的視点から捉え、思考し、行動することができる。	④口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する専門的知識を修得している。	⑤歯科治療に必要な高頻度治療の基礎的技術訓練を修了している。	⑥地域包括医療などのチーム医療に関する基礎的知識を身につけている。
1年生	1	歯学入門セミナーⅠ	歯科医学を学ぶ楽しさを知るために、愛知学院大学歯学部の学生としての学習方法および学生生活の基本的な知識、技能、態度を修得する。	1)自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決することができる。 2)歯科医学・医療に関連する情報を客観的・批判的に統合整理することができる。 3)医療の改善のために不断の評価・検証と倫理的および患者の利益と安全に配慮した科学研究が必要であることの重要性を説明できる。 4)研究は医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。 5)患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文などから最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の進化につなげることができる。 6)検索・検出した医学・医療情報から新たな課題・仮説を設定し、解決に向けて科学研究に参加することができる。 7)コミュニケーションの目的と技法を説明できる。 8)信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を説明できる。 9)コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。 10)健康の概念を説明できる。 11)疾病の概念、種類および予防を説明できる。 12)薬物の運用の影響を説明できる。 13)禁煙指導・支援による歯周疾患、口腔がん等の予防を実施できる。	◎	○	◎	○	◎	◎
	2	歯学入門セミナーⅡ	歯学部に入學したばかりの学生が、歯科医学・医療の概要を把握し、自己の専	1)学内および学外講師の講演を聞き、参考となる事項を列挙し、自らのキャリアデザインに適用できる。 2)附属病院来院患者を想定して初診から歯科治療終了までの流れについて説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	○

		<p>門分野となる歯科医学に対する関心を高めるために、人と会話することや、食物を摂取することの重要性を学び、多くの分野に細分化された歯学の構成と内容を理解する。</p>	<p>3)ヒトのからだの構造と生命の形づくりの基本を説明できる。 4) 歯科と医科の関わりから、生理学の重要性を説明できる。 5) 歯科医学において生命の分子的基盤を理解することの意義を説明できる。 6) 病理診断の基礎として、病気の原因と経過について説明できる。 7) 顕微鏡による微生物の発見から現在に至る「微生物と人類の関わり」を説明できる。 8) 8020 運動などを通して、国民の健康づくりと歯科医師の役割を概説し、口腔衛生の重要性を説明できる。 9) 薬理学の序章として、薬物を安全に使用するための留意点を説明できる。 10) 歯科材料の種類とその多様性、未来へ繋がる新しい歯科材料の開発過程を説明できる。 11) 歯の形、歯の構造、歯の形成過程を説明できる。 12) 歯の硬組織疾患の病態や様々な治療法について概要を説明できる。 13) 「歯髄・根尖歯周組織の常態」と「歯痛を生じる疾患の概要」を説明できる。 14) 「歯周組織の構造」と「歯周病の病因・病態」について概説できる。</p>							
3	歯学入門セミナーⅢ	<p>歯学入門セミナーⅡに引き続き、自己の専門分野となる歯科医学に対する関心を高めながら自らのキャリアデザインを可能にするため、細分化された歯科の専門的な知識と歯科医師を取り巻く環境について理解する。</p>	<p>1) 歯科の診療で小児歯科の果たす役割と重要性について説明できる。 2) 歯学部学生が心肺蘇生法を学ぶ意義を述べ、その方法を説明できる。 3) 口腔環境ならびに身体への健康増進に寄与する矯正歯科治療の概要と効果を説明できる。 4) 医科と歯科の診療において口腔外科の果たす役割と扱う疾患を説明できる。 5) 口腔・顎顔面から口腔咽頭部に至る領域の生理的・臨床的な意義とその障害を説明できる。 6) 「放射線の医学・歯学における利用」、「人体に対する放射線の影響」および「放射線防護の方法」を説明できる。 7) 「内科疾患が口腔内病変に及ぼす影響」、「歯科診療が全身疾患に及ぼす影響」および「歯科診療と内科疾患との関連」を説明できる。 8) 歯科医に必要な外科学の知識、技能、考え方の基本を説明できる。 9) 有史以前から近世、現代までの医療・歯科医療の歴史的な流れを概説できる。 10) ルネッサンス期以降の近代歯科医療の始まりと西洋歯科医学の日本への導入について説明できる。 11) 現代の歯科医療の成立過程と口腔衛生習慣の移り変わりを説明できる。 12) 歯科のボランティア活動と歯学部同窓会活動の社会的な役割を説明できる。 13) 歯科診療所と歯科医師会の社会的な役割を説明できる。 14) 国際学会の意義と歯科医師の国際的活動について説明できる。 15) 総合病院における「歯科口腔外科の役割」と「医科とのコミュニケーションの必要性」を説明できる。 16) 歯科医療施設見学に基づいて、自らのキャリアデザインについて述べるができる。</p>	◎	○	○	◎	◎	◎	
4	歯科補綴学総論	<p>口腔は咀嚼器官や発語器官として機能し、生命維持や QOL にかかわる重要な器官のひとつである。歯質や歯を失うと、咀嚼障害、発語障害、審美障害などが生じる。 歯科補綴学 (Prostodontics) は、失われた歯質や歯および関連組織の欠損を、人工的に製作した補綴装置により形態と機能を回復することを扱う学問である。</p>	<p>1) 口腔の基本的な構造を説明できる。 2) 口腔の基本的な機能を説明できる。 3) 咬合に関連する形態と機能を説明できる。 4) 歯質や歯の欠損の原因を説明できる。 5) 歯の欠損による顎口腔系を構成する組織・器官の形態の変化について説明できる。 6) 歯の欠損による顎口腔系を構成する組織・器官の機能の変化について説明できる。 7) 歯質や歯の欠損に対する歯科補綴学的な治療法を説明できる。 8) クラウンブリッジ、部分床義歯、全部床義歯、デンタルインプラントの違いについて説明できる。 9) 歯の欠損に伴う咀嚼機能障害を説明できる。 10) 咀嚼機能障害の評価法が説明できる。 11) 歯の欠損が嚥下機能に及ぼす影響を説明できる。 12) 構音器官としての口腔の形態と機能を説明できる。 13) 発語機能の評価法を説明できる。 14) 歯の欠損による顔貌や口腔の変化を説明できる。</p>	○		○	◎			

		このうち歯科補綴学総論では、歯科補綴学の各論を学習するために必要となる基礎的な事項について学習する。さらに、歯科補綴学の各論であるクラウンブリッジ補綴学、部分床義歯補綴学、全部床義歯補綴学の概要についても学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 15)歯の欠損に伴う心理面への影響について説明できる。 16)咬合平面について説明できる。 17)天然歯列の彎曲について説明できる。 18)人工歯列の彎曲について説明できる。 19)Bonwill 三角について説明できる。 20)Balkwill 角について説明できる。 21)基準点について説明できる。 22)基準線について説明できる。 23)基準面について説明できる。 24)歯科補綴学に関連する下顎位について説明できる。 25)下顎の限界運動の特徴を説明できる。 26)下顎の基本運動の特徴と意義を説明できる。 27)下顎の機能運動の特徴と意義を説明できる。 28)クラウンブリッジによる治療の意義と具備条件を説明できる。 29)クラウンブリッジの種類と特徴を説明できる。 30)部分床義歯の種類、目的および意義を説明できる。 31)部分床義歯の特徴と適応症を説明できる。 32)全部床義歯の目的と意義を説明できる。 33)全部床義歯の特徴と適応症を説明できる。 						
5	歯科基礎科学	<p>基礎科学: 歯科理工学の理解度をより高めるために、物理、化学および生物に関する基礎知識を再確認する。</p> <p>解剖学: 人体解剖実習を履修する前準備としてマウスの解剖実習を行い、哺乳動物の身体の構造について理解する。</p> <p>生理学: 生命維持に重要な循環、呼吸および体液について化学および物理学から考えることで、具体的な生命の機能と結びつけられるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1)無機材料、有機材料および金属材料の性質の違いについて説明できる。 2)歯科材料の物理的性質および機械的性質について説明できる。 3)歯科材料の生物学的性質および化学的性質について説明できる。 4)生体材料の種類と性質について説明できる。 5)適切にマウスの解剖を行うことができる。 6)イオン電流の発生について説明できる。 7)細胞膜の性質と浸透圧物質について説明できる。 		◎	○			
6	情報の科学	パソコンを利用して情報を得る方法と発信する方法を学ぶための知識、技能および態度を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> 1)ハードウェアの構成を説明できる。 2)ソフトウェアの役割について説明し、操作できる。 3)データファイルの作成、複写、移動ができる。 4)キーボードの基本操作ができる。 5)インターネットシステムの概要、問題点、危険性、使用上のマナーを説明できる。 6)アカウントとパスワードを説明できる。 7)パスワードの管理ができる。 8)電子メールを送受信し、添付ファイルを扱うことができる。 9)WWW ブラウザを使うことができる。 10)検索エンジンを使って必要な情報を探し出すことができる。 11)ワープロソフトを使い、文書ファイルの作成や保存ができる。 	○		◎		◎	◎

			12)表計算ソフトを使い、作表、計算式を埋め込みとグラフ化できる。 13)プレゼンテーションソフトを使い、発表することができる。						
7	歯学入門セミナーⅣ	◎本科目は「医の原則」、「よき医療者、よき歯科医師とは」、「歯科医師の基本的態度Ⅲ」、「生涯学習Ⅲ」の4つのサブユニットから成る。 ◎本科目の目的は、社会に貢献する歯科医師になる歯学部生として求められる資質に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。	1) 医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。 2) 医の倫理に関する規範・国際規範(ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等)を概説できる。 3) 患者の権利・責務について説明できる。 4) 患者の自己決定権と歯科医師の義務、裁量権について説明できる。 5) 遺伝子検査について説明できる。 6) 治験について説明できる。 7) 遺伝子治療の問題点について説明できる。 8) 医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。 9) 生と死に関わる倫理的問題を説明できる。 10) 医療と介護・福祉との関わりを説明できる。 11) 介護保険制度における歯科医師の関わりを説明できる。 12) 災害医療について説明する。 13) 災害医療における歯科医師の責任を説明する 14) 社会における医療、歯科医療の役割を説明できる。 15) 根拠に基づく医療(EBM)と患者の物語に基づく医療(NBM)を説明できる。 16) 説明・指示・指導・教育の目的、役割を説明できる。 17) インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。 18) 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。 19) 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。 20) 説明を受ける患者の心理状態や理解度に配慮できる。 21) 患者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。 22) 歯科医師のプロフェッショナリズムについて説明できる。 23) 理想とする歯科医師像を表現できる。 24) コミュニケーションの定義、意義、役割について説明できる。 25) コミュニケーションのモデル、要素について説明できる。 26) 言語・非言語・準言語のコミュニケーションを実施できる。 27) 言語認識の仕組みについて説明できる。 28) 医療面接の目的と役割について説明できる。 29) 解釈モデルについて説明できる。 30) 個人的・社会的背景が異なる相手への対応について配慮できる。 31) 医療コミュニケーションの特殊性について説明できる。 32) コミュニケーションスキルの医療への応用について説明できる。 33) 生涯学習の重要性と必要性を説明できる。 34) 問題発見能力と問題解決能力について説明できる。 35) 理想像実現の行動計画を立案することができる。 自己省察を行うことができる。	◎	◎	◎		○	
8	歯学入門セミナーⅤ	・本科目は「歯科医療における安全性」「歯科保存学入門」「早期体験実習(口	1)歯科医療における安全性に関する実習の成果を要約でき、説明できる。 2)歯科医療における事故の特異性を説明できる。 3)う蝕症の概要について理解できる。	○		○	◎		

		<p>腔内の診察)」「研究室見学」「早期臨床実習(病院見学)」「心肺蘇生実習」の6つのサブユニットから成る。</p> <p>・本科目は、歯科医学を理解し、将来の医療人としての目的意識および自覚を持ち、歯学部学生としてふさわしい行動を自ら実践するために必要な知識、技術、態度を修得することが目的である。</p>	<p>4)う窩の処置(病的象牙質除去)について理解できる。</p> <p>5)歯質欠損に対する修復処置について理解できる。</p> <p>6)医療事故防止のため組織的なリスク管理が重要であることを説明できる。</p> <p>7)根管処置を説明できる。</p> <p>8)根管拡大形成を体験できる。</p> <p>9)医療従事者が遭遇する危険性について予防対処法を説明できる。</p> <p>10)歯周病学に関する授業の目的を説明できる。</p> <p>11)歯周病の病因と病態について基礎的事項を説明できる。</p> <p>12)歯周治療におけるブラッシングの重要性を説明できる。</p> <p>13)スクラビング法について説明できる。</p> <p>14)スクラビング法の手技を修得できる。</p> <p>15)診察とは何かを説明できる。</p> <p>16)診察の環境について説明できる。</p> <p>17)診察に必要な知識を認識して、自己学習できる。</p> <p>18)歯科医学と歯学部学生としての基本的態度を理解し、説明できる。</p> <p>19)歯科医師にとってのコミュニケーションの目的と技法を理解できる。</p> <p>20)医療現場で信頼関係を確立するためのコミュニケーションの条件を具体的に説明できる。</p> <p>21)心肺機能の停止状態の患者に対し、一刻も早く心肺蘇生法の開始を行わなくてはならないことを理解し、実施できる。</p>						
2 年 生	9	人体の構造	<p>歯学の基礎知識として、人体諸器官の基本的な形態、構造および機能を理解し、修得する。</p> <p>1)身体の部位を解剖学的に区別できる。</p> <p>2)身体の方角用語を正確に用いることができる。</p> <p>3)骨の基本構造と結合様式を説明できる。</p> <p>4)筋組織の構造と機能を説明できる。</p> <p>5)骨格筋の構造と機能を説明できる。</p> <p>6)生体を構成する主な骨と筋を列挙できる。</p> <p>7)頭蓋骨の構成と構造を説明できる。</p> <p>8)中枢神経系、末梢神経系の構造を説明できる。</p> <p>9)脈管系とリンパ系の構造と役割を説明できる。</p> <p>10)心臓の構造と血液循環を説明できる。</p> <p>11)呼吸器系の構造を説明できる。</p> <p>12)消化管の基本構造と機能を説明できる。</p> <p>13)内分泌系の構造と機能を説明できる。</p> <p>14)泌尿器系の構造と機能を説明できる。</p> <p>15)生殖器系の構造と機能を説明できる。</p> <p>16)感覚器の構造と機能を説明できる。</p>	△	◎	◎	○	△	
	10	実習:人体の構造	<p>教科書で学んだ人体構造の理解を深めるために、人体解剖により三次元的に理解する。献体について理解し、生命の尊厳や倫理観について考える。</p> <p>1)頭蓋骨の構成と構造を説明できる。</p> <p>2)身体の部位を解剖学的に区別できる。</p> <p>3)生体を構成する主な骨と筋を列挙できる。</p> <p>4)主な動脈と静脈を列挙できる。</p> <p>5)脳と脊髄の基本構造と機能を説明できる。</p> <p>6)口腔、鼻腔、舌、大唾液腺の特徴を部位ごとに説明できる。</p> <p>7)心臓、肺、縦隔の構造と機能を説明できる。</p> <p>8)消化管の基本構造と機能を説明できる。</p> <p>9)腎臓と尿路の構造と機能を説明できる。</p> <p>10)生殖器の構造と機能を説明できる。</p>	○	◎	◎	○		○
	11	歯の構造	<p>歯科医学の基礎を修得するために必要な歯と口腔</p> <p>1)歯と歯周組織の肉眼的形態と機能が説明できる。</p> <p>2)歯の種類、名称、歯種、歯式および歯の方角用語が説明できる。</p>		◎	○			

		<p>の諸器官について、形態学および組織学的な特徴を学ぶ。そして、これらの機能と構造を学ぶことで、臨床歯学で学ぶ疾患の病因や病態を捉えることができる学力を身につける。また、主として歯の形態の特徴について歯種、顎差、左右差の鑑別ができ、さらに顎口腔の機能を合わせ理解する。</p>	<p>3)エナメル質の構造と組織学的特徴が説明できる。 4)象牙質と歯髓の構造と組織学的特徴が説明できる。 5)セメント質と歯根膜の構造と組織学的特徴が説明できる。 6)歯槽骨と歯肉の構造と組織学的特徴が説明できる。 7)永久歯の歯種による形態と機能および歯の大きさを比較し、上下顎、左右側の違いを説明できる。 8)歯種(切歯、犬歯、小臼歯、大臼歯)の特徴を説明できる。 9)永久歯と乳歯の形態的特徴や相違点について説明できる。 10)上顎歯と下顎歯の位置関係を理解し、歯の配列と咬合について説明できる。 11)歯の異常について説明できる。</p>						
12	実習:歯の構造	<p>歯科医学の基礎となる歯の形態を理解するために、模型歯による歯の計測、写生、そして石膏粘土による造形を行い、立体的に歯の形態的特徴について修得する。</p>	<p>1)永久歯着脱模型を用い、歯の三歯徴と歯種、顎側、左右側の違いを修得し、歯の鑑別を説明できる。 2)歯軸の概念を修得し、歯全長、歯冠長、歯根長、歯冠近遠心径、歯冠頬舌径をノギスで測り、歯の計測方法を説明できる。 3)計測値をもとに、上顎中切歯の2倍値で方眼紙上に展開図として写生し、浮彫像の描記ができる。 4)上顎中切歯の3次元的な形態を理解するために、石膏粘土を用いて造形ができる 5)計測値をもとに、上顎犬歯の2倍値で方眼紙上に展開図として写生し、浮彫像の描記ができる。 6)上顎犬歯の3次元的な形態を理解するために、石膏粘土を用いて造形ができる。 7)計測値をもとに、上顎第一小臼歯の2倍値で方眼紙上に展開図として写生し、浮彫像の描記ができる。 8)上顎第一小臼歯の3次元的な形態を理解するために、石膏粘土を用いて造形ができる。 9)計測値をもとに、上顎第一大臼歯の2倍値で方眼紙上に展開図として写生し、浮彫像の描記ができる。 10)上顎第一大臼歯の3次元的な形態を理解するために、石膏粘土を用いて造形ができる。 11)計測値をもとに、下顎第一大臼歯の2倍値で方眼紙上に展開図として写生し、浮彫像の描記ができる。 12)下顎第一大臼歯の3次元的な形態を理解するために、石膏粘土を用いて造形ができる。 13)乳臼歯の形態を大臼歯と比較し、乳臼歯の鑑別ができる。</p>		◎	○			
13	細胞の構造と機能	<p>歯科医学を修得するために、生体の構造を明らかにする解剖学はすべての歯科医学の領域の基礎である。特に顕微解剖(組織学)は、病理組織検査・細胞診、組織培養、バイオテクノロジー関係の領域においては重要な基礎知識となる。からだのしくみの基本構造と機能を理解するばかりでなく、口腔諸器官の微細構造について、歯および歯周組織を主体としたそのはたらきや関連のある疾患について臨床的</p>	<p>1)細胞膜、核および細胞内小器官の構造と機能や細胞の分泌と吸収機構を説明できる。 2)上皮細胞、細胞の接着装置、腺の分泌物の性状、形態および分泌機構について説明できる。 3)結合組織や硝子軟骨、弾性軟骨および線維軟骨の特徴、さらに骨の構造、軟骨内骨化と膜内骨化の機序、成長様式を説明できる。 4)骨格筋組織、心筋組織、平滑筋組織の構造と機能を説明できる。 5)有髄神経線維、無髄神経線維やシナプスおよび末梢神経の構造について説明できる。 6)血液、骨髄の基本構造と機能について説明できる。 7)動脈、毛細血管、静脈や心臓、刺激伝導系、リンパ管、胸管の構造と機能的差異、さらに組織液、リンパ液の流れを説明できる。 8)リンパ小節、リンパ節、ワルダイエル咽頭輪を構成する各扁桃や、脾臓、胸腺の組織構造と機能を説明できる。 9)口唇、舌乳頭、耳下腺、顎下腺、舌下腺の細胞構成の違い、さらに口腔に続く咽頭と食道を組織学的に説明できる。 10)胃の粘膜と胃底腺、幽門腺、噴門腺と十二指腸、空腸、回腸や肝臓、膵臓の組織構造的特徴を説明できる。 11)腎臓の腎小体、尿管と尿管、さらに膀胱の移行上皮、筋層、さらに尿道の男女差について組</p>		◎	○			

		<p>にも修得させる。なお、関連する組織発生、器官発生についても理解する。</p>	<p>組織的に説明できる。 12) 精巣、精子を体外に導く導管系と、それに付属した腺と精液の性状、さらに陰茎の構造と機能を説明できる。 13) 卵巣と卵管、子宮の構造と機能の変化および膣の構造と機能、さらに外陰部、胎盤の構造と機能を説明できる。 14) 下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、胃腸膵内分泌系の構造と機能およびホルモンの作用を説明できる。 15) 表皮、真皮、皮下組織の口腔粘膜との比較、さらに毛と爪、皮膚腺の種類、形態および皮膚の構造、機能的差異を説明できる。 16) 眼球とその付属器、聴覚器と味蕾、さらに嗅上皮と嗅細胞の構造と機能を説明できる。 17) 受精から3層性胚盤の形成までの初期発生が説明できる。 18) 鰓弓の形成、顔面形成、舌・口蓋および口腔組織の発生が説明できる。 19) 鰓嚢由来の組織の発生を説明できる。 20) 歯堤、唇溝堤、歯胚の発生を説明できる。 21) エナメル質の形成機序を説明できる。 22) エナメル質の基質形成と石灰化の特徴を説明できる。 23) 象牙質の形成機序が説明できる。 24) 歯髓の3層の形成機序が説明できる。 25) 歯根形成および歯周組織形成が説明できる。 26) 歯の萌出と交換の機序が説明できる。 27) 口腔粘膜の構造と組織学的特徴が説明できる。 28) 顎関節の構造と組織学的特徴が説明できる。</p>						
14	<p>人体の機能</p>	<p>医学の基礎としての生理学を理解するために人体機能を中心として、細胞生理学、植物性機能および動物性機能について学び、生体の機能に関する基本的知識を修得する。</p>	<p>1) ニューロンの基本的構造と機能を説明できる。 2) 静止膜電位の形成と活動電位の発生機序を説明できる。 3) 神経細胞間のシナプス伝達を説明できる。 4) 筋の収縮機序であるフィラメントの滑走説を説明できる。 5) 体性反射の機序と機能的意味を説明できる。 6) 姿勢制御の機序と制御に関わる脳幹の役割を説明できる。 7) 随意運動における運動単位の動員機構を説明できる。 8) 反射による顎運動の調節機構を説明できる。 9) 咀嚼リズムの生成における脳幹の役割を説明できる。 10) 自律神経の機能とその制御様式を説明できる。 11) 心臓における電気現象と機械現象を説明できる。 12) 血管系およびリンパ系の構造と機能を説明できる。 13) 呼吸器の構造と機能およびその調節機構を説明できる。 14) 体性感覚受容器と感覚受容特性を説明できる。 15) 痛覚の受容器とその伝達様式を説明できる。 16) 発声器官と構音の形成機序を説明できる。 17) 聴覚の受容器と伝導路の構造と機能を説明できる。 18) 眼球の構造と機能および情報識別機構を説明できる。 19) 平衡器官の構造と機能およびその受容機構を説明できる。 20) 味覚受容器の構造と機能および識別機序を説明できる。 21) 嗅覚受容機構とその識別機構を説明できる。 22) 内分泌の機能と特徴ならびに調節機構を説明できる。 23) 消化管の構造と機能およびその調節機構を説明できる。 24) 体液と血液の組成並びに血液凝固について説明できる。 25) 体温調節中枢と産熱、放熱のしくみを説明できる。</p>	◎	◎	○			

			<p>26)腎臓の構造と機能並びに排尿について説明できる。</p> <p>27)体液の pH や浸透圧が一定に保たれる機序を説明できる。</p> <p>28)小脳と基底核の機能及びその運動調節機序を説明できる。</p> <p>29)大脳の構造と機能および脳機能計測法を説明できる。</p>							
15	実習:人体の機能	<p>生体の機能を調べるためには様々な実験や検査が行われる。それらが実際にどの様に行われるか知るために、よく用いられる測定技術を習得し、それら技術の限界や内在する誤差、危険性も併せて理解する。</p>	<p>1)心電図の記録を行い、アイントーベンの正三角形を作図できる。</p> <p>2)心電図と指尖脈波の関係を説明できる。</p> <p>3)正しく血圧測定をできる。また、誤った方法では測定値にどのような違いが生じるか説明できる。</p> <p>4)開口反射を誘発し、咬筋筋電図の応答から反射弓を説明できる。</p> <p>5)口腔および皮膚の二点弁別閾を計測し、触圧覚の感度を説明できる。</p> <p>6)音声波形の周波数分析を行い基本周波数とフォルマントの意義を説明できる。</p> <p>7)呼吸数、SpO₂、脈拍数、PETCO₂の計測を行い、深呼吸や息こらえ時の変化から呼吸の調節機序を説明できる。</p> <p>8)誘発筋電図の記録を行い、末梢神経の伝導速度を算出できる。</p> <p>9)味覚閾値の検査方法と甘味抑制物質による認知閾値の変化を説明できる。</p>			◎	◎	○		
16	生命の分子的基盤	<p>分子レベルの知識を基盤とした包括的な歯学の理解を可能とするために、生物がどのような分子から構成され、生命のない分子がどのように集合して生命ある生体を形成し、自己を維持・複製するかを理解し、特に顎顔面・口腔組織を構成する分子とその代謝については、その詳細を修得する。</p>	<p>【春】</p> <p>1)生命を構成する基本的物質(アミノ酸、タンパク質、糖質、脂質、ヌクレオチド、核酸)の構造と機能を説明できる。</p> <p>2)生体物質の合成と分解の過程を説明できる。</p> <p>3)生体内におけるエネルギーの流れについて説明できる。</p> <p>4)遺伝子の基本的な構造と機能について説明できる。</p> <p>5)遺伝情報発現の流れ(セントラルドグマ)と分子機構を説明できる。</p> <p>6)遺伝子工学の生命科学と医療への応用を説明できる。</p> <p>【秋】</p> <p>7)口腔および全身を構成する主な細胞外マトリックス分子の構造と機能を説明できる。</p> <p>8)口腔の軟組織と硬組織の構成成分を説明できる。</p> <p>9)硬組織形成の機構を分子レベルで説明できる。</p> <p>10)血液中のカルシウムの恒常性とその調節機構を説明できる。</p> <p>11)局所的に起こる骨の改造現象とその調節機構を説明できる。</p> <p>12)破骨細胞による骨吸収の分子機構を説明できる。</p> <p>13)「唾液成分とその機能」、「唾液に含まれる有機成分の生合成」および「唾液の分泌機構」を説明できる。</p> <p>14)歯面への付着物(ペリクル、プラーク、歯石)の成分、形成過程および病因性を説明できる。</p> <p>15)血液・尿に関する基本的な生化学的臨床検査法の原理と異常値の意味を説明できる。</p>	△		◎	◎	○	△	△
17	実習:生命の分子的基盤	<p>「生命の分子的基盤」という科目名で講義される内容は、すべて実験を通して得られた事実に基づいている。本実習では、生化学的実験を遂行するために必要とされる基本的な実験技術を習得して実際に実験することにより、講義内容についての理解を深め、知識の定着を図る。</p>	<p>【春】</p> <p>1)生化学実験の基本的な知識と技術を身につけ、効率良く安全に実験できる。</p> <p>2)糖質の分離と定性分析ができる。</p> <p>3)ホモジネートの調製と遠心分離法による細胞分画ができる。</p> <p>4)タンパク質量法の原理を理解して定量実験を実施し、「試料中のタンパク質濃度」と「細胞分画におけるタンパク質の回収率」を算出できる。</p> <p>5)酵素の活性測定を実施し、反応の初速度、酵素量、および比活性を算出できる。</p> <p>6)酵素活性の測定実験を行い、酵素反応のミカエリス定数(Km)と最大反応速度を算出し、薬物の阻害様式を推定できる。</p> <p>【秋】</p> <p>10)基本的な臨床生化学検査として、尿検査と血糖検査を実施できる。</p> <p>11)口腔と全身の関連性を理解した上で、尿検査と血糖検査に関する基準値と異常値の意味を説明できる。</p> <p>12)唾液の性状と成分を分析する実験を実施し、唾液の機能を分子レベルで説明できる。</p>	△		◎	◎	○	△	△

			13) 歯の脱灰を実施し、脱灰した歯にコラーゲンが含まれていることを実験で示すことができる。 14) 歯の脱灰液中の Ca と P を定量して Ca/P を算出し、その意味づけができる。							
18	生体材料・歯科材料	生体材料・歯科材料の組成と性質について学び、更にそれぞれの組成からなる歯科材料の性質の詳細について学ぶ。	1) 歯科用石膏の種類とそれぞれの性質について説明できる。 2) 印象材の種類とそれぞれの性質について説明できる。 3) 義歯床用材料の種類とそれぞれの性質について説明できる。 4) 成形歯冠修復材料の種類とそれぞれの性質について説明できる。 5) 歯科用セメントの種類とそれぞれの性質について説明できる。 6) 歯科用合金の種類とそれぞれの性質について説明できる。 7) 歯科用合金の熱処理のメカニズムについて説明できる。 8) ろう付けの原理について説明できる。 9) 鋳造法について説明できる。 10) 鋳造欠陥の種類とそれぞれの原因・特徴について説明できる。 11) 歯科用ワックスの種類とそれぞれの性質について説明できる。 12) 埋没材の種類とそれぞれの性質について説明できる。 13) 歯科用陶材の種類とそれぞれの性質について説明できる。 14) 歯科用インプラント材料の性質について説明できる。 15) CAD/CAM システムの原理とその材料について説明できる。 16) 再生医療、生体移植用材料について説明できる。		◎	○				
19	実習：細胞の構造と機能	細胞の構造と機能の講義で習得した知識をより深めるために、光学顕微鏡とコンピューターによるデジタルスライドを用い、組織標本をスケッチ・色付けをし、各組織学的名称を記入することで、立体的に正常組織構造を理解する。	1) 光学顕微鏡の構造と取り扱い方、実習で使用する永久標本の染色方法と細胞間橋の構造について説明できる。 2) 膠様組織、弾性線維、弾性組織の構造について説明できる。 3) 軟骨組織の種類と構造について説明できる。 4) 平滑筋組織、骨格筋組織、心筋組織と坐骨神経の構造について説明できる。 5) 骨組織の構造について説明できる。 6) リンパ節と脾臓の組織構造、さらにヒト末梢血球の分類とそれぞれの特徴と機能を説明できる。 7) 胸腺の皮質、髄質とハッサル小体、さらに口蓋扁桃の重層扁平上皮と陰窩の構造的特徴を説明できる。 8) H-E 染色、レゾルシン・フクシン染色による動脈と静脈の組織構造と血管系の役割の違いを説明できる。 9) 特殊粘膜である糸状、茸状乳頭と葉状乳頭および有郭乳頭の組織構造について説明できる。 10) 消化管の入り口である口唇と大唾液腺である耳下腺、顎下腺、舌下腺の組織構造の違いについて説明できる。 11) 腺組織である肝臓と内分泌腺と外分泌腺を合わせ持つ膵臓の組織構造を説明できる。 12) 食道および十二指腸、さらに腎臓の細胞と組織構造を説明できる。 13) 内分泌腺の一般的構造を理解し、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎の構造を説明できる。 14) 気管の粘膜上皮と粘膜下組織と、さらに肺臓の粘膜上皮の特徴的な構造を説明できる。 15) エナメル質の組織構造について説明できる。 16) 象牙質の組織構造について説明できる。 17) 歯髄の組織構造について説明できる。		◎	○				
20	実習：歯冠形成	歯科補綴治療の主目的である、歯列と咬合の修復と保全について理解を深め、診療技術を高めるために、歯冠形態・歯列内における歯の相互の位置関係・咬合関係・歯冠形態と顎運動との協調性についての知	1) 歯科医になる者としての自覚を持って、実習にふさわしい身だしなみで臨むことができる。 2) 実習機の使用法、実習器材の名称と使用目的を説明できる。 3) 歯列模型の役割を説明できる。 4) 咬合器の基本構造と役割を説明できる。 5) 生体の顎口腔系と、歯列模型・咬合器との対応関係について説明できる。6) 石膏を適切に扱うことができ、模型の咬合器への装着ができる。 7) インレーワックスとワックスアップ用器具を正しく扱うことができる。 8) 歯冠形態の造形手順を説明できる。		○	◎	◎			○

		識、および器材の扱い方を習得する。	<p>9) 歯冠の解剖的特徴を、立体的に造形して表現することができる。</p> <p>10) 歯冠形態が、歯列のなかで調和しているかを判定できる。</p> <p>11) 咬合関係が適切であるかを診断できる。</p> <p>12) 咬合紙の使用方法を説明できる。</p> <p>13) 理想的な咬合接触状態を説明できる。14) 機能的な歯冠形態について説明できる。</p>						
21	社会と歯学 I	人々の健康づくりやヘルスプロモーションをすすめていくために必要な一般衛生学、公衆衛生学、予防医学、および社会医学的な手法を身につけるために、歯科医師が健康づくりに関係する人々と協調して、臨床および社会において人々の健康づくりを支援できる知識と技術・態度を修得する。	<p>1) 人をとりまく環境と健康で過ごすための方法を説明できる。</p> <p>2) 健康の概念と健康の保持増進の意義について説明できる。</p> <p>3) 疫学と科学的根拠に基づいた医療 (EBM: Evidence-based Medicine) の応用を説明できる。</p> <p>4) 感染症の成立、伝播形式を説明できる。</p> <p>感染症の予防、ワクチン、サーベイランスを説明できる。</p> <p>5) 生活習慣病予防と健康管理の重要性について説明できる。</p> <p>6) 温熱環境と生体との関係を説明できる。</p> <p>空気の正常成分の変動と異常成分を説明できる。</p> <p>水、上下水道と生活を説明できる。</p> <p>7) 公害とは、公害予防のための仕組みを説明できる。</p> <p>8) 国民の栄養の現状と食事摂取基準について説明できる。</p> <p>9) 食中毒および食品の保存について説明できる。</p> <p>10) 将来の人口構造の変化について説明できる。</p> <p>11) 母子保健の水準、対策の現状を説明できる。</p> <p>12) 学校保健活動における保健教育、保健管理、学校安全について説明できる。</p> <p>13) 成人・老人保健に関する法令、制度を説明できる。</p> <p>14) 産業保健の法令、組織、健康管理・職業病・THP を説明できる。</p> <p>15) 社会保障制度の概要、歴史、制度を説明できる。</p>			◎	○	○	
22	実習：生体材料・歯科材料	各種歯科材料の実際の取り扱い法および性質について学ぶ。	<p>1) 印象材の種類とそれぞれの練和法および性質について説明できる。</p> <p>2) 歯科用石膏の種類とそれぞれの性質について説明できる。</p> <p>3) 義歯床用材料であるアクリルレジン組成と性質について説明できる。</p> <p>4) 成形歯冠修復材料であるコンポジットレジンの組成と性質について説明できる。</p> <p>5) インレーワックスの応力緩和による変形について説明できる。</p> <p>6) 歯科用セメントの組成および性質について説明できる。</p> <p>7) 加工効果と熱処理硬化のメカニズムの違いについて説明できる。</p> <p>8) 鋳造の一連の行程を理解し、鋳造収縮と埋没材の総合膨張との関係について説明できる。</p> <p>9) 固定ろう付けおよび自在ろう付けの手技を取得し、それぞれの原理について説明できる。</p>			◎	◎		
23	全部欠損補綴	無歯顎者に関する基礎的な事項と、診療に必要な知識や心構え、全部床義歯の特徴と製作法を習得する。	<p>1) 顎口腔領域の加齢変化について説明できる。</p> <p>2) 無歯顎者の解剖について説明できる。</p> <p>3) 全部床義歯の構成要素について説明できる。</p> <p>4) 全部床義歯の維持、安定について説明できる。</p> <p>5) 主訴、既往歴、現症、検査について説明できる。</p> <p>6) 全部床義歯の製作順序について説明できる。</p> <p>7) 無歯顎補綴における診断について説明できる。</p> <p>8) 無歯顎補綴における治療計画について説明できる。</p> <p>9) 印象採得の考え方について説明できる。</p> <p>10) 印象採得の種類と術式について説明できる。</p> <p>11) 仮想咬合平面について説明できる。</p> <p>12) 咬合採得を行う下顎位について説明できる。</p> <p>13) 咬合採得法について説明できる。</p> <p>14) 咬合器の種類と特徴について説明できる。</p> <p>15) 咬合器装着法について説明できる。</p>			○	○	◎	

			<p>16)義歯の咬合について説明できる。 17)人工歯選択について説明できる。 18)人工歯の排列法について説明できる。 19)歯肉形成の目的と方法について説明できる。 20)蟬義歯試適時の検査事項について説明できる。 21)義歯の埋没法について説明できる。 22)義歯の重合法について説明できる。 23)咬合器再装着について説明できる。 24)人工歯削合について説明できる。 25)義歯の咬合様式について説明できる。 26)義歯の研磨法について説明できる。 27)義歯装着時の検査について説明できる。 28)義歯装着時の処置について説明できる。 29)義歯装着時の指導について説明できる。 30)義歯装着後の不快事項について説明できる。 31)義歯装着後の不快事項への対応について説明できる。 32)不具合となった義歯への改善法について説明できる。 33)初診から術後管理までの流れについて説明できる。 34)即時義歯について説明できる。 35)治療義歯について説明できる。 36)無歯顎者のインプラント義歯について説明できる。</p>						
24	放射線・画像診断学（画像検査）1	<p>画像検査法の特徴と適応ならびに画像の解釈を理解するとともに、放射線の人体に対する影響と放射線防護の方法を併せて理解する。</p>	<p>1)放射線の種類、性質、測定法を説明できる。 2)放射線の人体(胎児を含む)への影響(急性影響と晩発影響等)を説明できる。 3)放射線防護の基準と方法を説明できる 4)エックス線画像の形成原理を説明できる 5)エックス線装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。 6)口内法、パノラマ、頭部エックス線撮影の種類および適応を説明できる。 7)口内法、パノラマエックス線撮影を行い、読影できる。 8)頭部エックス線撮影、造影検査、CT、歯科用コーンビーム CT、MRI、核医学検査、超音波検査法の原理と基本的特徴を説明できる。</p>	○	◎	○	◎		
25	臨床医学(外科1)	<p>歯科は侵襲を伴う治療が主な選択肢であり、本来的に外科の仲間で、症例ごとの治療法の選択においても外科と極めて似通った基準に立っており、外科学の本論へ導入する前に、患者の社会的経済的要件、患者の家族要件、患者の心理的要件、医療の供給側の要件とは何かを修得する。</p>	<p>1). 発声発語のメカニズムに関連する身体の器官、構造、機能などを説明できる。 2). 正常な発話をするための身体機能・構造発達が説明できる。 3). 医療従事者と患者・患者家族、医療従事者同士でコミュニケーションをとるのに必要な要素を言語面から説明できる。 4). 口腔咽頭機能の発達と障害が説明できる。 5). 高齢者の口腔機能、評価、機能訓練について説明できる。 6). 口腔・頭頸部の先天的後天的形態異常や評価、治療法を説明できる。 7). 「けが」という状態や対処法、治療法が説明できる。 8). 炎症の概念や発症機構が説明できる。 9). チーム医療にあたるための緊急性の度合の違いによる診療体制、加齢や病態における身体変化、病態、手術の問題点が説明できる。 10). 患者の心理状態や家族の医療における心理が説明できる。 11). 保険・医療制度について説明できる。 12). 患者に対して必要な介護体制、現代社会における介護・医療の状況が説明できる。 13). 患者がより良い治療を受けられるために歯科医師ができること、超高齢社会における歯科医療がどうあるべきか説明できる。 14). 外科学の概念や外科的診断法が説明できる。</p>	○	○	◎			◎

3 年 生	26	硬組織疾患の病態と治療	<p>歯の硬組織に生じる様々な疾患の病態を知るために、それら検査法、診断や治療法を学習し、その基本を修得する。</p> <p>歯の硬組織に生じる様々な疾患の病態と、それらの検査法、診断や治療法について理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 歯の硬組織疾患の概要を説明できる。 2) う蝕症の発症、進行のメカニズム、原因を知り、各ステージにおける病態を説明できる。 3) う蝕とう窩の違いを理解し、各々を説明できる。 4) 高齢者のう蝕についての概要を説明できる。 5) う蝕症の診断に関わる検査法を列挙し各々を説明できる。 6) う蝕症における脱灰と再石灰化について説明できる。 7) う蝕の予防、再発抑制について説明できる 8) 歯の損耗症の病態ならびに対応法を説明できる。 9) 象牙質知覚過敏症の病態ならびに対応法を説明できる。 10) 歯の破折の種類と対応について説明できる。 11) 歯の形成異常の種類を説明できる。 12) 変色歯の臨床的な分類を説明できる。 13) 硬組織切削法を列挙し、各々の特徴を説明できる。 14) 歯髄・象牙質の保護と修復方法について説明できる。 15) 術野隔離法、歯肉排除法、歯間分離法、隔壁法に必要な機材を列挙し、説明できる。 16) 直接法修復と間接法修復について説明できる。 17) 接着性修復、非接着性修復について説明できる。 18) 「窩洞」の意義、種類、具備すべき条件について説明できる。 19) アマルガム修復について説明できる。 20) 水銀汚染とその対策について説明できる。 21) レジン材料の特徴、材料の分類を説明できる。 22) レジン材料と歯質(エナメル質、象牙質)、他の修復材料(セラミクス、金属、セメント等)との接着メカニズムを理解し、その原理を説明できる。 23) レジン材料と接着を用いた修復方法の種類と概要を説明できる。 24) レジン修復後の術後の変化について説明できる。 25) 内分泌攪乱作用(環境ホルモン)について説明できる。 26) 各種歯科用セメントの種類について列挙し説明できる 27) 各種歯科用セメントの特徴を理解し、臨床での用途を説明できる。 28) セラミック修復の特徴を説明できる。 29) セラミック修復の種類、製法を説明できる。 30) セラミック修復の接着メカニズムを理解し、その原理を説明できる。 31) メタルインレー修復の特徴を説明できる。 32) 窩洞の仮封、暫間修復について説明できる。 33) メタルインレー修復における技工操作について説明できる。 34) メタルインレー修復における「合着」の原理を説明し、使用される材料、器具などを列挙できる。 35) ホワイトニングの種類、各術式について説明できる。 36) ホワイトニングの適応症、禁忌症について説明できる。 37) 保存修復領域と歯科用レーザーの関連について説明できる。 38) レーザーの基本原理、種類について説明できる。 39) レーザーと生体との相互作用について説明できる。 40) レーザーの安全性、危険性について説明できる。 41) 修復治療のメンテナンス、術後管理の意義について説明できる。 								○	○	◎	△	○			
	27	実習：硬組織疾患の病態と治療	<p>「硬組織疾患の病態と治療」の講義で学習した事項について理解を深めるため、模型歯やシミュレータ</p> <p>硬組織疾患の診断や治療のための器機の基本的な使用法や基礎的な治療法について実施することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 器械・器具の名称と用途を的確に言える。またそれらの把持法や整理が正しくできる。 2) エアータービン、マイクロモーターの構造を理解し、これらを正しく保持できる。 												○	◎	◎	△

		<p>一などを利用して実習し、知識を深める。また、硬組織疾患の診断や治療のための器機の基本的な使用法を学び、手技の修練をする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 3) 切削器具の取扱い、診療の姿勢保持が正しく行える。 4) う窩の構造を説明し、除去すべき病的歯質を指摘できる。 5) う窩の開拡、感染象牙質除去が正しく行える。 6) ラバーダムについて理解し、その基本的な操作法ができる。 7) 各種修復補助法について、正しく操作できる。 8) カリエスリスク検査の意義と目的を説明し、実施できる。 9) 象牙質知覚過敏症について理解し、ただしく処置できる。 10) 各種歯科用セメントについて正しく操作できる。 11) 各種接着材について、それぞれの接着のメカニズムを理解し、正しく操作できる。 12) 正確にレジン充填し、解剖学的形態を付与できる。 13) レジンの重合収縮など、材料的特性を理解し、これらに対応した基本操作ができる。 14) 窩洞の基本的概念し、正しく形成できる。 15) メタルインレー修復窩洞が正確に形成できる。 16) メタルインレー修復における技工操作が実施できる。 17) ポーセレン(セラミクス)材料の特徴を理解し、正しい接着操作ができる。 18) ポーセレンラミネートベニアを正しく形成できる。 19) 歯髄温存療法について理解し、正しく操作できる。 20) 無髄歯漂白について理解し、正しく処置できる。 						
28	実習:全部欠損補綴	<p>無歯顎者を対象とする全部欠損補綴治療に用いる全部床義歯について、義歯の形態や構造を理解し、製作手順と関連する器具の名称および操作法を習得する。</p> <p>さらに、この補綴治療が作業模型と咬合器を使った間接法のうえに成り立っていること、咬合様式として両側性平衡咬合が重要であること、材料の理工学的性質を理解して操作すると作業効率が向上することを実習として学ぶ。</p> <p>実習は、限られた時間と資源の中での全部床義歯の診療過程の一部分であるが、病院での臨床実習に必要とされる基本的事項の多くを学習することになる。”</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) トレー用常温重合レジンの適切な操作ができる。 2) 咬合床の構成を説明できる。 3) 咬合床の標準的な形態を説明できる。 4) 咬合床を製作できる。 5) 仮想咬合平面の設定のための基準点・基準平面が説明できる。 6) 仮想咬合平面設定のための器具の名称と操作方法が説明できる。 7) 仮想咬合平面を設定できる。 8) 下顎安静位法による咬合高径の設定の手順が説明できる。 9) 平均値咬合器について説明できる。 10) 咬合器の各部の構造と名称を説明できる。 11) 咬合平面板を適切に設定できる。 12) 模型を咬合器へ適切に装着できる。 13) スプリットキャスト法を説明できる。 14) オーバーバイトとオーバージェットを説明できる。 15) 前歯部の咬合堤の適切な削除ができる。 16) 前歯部人工歯を歯種の特徴をふまえて適切に排列ができる。 17) 人工歯固着のための適切なワックス操作ができる。 18) 調節彎曲が説明できる 19) 臼歯部人工歯の排列ができる。 20) 両側性平衡咬合の概念が説明できる。 21) 咬合器を適切に操作することができる。 22) 咬合紙による咬合接触の印記状態を判断できる。 23) 上下の人工歯の咬合接触関係を記録できる。 24) 審美的・機能的な歯肉形成について説明できる。 25) 審美的・機能的な歯肉形成を行うことができる。 	○	○	◎			

			26) ろう義歯を適切にフラスクに埋没できる。 27) 適切に流ろうができる。 28) 適切なレジン分離材の塗布ができる。 29) レジンの填入時期を説明できる。 30) 適切な填入をすることができる。 31) 適切な重合操作を行うことができる。 32) 適切な掘り出しのための器械器具の操作ができる。 33) スプリットキャストによる適切な咬合器再装着ができる。 34) 重合収縮による咬合関係の変化が確認できる。 35) 選択削合を適切に行うことができる。 36) 自動削合を適切に行うことができる。 37) 咬合小面の種類を区分できる。 38) 3つの咬合小面をスケッチして記録できる。 39) 埋没材の適切な除去ができる。 40) 研磨器具の名称が説明できる。 41) 研磨の手順が説明できる。 42) 研磨面が適切に研磨できる。						
29	検査における医療情報	歯科の医療情報を理解し、将来の歯科医療に有効活用するために、医用画像に関する知識を修得する。	1) 歯科における医療情報のシステムを説明できる。 2) 個人情報の保護と匿名化を説明できる。 3) 電子カルテについて概説できる。 4) 医療情報と画像情報を関連付けできる。 5) 歯科デジタル画像システムの構成を説明できる。 6) デジタル画像をダウンロードできる。 7) デジタル画像処理の手法を説明できる。8) 画像データに基づく手術計画法を説明できる。 9) ナビゲーションシステムを説明できる。 10) スキャニング、CAD、CAM を説明できる。 11) WWW ブラウザで検索エンジンを使って情報をさがす 12) 診療ガイドラインを検索できる。 13) 遠隔診断を説明できる。	○	◎	○	○	◎	○
30	医療コミュニケーション学	患者と良好な関係を築くために、医療におけるコミュニケーションの知識、技能、態度を修得する。	1) 医療コミュニケーションを説明できる。 2) 医療面接（初診、再診、説明、インフォームドコンセント、指導）の目的と役割を述べることができる。 3) 医療面接に必要な能力を列挙できる。 4) 医療面接を実施できる。	◎	○	○			◎
31	臨床医学(外科2)	歯科での診断や診療において、外科学の知識が関連付けられるよう外科学の総論や各論を修得する。	1). 周術期の管理や術後合併症について説明できる。 2). 血液凝固・出血・止血・輸血について理論と実践上の問題点が説明できる。 3). 水・電解質・輸液について理論を説明できる。 4). ショックのメカニズム、救急蘇生法を説明できる。 5). 損傷の種類、損傷の各々の特徴が説明できる。 6). 炎症と感染についてメカニズムと臨床との関連性が説明できる。 7). 腫瘍の診断と治療について、多様な腫瘍の中で口腔内腫瘍の位置づけができる。 8). 消化器系の構造、機能、疾患、診断法、治療法、歯科との関連性が説明できる。 9). 呼吸器系の構造、機能、疾患、診断法、治療法、歯科との関連性が説明できる。 10). 内分泌系の構造、機能、疾患、診断法、治療法、歯科との関連性が説明できる。	○	○	◎			◎
32	社会と歯学Ⅱ	人々の健康づくりやヘルスプロモーションをすすめていくために必要な一般衛生	1) 口腔衛生学の意味と内容を説明できる。 予防の水準、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションを説明できる。 2) 健康、歯口の健康、ライフスタイルを説明できる。	○	◎	○	○		○

		<p>学、公衆衛生学、予防医学、および社会医学的な手法を身につけるために、歯科医師が健康づくりに関係する人々と協調して、臨床および社会において人々の健康づくりを支援できる知識と技術・態度を修得する。</p>	<p>3) 歯の表層の性質、萌出後の成熟、再石灰化を説明できる。 4) 歯の沈着物の種類、歯垢の成立・代謝・意義を説明できる。 5) う蝕の原因・症状・疫学・予防法を説明できる。 6) 個人のう蝕リスクを評価する方法を説明できる。 7) 歯周疾患その他の疾患の原因・症状・疫学・予防法を説明できる。 8) う蝕予防処置法、フッ化物の歯科へ用いられるようになった由来と予防メカニズムを説明できる。 9) フッ化物の応用法の種類、応用法および注意事項について説明できる。 10) 鍍銀法、小裂溝鎮塞法の種類、予防効果について説明できる。 11) 国民栄養調査、食生活について説明できる。 12) 食生活と歯科疾患との関係について説明できる。 13) 歯口清掃の意義、注意事項、歯磨剤について説明できる。 14) 歯口清掃の方法、歯口清掃補助用具の使い方について説明できる。 15) 歯・口腔の健康をあらわす指数の条件、種類について説明できる。 16) 歯・口腔の健康をあらわす指数の応用法、使用上の注意について説明できる。 17) 疫学の方法論、分析法を説明できる。 18) 早(初)期う蝕診断、検診の種類、検出基準、検出誤差、調査法を説明できる。 19) 検診、調査結果の分析法を説明できる。 20) 統計調査資料の活用法について説明できる。 21) 公衆衛生活動の手順、地域展開法を説明できる。 22) 衛生教育、健康づくり、ヘルスプロモーションのねらい、方法・展開法を説明できる。 23) 母子歯科保健の法・制度、水準、指導法を説明できる。 24) 学校保健の法令・保健教育を説明できる。 25) 児童・生徒・学生の歯・口腔の健康づくりに関する学校保健管理を説明できる。 26) 成人・老人の歯科保健対策を説明できる、生活習慣病の改善指導を説明できる。 8020、寝たきり老人、高齢者への保健指導を説明できる。 27) 保健所の活動・歯科活動を説明できる。 28) 産業歯科活動の法令・職業性歯科疾患を説明できる。 29) 医療の国際協力と歯科活動を考える。 30) 市町村の活動・歯科活動を説明できる。</p>						
33	<p>病因・病態・診断</p>	<p>口腔を含む全身の疾患を理解するために、疾患の予防、診断、治療を主とした臨床歯科医学の基本的知識を習得する。</p>	<p>1) 細胞傷害と組織傷害および萎縮の原因と形態的所見について説明できる。 2) 修復と再生の意義とこれらの形態的所見を説明できる。 3) 循環障害の成因、形態およびその転帰を説明できる。 4) 炎症の概念、発症機構および病理組織学的特徴を説明できる。 5) 感染によって生じる病態を説明できる。 6) 免疫の概念を説明できる。 7) 腫瘍の病因と病態を説明できる。 8) 加齢に伴う変化を説明できる。 9) 歯と歯周組織に生じる疾患の概要を説明できる。 10) tooth wear の原因と症状を説明できる。 11) 口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。 12) 歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。 13) 歯の発育障害と加齢変化の病因と病態を説明できる。 14) 歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。 15) 歯周疾患の病因と病態を説明できる。 16) 顎骨に発生する歯原性嚢胞の種類と特徴を説明できる。 17) 顎骨に発生する非歯原性嚢胞の種類と特徴を説明できる。 18) 軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。</p>	○	◎	◎	◎		

			<p>19)歯原性腫瘍の種類と特徴を説明できる。 20)非歯原性良性腫瘍の種類と特徴を説明できる。 21)腫瘍類似疾患の種類と特徴を説明できる。 22)エプーリスの特徴と症状を説明できる。 23)前癌病変の特徴と症状を説明できる。 24)前癌状態の種類と特徴を説明できる。 25)口腔癌の特徴と症状を説明できる。 26)口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類を説明できる。 27)唾液腺腫瘍の種類と特徴を説明できる。</p>						
34	実習：病因・病態・診断	<p>口腔を含む全身の疾患を理解するために、疾患の予防、診断、治療を主とした臨床歯科医学の基本的知識を習得する。</p>	<p>1)細胞傷害と組織傷害および萎縮の形態の所見について説明できる。 2)修復と再生の形態の所見を説明できる。 3)循環障害の形態を説明できる。 4)炎症の病理組織学的特徴を説明できる。 5)感染によって生じる病態を説明できる。 6)免疫の病態を説明できる。 7)腫瘍の病態を説明できる。 8)加齢に伴う変化を説明できる。 9)歯と歯周組織に生じる疾患の概要を説明できる。 10)tooth wear の病態を説明できる。 11)口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。 12)歯の硬組織の疾患の病態を説明できる。 13)歯の発育障害と加齢変化の病態を説明できる。 14)歯髄・根尖歯周組織疾患の病態を説明できる。 15)歯周疾患の病態を説明できる。 16)顎骨に発生する歯原性嚢胞の特徴を説明できる。 17)顎骨に発生する非歯原性嚢胞の特徴を説明できる。 18)軟組織に発生する嚢胞の特徴を説明できる。 19)歯原性腫瘍の特徴を説明できる。 20)非歯原性良性腫瘍の特徴を説明できる。 21)腫瘍類似疾患の特徴を説明できる。 22)エプーリスの特徴を説明できる。 23)前癌病変の特徴を説明できる。 24)前癌状態の特徴を説明できる。 25)口腔癌の特徴を説明できる。 26)口唇・口腔領域の悪性腫瘍の種類を説明できる。 27)唾液腺腫瘍の種類と特徴を説明できる。</p>	○	◎	◎	◎		
35	感染と免疫	<p>細菌、真菌、ウイルス、および免疫機構を学ぶことによって、基本的な生命科学の原理を理解し、歯科領域における感染症の発症メカニズム、治療法および予防法を確立するための必要な知識を習得する。</p>	<p>1)真核生物と原核生物の違いについて説明できる。 2)原核生物である細菌細胞の構造の基本について説明できる。 3)グラム陰性及び陽性菌の構造と機能について説明できる。 4)代表的な細菌の培養方法について説明できる。 5)タンパク質と核酸代謝の概要について説明できる。 6)微生物を利用した遺伝子操作の概要について説明できる。 7)細菌のエネルギー獲得の概要について説明できる。 8)医科歯科における感染防御としての滅菌・消毒の概要について説明できる。 9)化学療法の概要について説明できる。 10)ウイルスの特徴と構造・増殖の概要について説明できる。 11)代表的な DNA ウイルスを列挙し、説明できる。</p>		◎	○	○		

			<p>12) 代表的な RNA ウイルスを列挙し、説明できる。</p> <p>13) 免疫機構の概略について説明できる。</p> <p>14) 自然免疫と獲得免疫を説明できる。</p> <p>15) 細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。</p> <p>16) アレルギーの種類を列記し、説明できる。</p> <p>17) 代表的な真菌症、原虫症を起こすものを列記し、説明できる。</p>						
36	生体と薬物	<p>薬理学は生体に対する化学物質(薬物)の作用を研究する学問であり、薬物の作用機序を知るために薬物が生体のどこで、どのように作用するのかを研究することを特徴としている。この特徴を有する薬理学では、基礎医学の知識を用いた総合的な薬理作用の理解および薬物に関する十分な知識を得ることにより、歯科医療あるいは研究活動において薬物を適切に使用する能力を身に付けることを目的としている。</p>	<p>1) 医学歯学における薬理学の意義および歯科医療との関連について説明できる。</p> <p>2) 医薬品の定義と日本薬局方の概要を説明できる。</p> <p>3) 薬理作用の基本形式を説明できる。</p> <p>4) 薬理作用と用量の関係を説明できる。</p> <p>5) 薬物-受容体の相互作用および、受容体の種類とその細胞内情報伝達系を説明できる。</p> <p>6) 受容体を介する薬理作用の機序と受容体を介さない機序を説明できる。</p> <p>7) 自律神経系の特徴と支配臓器、カテコールアミンやアセチルコリンの合成と代謝を説明できる。</p> <p>8) アドレナリン受容体に直接あるいは間接的に作用してアドレナリンと同様な作用を表す薬物およびアドレナリン時の作用を遮断する薬物について説明できる。</p> <p>9) アセチルコリン受容体に直接あるいは間接的に作用してアセチルコリンと同様な作用を表す薬物およびアセチルコリン時の作用を遮断する薬物について説明できる。</p> <p>10) 薬物の代表的な吸収経路と生体内における分布について説明できる。</p> <p>11) 薬物の代謝、と排泄について説明できる。</p> <p>12) 薬物の反復投与や併用により生じる現象を説明できる。</p> <p>13) 睡眠薬と鎮静薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>14) 向精神薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>15) 抗痙攣薬および痙攣誘起薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>16) 中枢性筋弛緩薬、中枢性興奮薬および認知症治療薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>17) 心血管系に作用する薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>18) 高血圧の治療薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>19) 体液の平衡に影響する薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>20) 造血と血液機能に関する薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>21) 脂質異常症治療薬およびビタミンの作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>22) 骨粗鬆症治療薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>23) 唾液腺に作用する薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>24) 消化器に作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>25) 呼吸器系に作用する薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>26) カルシウム代謝調節ホルモン、性ホルモンおよび関連薬物に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>27) 血糖値調節ホルモン、副腎皮質ホルモンおよび関連薬物に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>28) ヒスタミン、セロトニン、アンジオテンシン、ブラジキニン、サイトカイン類などのオータコイドおよびその関連薬物に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>29) プロスタグランジン類、ロイコトリエン類、トロンボキサン類などの脂肪酸類およびその関連薬物に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>30) 一般薬理学における基本的事項に関する知識を整理し説明できる。</p> <p>31) 消毒薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>32) 局所麻酔薬の作用および、その副作用・有害作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>33) 全身麻酔薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>34) 止血薬および筋弛緩薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>35) 麻薬性鎮痛薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p>			◎	○	○	

			<p>36) 解熱性鎮痛薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>37) ステロイド性抗炎症薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>38) 非ステロイド性抗炎症薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>39) 抗菌薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>40) 歯科疾患に適用される経口抗菌薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>41) 臨床上の緊急事態の対応に使用される薬物に関する基本的事項について説明できる。</p> <p>42) 抗悪性腫瘍薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>43) 抗真菌薬および抗ウイルス薬の作用に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>44) 齲蝕および口内炎の予防および歯周治療に使用される薬物に関する基本的事項を説明できる。</p> <p>45) 薬物の併用と相互作用に関する基本的事項を説明できる。</p>						
37	臨床医学(内科)	臨床医学の基本となる内科学を理解する上で重要な内科疾患、および歯科診療上留意すべき問題を抱える内科疾患を主に取り上げ、全身的疾患を視野に入れた歯科診療に必要な知識や思考方法を学ぶことを目的とする。	<p>1) 神経の解剖、機能および神経疾患の病態、診断、治療法を習得する。</p> <p>2) 腎臓の解剖、機能および腎疾患の病態、診断、治療法を習得する。</p> <p>3) 内分泌腺の解剖、機能および内分泌疾患の病態、診断、治療法を習得する。</p> <p>4) 膠原病の病態、診断、治療法を習得する。</p> <p>5) 消化管・肝臓・膵胆道系の構造、機能および消化管疾患・肝疾患・膵胆道系疾患の病態、診断、治療法を習得する。</p> <p>6) 代謝疾患の病態、診断、治療法を習得する。7) 心臓・脈管の構造、機能および循環器疾患の病態、診断、治療法を習得する。</p> <p>8) 呼吸器の解剖、機能および呼吸器疾患の病態、診断、治療法を習得する。</p> <p>9) アレルギー疾患の病態、診断、治療法を習得する。</p> <p>10) 血液・造血器・リンパ網内系の機能、血液疾患の病態、診断、治療法を習得する。</p> <p>11) 微生物の種類と特性、感染と生体の防御機構、滅菌、消毒、化学療法を習得する。</p>		◎	○			
38	実習:感染と免疫	細菌、真菌、ウイルス、および免疫学に関する実技を学ぶことによって、基本的な生命科学の原理を理解し、歯科医療に従事する際に必要な知識を習得する。	<p>1) グラム染色を行うことができる。</p> <p>2) 特殊染色で染色される菌体構造物について説明できる。</p> <p>3) スピロヘータなどの運動性細菌の運動性を説明し、位相差顕微鏡で観察できる。</p> <p>4) カンジダ菌の特徴を説明できる。</p> <p>5) 細菌の生化学的反応を説明できる。</p> <p>6) PCR 反応を説明できる。</p> <p>7) 抗体の特異性を説明できる。</p> <p>8) 抗菌薬の作用機序を説明できる。</p> <p>9) 口腔細菌の培養を行うことができ、グラム染色を行い顕微鏡で観察することができる。</p> <p>10) 歯肉溝と唾液中の微生物の種類の違いについて説明できる。</p> <p>11) 口腔微生物に対する消毒薬の効果について説明できる。</p> <p>12) 口腔細菌の各種糖および糖アルコールの発酵能について説明できる。</p> <p>13) 口腔細菌の不溶性グルカンを介した管壁付着能について、その機構を説明できる。</p> <p>14) プラスミド DNA の制限酵素による切断を行い、制限酵素の性質について説明できる。</p> <p>15) 遺伝子の切断と電気泳動を行い、その原理と手法について説明できる。</p> <p>16) インフルエンザウイルスの感染機構を説明できる。</p> <p>17) ウイルスの力価について説明できる。</p>		○	◎	○		
39	実習:生体と薬物	講義で学習した薬物について、実験を通して具体的に薬物の効果を詳細に観察し、薬理作用を統合的に理解すること、および実験	<p>1) 動物実験の心得、実習における一般的な注意事項を説明できる。</p> <p>2) 腸管平滑筋に作用する薬物の作用機序を説明できる。</p> <p>3) 血管平滑筋に作用する薬物の作用機序を説明できる。</p> <p>4) 抗炎症薬、抗アレルギー薬の作用機序を説明できる。</p> <p>5) 血圧に作用する薬物の作用機序を説明できる。。</p> <p>6) 局所麻酔薬の作用機序を説明できる。</p>		◎	○	○		

		結果をまとめ考察する力を養うことを目的としている。	<ul style="list-style-type: none"> 7) 局所麻酔時の合併症とその対応について説明できる。 8) 種々の方法で適用された薬物の生体内運命を説明できる。 9) 心臓に作用する薬物の作用機序を説明できる。 10) 鎮痛薬の作用機序を説明できる。 11) 鎮痛薬の一般的副作用、有害作用を説明できる。 12) 薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。 13) 薬理作用を規定する要因(用量と反応、感受性)および薬物の併用(拮抗作用)を説明できる。 14) 薬物の効果を規定する要因としての心理的影響を説明できる。 15) 薬物の作用に関する基本的事項を説明できる。 						
40	冠・橋義歯補綴	歯の実質欠損、歯列の部分的欠如ならびに咬合の補調和などに起因する、顎口腔系の機能、審美性の障害に対し、冠・橋義歯補綴治療でその回復を図るための知識と、その際に必要となる処置法と補綴装置の調製技術を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 1) クラウンブリッジ補綴学の定義と意義を説明できる。 2) クラウンブリッジ治療の歴史を説明できる。 3) クラウンブリッジ治療と健康科学とのかかわりを説明できる。 4) クラウンブリッジ治療の利益と不利益を説明できる。 5) クラウンブリッジ治療に関連するEBMを説明できる。 6) 各種歯冠修復の臨床的意義と適応症を説明できる。 7) 医療面接の意義と内容を説明できる。 8) 各種検査の意義と内容を説明できる。 9) 顎機能・咬合ならびに支台歯の評価・臨床診断について説明できる。 10) 感染予防の基本的な考え方と補綴歯科治療における対策を説明できる。 11) クラウンブリッジの失敗の原因をあげることができる。 12) 治療計画を左右する因子をあげることができる。 13) インフォームドコンセントの基本的な考え方を説明できる。 14) 高齢者・要介護者におけるクラウンブリッジ補綴について説明できる。 15) クラウンブリッジ補綴における各種要件について説明できる。 16) 種々の下顎位について説明できる。 17) 下顎運動範囲と基本的な下顎運動について説明できる。 18) 歯周組織の構成をあげ、それぞれについて説明できる。 19) クラウンブリッジ補綴歯科治療に先立ち実施する前処置の意義を理解する。 20) 各前処置と実際の補綴歯科治療との関連を説明できる。 21) 支台歯形成の目的と原則を説明できる。 22) 歯頸部辺縁形態の分類と適応症を列挙できる。 23) 歯質・歯髄・歯周組織への配慮を説明できる。 24) 支台歯形成について説明できる。 25) 支台築造について説明できる。 26) プロビジョナルレストレーションについて説明できる。 27) 試適、仮着時の注意事項を説明できる。 28) 仮着材の種類と特徴を説明できる。 29) 印象材の種類と特徴について説明できる。 30) 印象用器材について説明できる。 31) 歯肉圧排の目的と方法について説明できる。 32) 印象法の種類と特徴について説明できる。 33) 口腔内情報を記録する意義を説明できる。 34) 顎間関係の記録(咬合採得)の意義を説明できる。 35) 咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。 36) 咬合・咀嚼障害の病因と病態について説明できる。 37) 作業用模型の構成と要件を説明できる。 38) 模型材の種類と性質を説明できる。 	○	○	◎	◎	◎	○

			<p>39) 作業模型の種類と特徴を説明できる。</p> <p>40) 咬合器を分類し特徴を説明できる。</p> <p>41) ワックスの性質を説明できる。</p> <p>42) ワックスアップの種類と注意事項を説明し、行うことができる。</p> <p>43) 埋没材ならびに埋没法の種類と使用法を説明できる。</p> <p>44) 鑄造法の種類と方法を説明できる。</p> <p>45) 鑄造用金属の種類と特性を説明できる。</p> <p>46) 金属の研磨について説明できる。</p> <p>47) ブリッジについて説明できる。</p> <p>48) ポンティックの種類と選択基準を説明できる。</p> <p>49) ブリッジの連結方法と特徴を説明できる。</p> <p>50) 接着ブリッジについて説明できる。</p> <p>51) レジン前装冠について説明できる。</p> <p>52) 陶材焼付冠について説明できる。</p> <p>53) ジルコニアクラウンについて説明できる</p> <p>54) ジャケットクラウンの製作法を理解する。</p> <p>55) ジャケットクラウンの支台歯への装着法を説明できる。</p> <p>56) オールセラミック修復について説明できる。</p> <p>57) CAD/CAM による補綴装置について説明できる。。</p> <p>58) クラウンブリッジを装着時の点検項目を列挙できる。</p> <p>59) 歯科用セメントの種類と特徴を説明できる。</p> <p>60) 術後管理の重要性を説明できる。</p> <p>61) リコールについて説明できる。</p> <p>62) 問題発生の予防法を説明できる。</p> <p>63) クラウンブリッジの生存率について説明できる。</p>						
41	顎顔面部の成長発育と不正咬合	不正咬合の予防と改善について考究するために、顎顔面頭蓋の成長発育とそれに伴う咬合の育成、ならびに不正咬合の成因、身体への影響を探求し、基礎的な知識を修得する。	<p>1) 歯科矯正学の定義を説明できる。</p> <p>2) 不正咬合に伴って生じる障害を理解し、矯正歯科治療の目的と意義を説明できる。</p> <p>3) 成長発育の定義について説明できる。</p> <p>4) 頭部(脳頭蓋・顔・顎)の成長発育を説明できる。</p> <p>5) 歯列と咬合の成長発育を説明できる。</p> <p>6) 正常咬合の概念、成立・保持条件を説明できる。</p> <p>7) 不正咬合の原因、種類、診察、検査を説明できる。</p> <p>8) 不正咬合の症例分析結果の評価を行うことができる。</p> <p>9) 不正咬合の診断、治療法の立案および予防法を説明できる。</p> <p>10) 矯正力による全身および局所的反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。</p> <p>11) 矯正治療に必要な力学を説明できる。</p>	○	○	◎			
44	口腔・顎顔面領域の疾患 I-1	口腔外科学は医学と歯学との接点にあって、全身との関わりが強い。4 年生春学期では疾患の基本となる炎症から学び、引き続き外傷、顎関節疾患についての症状、診断、治療について学ぶ。	<p>1) 炎症の基本事項と消炎について説明できる。</p> <p>2) 歯周組織炎の原因、経過、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>3) 顎炎の原因、経過、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>4) 顎骨組織周囲炎の原因、経過、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>5) 歯性上顎洞炎と特異性炎の原因、経過、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>6) 口内炎の種類、原因、経過、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>7) 歯性全身感染症の原因、経過、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>8) 損傷の分類、症状、治療について説明できる。</p> <p>9) 口腔外科領域の軟組織損傷の症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>10) 顎骨骨折の症状、診断について説明できる。</p> <p>11) 顎骨骨折の治療について説明できる。</p>	○	○	◎			

			<p>12) 顎関節症の病態について説明できる。</p> <p>13) 顎関節症の診断と治療について説明できる。</p> <p>14) 顎関節の先天異常、発育異常、腫瘍の症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>15) 提示された上記疾患症例について症状、診断、治療について説明できる。</p>						
45	口腔・顎顔面領域の疾患Ⅱ-1	<p>1 口腔外科学総論 口腔外科を理解するために基本的な知識を習得する。</p> <p>2 腫瘍学総論 口腔の腫瘍を理解するために、基本的な医学的および医療における知識を習得する。</p> <p>3 悪性腫瘍①—総論— 口腔の腫瘍を理解するために、基本的な医学的および医療における知識を習得する。</p> <p>4 悪性腫瘍②—診断— 口腔悪性腫瘍の診断を理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>5 悪性腫瘍③—治療— 口腔悪性腫瘍の治療を理解するために、基本的な知識を習得する。</p> <p>6 悪性腫瘍④—緩和医療— 口腔悪性腫瘍に関わる緩和医療を理解するために、基本的な知識を習得する。</p> <p>7 腫瘍形成性疾患① 腫瘍形成性病変の成因となる炎症、嚢胞、良性腫瘍を理解するために、必要な知識と、非歯源性腫瘍について習得する。</p> <p>8 腫瘍形成性疾患②—顎骨内病変— 口腔(骨内)に発生する腫瘍の診断と治療を理解するために必要な知識を習得する。</p> <p>9 腫瘍形成性疾患③—顎骨外病変— 口腔(骨外)に発生する腫瘍の診断と治療を理解す</p>	<p>1 口腔外科とは</p> <p>1) 口腔外科と一般外科の類似点および相違点、特殊性を説明できる。</p> <p>2 腫瘍学総論</p> <p>1) 口腔のがんについて説明できる。</p> <p>2) 発癌について説明できる。</p> <p>3) 腫瘍の「診断の深さ」について説明できる。</p> <p>4) 医療のキーワード(EBM など)について説明できる。</p> <p>5) 医療安全について説明できる。</p> <p>3 悪性腫瘍① 総論</p> <p>1) 悪性腫瘍の定義について説明できる。</p> <p>2) 悪性腫瘍の原因・誘因について説明できる。</p> <p>3) 悪性腫瘍の疫学について説明できる。</p> <p>4 悪性腫瘍② 診断</p> <p>1) 悪性腫瘍における臨床診断、画像診断、病理診断、遺伝子診断について説明できる。</p> <p>2) 悪性腫瘍の臨床病期による分類について説明できる。</p> <p>5 悪性腫瘍③ 治療</p> <p>1) 悪性腫瘍の治療および合併症、継発症について説明できる。</p> <p>2) 口腔癌に対する化学療法の原理と具体的な投与法を理解できる。</p> <p>3) 抗癌化学療法に併用される放射線療法等を説明できる。</p> <p>6 悪性腫瘍④ 緩和医療</p> <p>1) 緩和医療について説明できる。</p> <p>2) 口腔癌の末期症状について説明できる。</p> <p>3) がん疼痛について説明できる。</p> <p>4) DNR について説明できる。</p> <p>7 腫瘍形成性疾患① 総論</p> <p>1) 腫瘍形成の成因について説明できる。</p> <p>2) 腫瘍形成性病変の病理組織学と臨床所見の関連、臨床的意義について説明できる。</p> <p>8 腫瘍形成性疾患② 顎骨内の腫瘍形成性病変</p> <p>1) 顎骨内の歯源性/非歯源性腫瘍の分類について説明できる。</p> <p>2) 顎骨内の歯源性腫瘍の治療、予後について説明できる。</p> <p>3) 嚢胞の定義、成り立ち、発育、構造について説明できる。</p> <p>4) 嚢胞の分類 について説明できる。</p> <p>9 腫瘍形成性疾患③ 口腔にみられる顎骨外の腫瘍形成性病変</p> <p>1) 腫瘍類似疾患の定義、成り立ち、発育、構造について説明できる。</p> <p>2) 腫瘍類似疾患の分類について説明できる。</p> <p>3) 腫瘍類似疾患の病理組織学と臨床所見の関連、臨床的定義について説明できる。</p> <p>4) 腫瘍類似疾患の治療手術について説明できる。</p> <p>10 腫瘍形成性疾患④ 頭部・顔面にみられる腫瘍形成性病変</p> <p>1) 顔面・頭部の腫瘍形成性病変の成り立ち、発育、構造について説明できる。</p> <p>2) 頭部・顔面の腫瘍形成性病変の疾患分類について説明できる。</p> <p>3) 頸部・顔面の腫瘍形成性病変の病理組織学と臨床所見の関連、臨床的定義について説明できる。</p> <p>4) 腫瘍形成性病変の治療手術について説明できる。</p>			○	○	◎	

		<p>るために必要な知識を習得する。</p> <p>10 腫瘍形成性疾患④ー顔面・頸部ー 顔面・頭部に発生する腫瘍の診断と治療を理解するために必要な知識を習得する。</p> <p>11 臨床遺伝学入門 歯と顎顔面の形成異常 口腔・顎顔面頭蓋の形成異常の病因を理解するために、必要な基礎医学を習得する。</p> <p>12 先天異常総論 口腔と顔面の発生を理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>13 先天異常総論 歯、口腔軟組織の異常を理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>14 先天異常総論 口唇裂・口蓋裂、顔面斜裂、顔面横裂などの口腔・顎・顔面の先天異常を理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>15 先天異常各論 口腔・顎顔面頭蓋の先天異常、口腔顎顔面に病変を現す症候群を理解するために、必要な知識を習得する。</p>	<p>11 臨床遺伝学入門 染色体異常・遺伝性疾患</p> <p>1) 染色体異常の発現メカニズムについて説明できる。</p> <p>2) 染色体異常と病態について説明できる。</p> <p>12 先天異常総論 総論</p> <p>1) 口腔・顎・顔面の正常発生と異常発生について説明できる。</p> <p>2) 口腔・顎・顔面の発生時期について説明できる。</p> <p>3) 口腔・顎・顔面の先天異常の原因・分類について説明できる。</p> <p>13 先天異常総論 歯、頭蓋顔面骨および口腔軟組織の異常</p> <p>1) 歯の萌出異常について説明できる。</p> <p>2) 奇形歯について説明できる。</p> <p>3) 口腔の小帯・舌・粘膜・唾液腺の異常について説明できる。</p> <p>4) 顎顔面骨の形態異常について概説できる。</p> <p>14 先天異常総論 口唇裂・口蓋裂、顔面斜裂、顔面横裂 他</p> <p>1) 口唇口蓋裂の治療について説明できる。</p> <p>2) 口唇口蓋裂に継発する機能障害とその治療について説明できる。</p> <p>15 先天異常各論 染色体異常・遺伝性疾患</p> <p>1) 染色体異常・遺伝性疾患の症状について説明できる。</p> <p>2) 染色体異常・遺伝性疾患の治療について説明できる。</p>						
46	小児の歯科治療(1)	<p>小児歯科学授業終了時において、歯科臨床医として小児の歯科的管理が可能な基本的知識と技術、態度を習得する。</p>	<p>1)小児歯科学の目的、意義を説明できる。</p> <p>2)小児の発達と栄養の特徴について説明できる。</p> <p>3)頭蓋顎顔面、歯列・咬合、歯の発育について説明できる。</p> <p>4)小児歯科の治療流れと臨床的対応について説明できる。</p> <p>5)小児の齲蝕と予防について説明できる。</p> <p>6)小児の齲蝕治療について説明できる。</p> <p>7)小児の歯周疾患について説明できる。</p>	◎	△	○	◎	○	
4年生	47 社会と歯学Ⅲ	<p>人々の健康づくりやヘルスプロモーションをすすめていくために必要な一般衛生学、公衆衛生学、予防医学、および社会医学的な手法を身につけるために、</p>	<p>1) 社会科学的な視点で歯科を考えることを説明できる。</p> <p>2) 医療需要の特異性、医療需要を左右する因子について説明できる。</p> <p>3) 法の種類、歯科医師と法的義務、保険医療情報の取り扱いを説明できる。</p> <p>4) 医療法、医師法・薬剤師法・保健師助産師看護師法を説明できる。</p> <p>5) 医療関係者と個人情報保護について説明できる。</p> <p>6) 歯科の医療経済の特異性、それを左右する因子について説明できる。</p>		◎	○	○	○	

		<p>歯科医師が健康づくりに関係する人々と協調して、臨床および社会において人々の健康づくりを支援できる知識と技術・態度を修得する。</p>	<p>7) 社会保障制度の内容について説明できる。 8) 社会保障制度のうち社会福祉について説明できる。 9) 社会保障制度のうち介護保険制度について説明できる。 10) 歯科医療管理の中で歯科医療のシステムの実際について説明できる。 11) 歯科医療における滅菌・消毒、院内感染の予防を説明できる。 12) 歯科医療の中で歯科医院における人事管理について説明できる。 13) 歯科医療における保険診療の字際を説明できる。 14) 歯科診療における医事紛争の原因と予防について説明できる。 15) 歯科医療における医療倫理とその特異性を説明できる。</p>						
49	部分欠損補綴	<p>部分床義歯学は、歯列の部分的な欠損部を可撤性義歯で補填・修復して、口腔の諸機能の回復・改善を図ることに関する理論と術式とを追究する、臨床歯科医学の一分野である。部分床義歯の適用対象は、1歯欠損から、1歯残存まで、その臨床的守備範囲は広い。本講義では、先ず歯列の部分的欠損によって生ずる顎口腔系の形態的・機能的病態を理解し、次いで、そこに適用される部分床義歯の形態と機能、およびその具体的な製作法を修得する。</p>	<p>1) 歯科補綴学の中で部分床義歯の特殊性と歴史的変遷を説明できる。 2) 歯の欠損による具体的な生体の変化と義歯による形態的・機能的回復の機構を説明できる。 3) 部分床義歯の構成要素を理解し、各部の名称およびその形状と機能を説明できる。 4) 欠損様式と部分床義歯の分類を説明できる。 5) 支持、把握、維持機能の義歯を安定させる基本事項を理解し、生体の負担能力、特に部分床義歯に特有な残存歯部と欠損部との力学的調和の重要性を説明できる。 6) 部分床義歯の各種の支台装置それぞれの名称と形態、適応性を説明できる。 7) 線鈎、鑄造鈎の双方に関して、基本的な支台装置としての価値を理解し、それらの製作法、材料などを含め、その機能原理と荷重のバランスの重要性を説明できる。 8) 磁性アタッチメントも含め、クラスプ以外の各種支台装置に関して説明できる。 9) 部分床義歯の臨床手順の概要を理解し、各診査項目の意義と臨床手順を説明できる。 10) 部分床義歯の設計に関する多様な論理とそれぞれの根拠を説明できる。 11) 印象材、印象用トレー、咬合器など、各種の臨床術式とそれに関する材料、用具について、具体的な内容を説明できる。 12) 義歯の完成までの手順を理解し、装着後の調整、修理、患者教育などを説明できる。</p>	△	○	○	○		
50	不正咬合の診断と治療	<p>不正咬合の予防と改善のために、必要となる診断、治療方針・方法の策定ならびに治療の実際について学習する。</p>	<p>1) 矯正治療における固定の定義、意義、種類について説明できる。 2) 矯正治療の種類、開始時期、流れについて説明できる。 3) 乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期の治療について説明できる。 4) 外科的矯正治療、先天性疾患に起因する不正咬合の治療について説明できる。 5) 矯正治療における抜歯の目的と意義、必要生について説明できる。 6) 抜歯・非抜歯の判定基準について説明できる。 7) さまざまな矯正装置の基本構成、作用機序、使用方法、適応について説明できる。 8) 矯正治療における保定の必要生と意義、種類を説明できる。 9) 矯正治療の偶発症、起こりうる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。 10) 矯正治療に用いる器具・器材の名称と使用方法、材料の特性を説明できる。 11) 矯正治療後の評価方法について説明できる。</p>	○		○	◎		
51	実習：冠・橋義歯補綴	<p>・授業の目的：歯質欠損ならび歯列の一部欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解するために実施する。</p>	<p>学生は歯質欠損に対する歯冠修復の基本的な態度、知識および技能を身につける。 1) 支台歯形成の目的と原則を理解する。 2) 患者にこれから行うことを伝えることができる。 3) 処置に応じたポジショニングができる。 4) 形成する歯を正しく選択できる。 5) 適切な切削器具を選択できる。 6) ハンドピースの操作が適切にできる。 7) 全部金属冠・前装冠の支台歯形成の基本的な手技ができる。 8) 歯頸部辺縁形態の分類と適応を列挙できる。</p>	○	◎	○	◎	○	○

- | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | <p>9) 歯髄保護の種類を述べ、その重要性を説明でき
 10) 歯髄保護に配慮できる。
 11) 清潔に配慮した操作ができる。
 12) 患者の痛みや不快感に配慮した器材操作ができる。
 13) 安全性に配慮した器材操作ができる。
 14) プロビジョナルレストレーションの臨床的意義を説明できる。
 15) プロビジョナルレストレーションの種類と製作法を説明し、実施する。
 16) 患者にこれから行うことを伝えることができる。
 16) 処置に応じたポジショニングができる。
 17) 常温重合レジンの基本的手技ができる。
 18) 試適、仮着時の注意事項を説明できる。
 19) 仮着材の種類と特徴を説明できる。
 20) 仮着の基本的手技ができる。
 21) 清潔に配慮した操作ができる。
 22) 患者の痛みや不快感に配慮した器材操作ができる。
 23) 安全性に配慮した器材操作ができる。
 24) 印象材の種類と特徴について説明できる。
 25) 印象用器材について説明できる。
 26) 歯肉圧排の目的と方法について説明できる。
 27) 印象採得の基本的手技ができる。
 28) 顎間関係の記録(咬合採得)の意義を説明できる。
 29) 咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。
 30) 作業模型の要件を列挙できる。
 31) 模型材の種類と性質を説明できる。
 32) 作業模型の種類と特徴を説明できる。
 33) 作業模型の製作法を説明できる。
 34) 作業模型作製の基本的手技ができる。
 35) 咬合器を調節機構により分類できる。
 36) 的確に咬合器装着の基本的手技ができる。
 37) 的確に歯型分割の基本的手技ができる。
 38) 的確に歯型のトリミングの基本的手技ができる。
 39) ろう型の要件を列挙できる。
 40) ワックスの種類と特性を理解する。
 41) ろう型の種類を理解する。
 42) ワックスアップの基本的手技ができる。
 43) 安全性に配慮した器材操作ができる。
 44) 埋没材ならびに埋没法の種類と使用法を説明できる。
 45) 埋没の基本的手技ができる。
 46) 鋳造法の種類と方法を説明できる。
 47) 鋳造用金属の種類と特性を説明できる。
 48) 鋳造の基本的手技ができる。
 49) 鋳造体調整の基本的手技ができる。
 50) 咬合調整について説明できる。
 51) 金属の研磨について説明できる。
 52) 咬合調整の基本的手技ができる。
 53) 研磨の基本的手技ができる。
 54) クラウン試適前の点検項目を列挙できる。</p> | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

			<p>55) クラウン試適時の調整手順を説明できる。</p> <p>56) クラウン隣接面の調整方法を説明できる。</p> <p>57) クラウン咬合面の調整方法を説明できる。</p> <p>58) 仮着が必要な場合と必要でない場合を説明できる。</p> <p>59) 歯科用セメントの種類をあげることができる。</p> <p>60) 各種歯科用セメントの特徴を述べるができる。</p> <p>61) クラウン試適の基本的手技ができる。</p> <p>62) 咬合調整の基本的手技ができる。</p> <p>63) クラウン合着の基本的手技ができる。</p> <p>64) セメント練和の基本的手技ができる。</p> <p>65) 余剰なセメントを除去できる。</p> <p>66) メタルコーピングの形態を説明し、作製する。</p> <p>67) レジンとの維持方法を説明し、実施する。</p> <p>68) メタルフレーム調整の基本的手技ができる。</p> <p>69) レジン前装冠の利欠点を説明できる。</p> <p>70) レジン前装冠の適応症について説明できる。</p> <p>71) 前装材と金属の維持、結合方法について説明できる。</p> <p>72) 前装部の製作について手順を説明できる。</p> <p>73) メタルフレーム調整の基本的手技ができる。</p> <p>74) レジン築盛の基本的手技ができる。</p> <p>75) ブリッジの臨床的意義を説明できる。</p> <p>76) ブリッジの適応症を説明できる。</p> <p>77) ブリッジの種類をあげ、説明できる。</p> <p>78) ブリッジの構成要素について説明できる。</p> <p>79) ブリッジの支台装置の種類を説明できる。</p> <p>80) ポンティックの種類をあげ、説明できる。</p> <p>81) ポンティックの種選択基準を説明できる。</p> <p>82) ブリッジの支台装置とポンティックの材料を説明できる。</p> <p>83) ブリッジの設計における支台歯の選択基準を説明できる。</p> <p>84) ブリッジの連結方法と特徴を説明できる。</p> <p>85) 陶材焼付冠の適応症を述べるができる。</p> <p>86) 陶材と金属の機械的性質を説明できる。</p> <p>87) 陶材と金属の結合を理解する。</p> <p>88) メタルコーピングの形態を説明できる。</p> <p>89) 陶材焼付冠の製作法を説明できる。</p> <p>90) 支台歯形成の目的と原則を理解する。</p> <p>81) ハンドピースの操作が適切にできる。</p> <p>92) 適切な切削器具を選択できる。</p> <p>93) 支台歯形成の基本的手技ができる。</p> <p>94) 支台築造の意義、種類および特徴を説明できる。</p>						
52	口腔・顎顔面領域の疾患 I-2	<p>口腔外科学は医学と歯学との接点にあって、全身との関わりが強い。4年生秋学期では引き続き顎関節疾患および顎変形症、血液疾患についての症状、診断、治療について学ぶ。</p>	<p>1) 顎変形症の種類、症状について説明できる。</p> <p>2) 顎変形症の治療について説明できる。について説明できる。</p> <p>3) 口腔領域における血液疾患について説明できる。</p> <p>4) 口腔領域における血小板異常についての症状と対処を説明できる。</p> <p>5) 口腔領域における血液凝固異常についての症状と対処を説明できる。</p> <p>6) 口腔領域における赤血球系疾患についての症状と対処を説明できる。</p> <p>7) 口腔領域における白血球系疾患についての症状と対処を説明できる。</p>	○	○	◎			

		さらに口腔外科疾患の疼痛、潰瘍、腫脹について学ぶ。	8) 感染予防について説明できる。 9) 顎関節の炎症の症状、診断、治療について説明できる。 10) 顎関節の脱臼と骨折の症状、診断、治療について説明できる。 11) 顎関節の強直症の症状、診断、治療について説明できる。 12) 口腔外科領域の疼痛について説明できる。 13) 口腔外科領域の潰瘍について説明できる。 14) 口腔外科領域の診断について説明できる。 15) 提示された上記疾患症例について症状、診断、治療について説明できる。							
53	口腔・顎顔面領域の疾患Ⅱ-2	<p>1 神経疾患 口腔顎顔面領域の神経疾患を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>2 唾液腺疾患各論① 唾液腺に生じる炎症と腫瘍、唾液腺の発生異常と機能異常を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>3 唾液腺疾患各論② 唾液腺に生じる炎症と腫瘍、唾液腺の発生異常と機能異常を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>4 口腔の関与する機能障害① 口腔の機能および機能障害を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>5 口腔の関与する機能障害② 口腔の機能および機能障害を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>6 薬物療法 口腔領域の疾患の治療に際し全身管理に必要な薬剤を理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>7 手術学①— 総論 手術における合併症、手術侵襲、後遺障害、継発症について理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>8 手術学② 滅菌消毒、感染対策</p>	<p>1 神経疾患 三叉神経痛・顔面神経麻痺・知覚麻痺・味覚異常</p> <p>1) 三叉神経痛の診断、治療を説明できる。 2) 顔面神経麻痺の診断、評価、治療を説明できる。 3) 知覚麻痺・味覚異常の原因、診断、治療を説明できる。</p> <p>2 唾液腺疾患各論① 唾液腺の炎症・腫瘍</p> <p>1) 唾液腺の炎症性疾患、腫瘍について症状、検査、診断、治療を説明できる。 3 唾液腺疾患各論② 唾液腺の発生異常・機能異常</p> <p>1) 唾液腺の発生異常、機能異常について症状、検査、診断、治療を説明できる。 4 口腔の関与する機能障害①</p> <p>1) 摂食嚥下機能の病態、症状、検査、診断、治療を説明できる。 2) 上気道維持の障害について病態、症状、検査、診断、治療を説明できる。 5 口腔の関与する機能障害②</p> <p>1) 摂食嚥下機能の病態、症状、検査、診断、治療を説明できる。 2) 上気道維持の障害について病態、症状、検査、診断、治療を説明できる。 6 薬物療法</p> <p>1) 歯科・口腔外科の治療で必要な薬剤の薬理、種類、薬効、適応、を説明できる。 7 手術学①</p> <p>1) IC、合併症、手術侵襲、後遺障害、継発症について説明できる。 8 手術学②</p> <p>1) 手術器材等の滅菌消毒。手指や術野の消毒の方法、適応、効果を説明できる。 2) 手術部位感染 (SSI) について説明できる。 9 手術学③</p> <p>1) 手術器具・材料、手術の基本手技を説明できる。 2) 軟組織 (皮膚移植・粘膜移植)・骨組織 (骨移植・骨延長を含む) の手術について適応・禁忌、手技、器具を説明できる。 10 手術学④</p> <p>1) 周術期における全身管理について適応、管理方法を説明できる。 11 手術学⑤</p> <p>1) 抜歯の基本手技について適応、術式、器具を説明できる。 2) 顎骨内病変の手術について適応、術式、器具を説明できる。 12 手術学⑥</p> <p>1) 組織欠損の再建について適応、術式、再建組織・皮弁、機能・形態の回復を説明できる。 13 手術学⑦</p> <p>1) 顎矯正手術について適応、術式、機能と形態について説明できる。 2) 顎矯正手術と睡眠障害について説明できる。 14 手術学⑧</p>				○	○	◎	○

		<p>手術器材等の滅菌消毒、手術の基本手技、感染対策を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>9 手術学③— 手術の基本手技 軟組織・骨組織の手術基本手技を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>10 手術学④— 周術期管理 手術の周術期における全身管理を理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>11 手術学⑤— 抜歯、顎骨内病変の手術 抜歯および顎骨内病変に対する手術の基本手技を理解するために、必要な知識を習得する。</p> <p>12 手術学⑥— 再建手術 組織欠損の再建を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>13 手術学⑦— 顎矯正手術 顎矯正手術の術式を理解するために、基本的知識を習得する。</p> <p>14 手術学⑧— 補綴前外科、機能補填 補綴前外科、機能補填を理解するために、基本的知識を習得する。</p>	<p>1) 補綴前外科の適応、術式、効果を説明できる。</p> <p>2) 機能補填をする症例の適応、術式、機能補填の効果を説明できる。</p>							
54	放射線・画像診断学(画像検査)2	<p>画像検査法の特徴と適応ならびに画像の解釈を理解するとともに、放射線の人体に対する影響と放射線防護の方法を併せて理解する。</p>	<p>1)放射線の人体(胎児を含む)への影響(急性影響と晩発影響等)を説明できる。</p> <p>2)エックス線装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。</p> <p>3)口内法、パノラマエックス線撮影を行い読影できる</p> <p>4)造影検査法、超音波検査法、CT、MRI および核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。</p> <p>5)口唇・口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞・腫瘍の診断法を説明できる。</p>	○	◎	○	◎	○	◎	
55	小児の歯科治療(2)	<p>小児歯科学授業終了時において、歯科臨床医として小児の歯科的な管理が可能な基本的知識と技術、態度を習得する。</p>	<p>1)小児の外科的処置について説明できる。</p> <p>2)小児の歯の外傷と処置について説明できる。</p> <p>3)小児の口腔保健と医療連携について説明できる。</p> <p>4)咬合誘導について説明できる。</p> <p>5)障害児の歯科診療について説明できる。</p>	◎	△	○	◎		○	

			6)小児歯科と遺伝性疾患について説明できる。 7)小児歯科治療時に留意すべき小児疾患について説明できる。						
56	実習:小児の歯科治療	小児歯科学の講義終了後、小児歯科臨床のために必要な治療計画の立案やう蝕予防処置およびう蝕処置などの基本的な技能、態度、知識を習得する。	1)小児歯科における医療面接ができる。 2)小児の歯科疾患の診察、診断および治療計画の立案、説明が正しくできる。 3)乳歯と幼若永久歯の歯冠修復を適切にできる。 4)予防填塞およびフッ化物塗布が正しくできる。 5)患児および保護者に対しブラッシング指導が適切にできる。 6)保険装置の説明ができる。	◎		○	◎		○
57	実習:不正咬合の診断と治療	不正咬合の治療のため、矯正診断やセファロ分析を修得し、さまざまな矯正装置についての知識・作製技能を修得する。	1)セファロ計測および、その評価を行うことができる。 2)矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。 3)バンドの試適、印象採得ができる。 4)プライヤーを用いてワイヤー屈曲が適切にできる。 5)自在ろう着ができる。 6)舌側弧線装置の作製、装着ができる。 7)タイポドント模型を用いて、補助弾線による歯の移動ができる。 8)マルチブラケット装置の装着ができ、ブラケットによる歯の移動様式を理解できる。	○		○	◎		
58	臨床医学(小児科)	小児への歯科学的アプローチはいわゆる「子ども」からでは遅く、出生前からの事象をすでに考慮しなければならず、それを踏まえた全身の各臓器と「口腔・歯」との関連性を、成長・発達の各段階に応じて理解していくことが重要である。この認識に立つと、小児の歯科医療を行う上での適切な判断力と応用力を身に付けることが可能となる。本講座では小児科学のこれら基本的な病態解析法とそれに沿った診療法の視点を修得して行く。必要な知識を身に付け、周術期の小児の管理を安心して遂行できるように基礎知識を獲得することを目指す。	小児科学が対象とする学問範囲の理解と小児の基本的診察法及び治療法を説明できる。 出生前成因に基づく疾患の分類、対処法と遺伝カウンセリング法について説明できる。 感染症の概念とその対処法を理解する。更に小児期特有のウイルス感染症について理解できる。 小児期の細菌、真菌症などについて理解する。また予防接種の重要性を説明できる。 歯科で遭遇する上気道・下気道疾患を中心に解説する。更に、摂食障害と呼吸器系疾患の親密な関連性を理解できる。 歯科医療に必要な小児消化器系疾患、各種肝炎を理解できる。 生体防御機構とその疾患、アレルギー疾患、川崎病やリウマチ疾患の概念を理解できる。 腎疾患の診断、検査と小児期の代表的疾患について理解できる。 先天性心疾患を中心とした病態の把握できる。 小児神経・筋疾患の特徴を理解し、これら疾患に対する歯科治療上の重要点について説明できる。 歯科医が知るべき発達障害や精神発達障害児への知識・理解を説明できる。 新生児期の特有な疾患と病態を理解できる。 小児期の血液疾患、腫瘍性疾患の診断と治療を学ぶ。また輸血の問題点・注意点を述べる。 成長ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、副甲状腺ホルモン疾患を中心に理解できる。 小児の事故、虐待、突然死に対する認識・対処は歯科医にとっての必須事柄であり、理解できる。			○			
59	インプラント歯科学	疾病や外傷等により生体の一部が欠損した場合、その欠損を形態的かつ機能的に修復する方法には移植学、再生医学、インプラント学の3つがある。インプラント学は人工材料で作られた人工臓器を用いて修	1)デンタルインプラントの歴史の変遷、インプラントの目的・意義、インプラントの種類と特徴を説明できる。 2)インプラントの基本構造と生体材料、治療手順を説明できる。 3)インプラントに必要な解剖学、医療安全を説明できる。 4)インプラントに必要な診察、インフォームドコンセント、検査を説明できる。 5)インプラントのための画像診断を説明できる。 6)インプラントのリスクファクターを説明できる。 7)インプラント埋入外科手術と周術期管理を説明できる。	○		○	◎		

		<p>復する方法である。その中で、口腔インプラント学は上顎または下顎骨内にインプラント体(人工歯根)を埋入し、その上に形態、咬合機能の回復に関与する上部構造を構築する方法である。その基礎的知識と臨床術式について習得する。</p>	<p>8) 骨組織・軟組織のマネージメントを説明できる。 9) インプラント補綴を説明できる。 10) CAD/CAM を用いたインプラント補綴を説明できる。 11) インプラント治療におけるトラブルと合併症を説明できる。 12) インプラントのための病理を説明できる。 13) インプラントのメンテナンスを説明できる。 14) インプラントの社会性を説明できる。</p>							
60	<p>実習：インプラント歯科学</p>	<p>欠損補綴治療におけるインプラント治療について、術前診断や埋入手術の手順と手技、補綴装置の形態や構造を理解し、治療手順と関連する器具の名称および操作法を習得する。</p> <p>実習は、限られた時間と資源の中での口腔インプラント診療の過程の一部分であるが、口腔インプラント治療に必要とされる基本的事項の多くを学習することになる。</p>	<p>1) インプラントの基本構造を説明できる。 2) インプラントに使用される生体材料を説明できる。 3) インプラントの治療手順を説明できる。 4) インプラントのための画像診断を説明できる。 ・診断用ステントについて説明、製作ができる。 ・診断用ステントが製作できる。 5) インプラント埋入外科手術の時期・術式を説明できる。 ・サージカルガイドプレートについて説明できる。 ・1 回法と 2 回法の違いを説明できる。 ・インプラント手術の流れが説明できる。 ・インプラント埋入手順が説明できる。 ・二次手術の手順が説明できる。 6) インプラント補綴の印象法について説明できる。 ・クローズトレー法とオープントレー法の違いが説明できる。 ・インプラント体レベルとアバットメントレベルの違いが説明できる。 ・印象材の種類と操作手順が説明できる。 7) インプラント補綴の咬合採得について説明できる。 ・使用器材と操作手順が説明できる。 8) アバットメントの種類と連結について説明できる。 ・スクリュー固定とセメント固定の違いが説明できる。 9) インプラントの補綴法、補綴装置が説明できる。 ・単独冠、連結冠、ブリッジを説明できる。 ・可撤性ブリッジ、オーバーデンチャーを説明できる。 ・暫間補綴装置について説明、製作ができる。</p>	○		○		◎		
61	<p>歯髄組織の常態と疾患</p>	<p>歯の健康を回復し、歯の機能を維持させるために、歯内治療学を理解することで、歯と歯周組織に生じる疾患の治療の進め方の基本的な知識を修得する。</p>	<p>1) 歯内治療学の目的、意義を説明できる。 2) 歯・歯周組織の構造と機能を説明できる。 3) 口腔内診査法を説明できる。 4) 歯の硬組織疾患・歯髄・根尖歯周組織疾患の症状、診断および治療法を説明できる。 5) 無菌的処置を説明できる。 6) 根管処置を説明できる。 7) 根尖性歯周組織疾患の臨床病理と臨床症状を説明できる。 8) 根管充填の目的、時期および方法を説明できる。 9) 根尖性歯周組織疾患の診断法と治療方針を説明できる。 10) 根管充填を説明できる。 11) 歯髄・根尖歯周組織疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。 12) 歯髄・根尖歯周組織疾患の治療時における合併症(偶発症)について、種類、処置および予防を説明できる。</p>			○		○		◎

			<p>13) 歯髄・根尖歯周組織疾患の治療後の治癒機転と予後を説明できる。</p> <p>14) 歯内外科手術の種類と適応症を説明できる。</p> <p>15) 失活歯の変色の原因、種類および処置を説明できる。</p> <p>16) 歯根吸収の原因、症状、診断および処置を説明できる。</p>							
62	実習: 社会と歯学	<p>2年生、3年生で学習した社会と歯学(衛生学・口腔衛生学)の知識を実際に応用できるようにするために、各実習内容に関する方法技術を実習形式にて修得する。</p>	<p>1-2) 社会と歯学(衛生学、口腔衛生学、社会歯科学)の実技、口腔衛生学・衛生学の実習、器具の使用、研究診査ができる。</p> <p>3-7) 研究計画を立案し、実施(実験・測定)することができる。</p> <p>8-9) 各検定方法(t検定、カイニ乗検定、相関係数の有意性検定)を実施するとともにその内容を説明できる。</p> <p>10-11) う蝕の検出、CPIの検出とその誤差の原因と対策について説明できる。</p> <p>12-13) フッ化物物局所塗布、小裂溝充填およびRDテスト、グルコースクリアランスについて説明できる。</p> <p>14-15) グループ毎に行う研究結果の発表に対する質問に対する的確な受け答えができる。</p>	○	○	◎	◎			
63	実習: 歯髄組織の常態と疾患	<p>歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の治療のために、根管治療についての知識、技能および態度を修得する。</p>	<p>1) 歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の診察、検査、診断が正しくできる。</p> <p>2) 適切な髄腔開拓ができる。</p> <p>3) ラバーダム防湿ができる。</p> <p>4) 隔壁が適切にできる。</p> <p>5) 電氣的根管長測定が正しくできる。</p> <p>6) 根管拡大・形成、根管洗浄が適切にできる。</p> <p>7) 根管貼薬・仮封が正しくできる。</p> <p>8) 根管充填が適切にできる。</p> <p>9) 仮封材・根管充填材の除去が適切にできる。</p> <p>10) 補綴物の除去が適切にできる。</p>		○	○	◎	◎		
64	歯周組織疾患の病態と治療	<p>歯周病の診断・治療を理解し学習するために、基礎系科目で学んだ知識を歯周病学の分野に当てはめてゆくことで、歯周組織の構造、歯周病の病態と病因を学び、基礎的知識を習得する。</p> <p>さらに、歯周病に関する基礎的な知識をもとに、歯周病治療を行えるようにするために、歯周病の治療法に加え、治療技術の習得に必要な基本的知識を修得する。</p>	<p>1) 歯周疾患の特徴と症状を説明できる。</p> <p>2) 歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。</p> <p>3) 歯肉、歯根膜、セメント質、歯槽骨の機能について説明できる。</p> <p>4) 歯周疾患の病因と病態および進行の機序を説明できる。</p> <p>5) 歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。</p> <p>6) 歯周組織に特徴的な免疫応答について説明できる。</p> <p>7) 歯肉炎・歯周炎の初発因子と修飾因子を説明できる。</p> <p>8) プラーク付着・形成・成熟過程を説明できる。</p> <p>9) 咬合性外傷の原因と病態および進行の機序を説明できる。</p> <p>10) 歯周病と関連する全身疾患を列挙できる。</p> <p>11) 歯周炎に喫煙が及ぼす影響を説明できる。</p> <p>12) 禁煙指導・支援の重要性を説明できる。</p> <p>13) 歯周病の検査の目的について説明できる。</p> <p>14) 歯周組織検査の検査項目を列挙し、それぞれの項目を測定する意義を説明できる。</p> <p>15) 咬合・フレミタスの検査法について説明できる。</p> <p>16) 健全な歯周組織および歯周病に関連するエックス線写真所見を説明できる。</p> <p>17) 日本歯周病学会の歯周病分類で示される疾患について説明できる。</p> <p>18) 歯周治療の標準的な進め方について説明できる。</p> <p>19) 歯周基本治療、歯周外科手術、口腔機能回復治療、メンテナンス、サポータティブペリオドンタルセラピーについて説明できる。</p> <p>20) 歯周基本治療の目的を説明できる。</p> <p>21) 炎症性因子と外傷性因子について説明できる。</p> <p>22) 適切な口腔清掃法を指導し、セルフケアについての動機づけができる。</p> <p>23) 機械的プラークコントロールについて説明できる。</p>	○	○	◎	◎	○	◎	

			<p>24) スケーリング・ルートプレーニングの目的と方法について説明できる。</p> <p>25) 化学的ブラークコントロールの目的と方法について説明できる。</p> <p>26) 咬合性外傷の病態と治療法について説明できる。</p> <p>27) 咬合調整の目的と方法について説明できる。</p> <p>28) ブラキシズムの種類と対応法について説明できる。</p> <p>29) 暫間固定の目的と方法について説明できる。</p> <p>30) 歯周外科手術の種類と適応症を説明できる。</p> <p>31) 切除療法・組織付着療法・歯周組織再生療法・歯周形成手術の理論、目的、種類、適応症、術式、治癒形態について説明できる。</p> <p>32) 歯周外科手術に用いる器材の選択ができる。</p> <p>33) 歯周組織再生療法で用いられる材料について説明できる。</p> <p>34) 症例に応じた歯周外科手術法の選択ができる。</p> <p>35) 根分岐部病変に特徴的な原因、診断とその処置について説明できる。</p> <p>36) 歯周病治療における口腔機能回復治療について説明できる。</p> <p>37) メインテナンスとサポータティブペリオドンタルセラピーの目的、方法と意義について説明できる。</p> <p>38) 口臭の発生機序について説明できる。</p> <p>39) 口臭症の分類とその治療法について説明できる。</p> <p>40) 歯周病分野におけるグローバルな最新研究が今後の歯科医学発展の礎となることを認識できる。</p>						
65	実習:歯周組織疾患の診断と治療	<p>歯周病治療を実践するために、「歯周組織の常態、病態と病因」・「歯周疾患の診断と治療法」講義の知識を基礎に、模型実習を通して、歯周治療において必要とされる基本的術式を修得する。</p>	<p>1) 健常な歯周組織および歯周病に関連するエックス線写真所見を抽出できる。</p> <p>2) エックス線写真検査の結果を説明できる。</p> <p>3) 歯周組織検査の検査項目を列挙し、それぞれの項目を測定する意義を説明できる。</p> <p>4) フロービングデプス、クリニカルアタッチメントレベル、動揺度の測定ができる。</p> <p>5) 歯周組織検査の結果を説明できる。</p> <p>6) 各種ブラッシング法を実践できる。</p> <p>7) 歯間清掃用具の使用法を実践できる。</p> <p>8) 適切な口腔清掃法を指導し、セルフケアについての動機づけができる。</p> <p>9) 適切なスケーリング・ルートプレーニングができる。</p> <p>10) キュレット型スケーラーの研磨(シャープニング)ができる。</p> <p>11) 咬合異常(早期接触や側方運動時における干渉)を検査し、記録することができる。</p> <p>12) 検査結果に基づいた咬合調整が実践できる。</p> <p>13) A-splint(ワイヤーレジン固定)が実践できる。</p> <p>14) エナメルボンディングレジン固定を説明できる。</p> <p>15) メスや骨膜剥離子を用いた歯肉弁の形成ができる。</p> <p>16) 縫合(外科結び)ができる。</p> <p>17) 歯肉切除術の術式を模型上で実践できる。</p> <p>18) フラップ手術の術式を模型上で実践できる。</p>	◎	△	◎	○	◎	○
66	実習:部分欠損補綴	<p>部分床義歯学は、歯列の部分的な欠損部を義歯で補填・修復して、口腔の諸機能の回復・改善を図ることに関する理論と術式を追及する、臨床歯科医学の一分野である。この部分床義歯の実際の製作方法を習得することが実習の主</p>	<p>1) 部分床義歯の特徴と意義を学ぶ研究用模型のサベイングを行い、義歯設計の手順を適切に行うことができる。</p> <p>2) 部分床義歯の構成要素であるレスト・ガイドプレーン・隣接面板を理解し、その前処置意義と機能を把握し、正しく設計できる。</p> <p>3) 基礎床、咬合堤の意義を理解し、実際の基礎床が正しく製作できる。</p> <p>4) 咬合堤の製作方法を習得し、ワックス操作が正しくできる。</p> <p>5) 部分欠損患者の咬合採得を理解し、咬合採得ができる。</p> <p>6) 下顎運動を理解し、部分床義歯製作に用いる咬合器に模型装着ができる。</p> <p>7) フェイスポートランスファーとチェックバイト法を学び、咬合器の扱いができる</p>	△	○	○	◎		

		<p>目的である。このためには部分床義歯学はもちろんのこと、歯科理工学および材料学的な基礎知識も十分に理解していることが必要であり、これらの知識を参考にして、実習模型上で部分床義歯を製作する。</p>	<p>8) 複模型を使用して鑄造鉤を製作できる。 9) 線鉤の種類と意義を理解し、その製作ができる。 10) レストの種類と意義を理解し、鑄造レストを製作できる。 11) 部分床義歯の構成要素を理解し、そのうちの各種支台装置の適応症を判断できる。 12) 部分床義歯の人工歯排列ができる。 13) 部分床義歯の歯肉形成ができる。 14) 部分床義歯の埋没、填入、取り出しができる。)義歯取りだし方法を習得する。 15) 部分床義歯の咬合様式を理解し、それに合わせた人工歯の削合ができる。 16) 研磨の意義を理解し、効率の良い研磨ができる。</p>						
67	歯科麻酔	<p>臨床麻酔に必要な麻酔法の基礎を学び理解する。</p>	<p>1) 歯科麻酔に必要な基礎知識について説明できる。 2) 局所麻酔薬について説明できる。 3) 血管収縮薬について説明できる。 4) 局所麻酔法について説明できる。 5) 局所麻酔薬による偶発症について説明できる。 6) 局所麻酔による偶発症について説明できる。 7) 全身麻酔について説明できる。 8) 吸入麻酔薬について説明できる。 9) 静脈麻酔薬について説明できる。 10) 鎮静法について説明できる。</p>			◎	◎	◎	
68	臨床予備実習	<p>臨床実習において診療参加型臨床実習を行うために、歯科治療における必要不可欠な手技や医療安全および患者との良好なコミュニケーションについての基本的な知識、技能、態度を修得する。</p>	<p>・医療安全について理解し、配慮することができる。 ・感染予防について理解し、配慮することができる。 ・良好な患者－歯科医師関係を築くための対応ができる。 ・初診時の医療面接において必要な情報を収集できる。 ・説明および指導において必要な内容を診査結果などをもとに話すことができる。 ・口唇・口腔・顎顔面領域の基本的な診察および検査ができる。 ・患者の全身状態の把握のための基本的手技ができる。 ・歯科治療の基本的手技を実施できる。 ・心肺蘇生を実施できる。</p>	◎	○	○	◎		○
69	高齢者の歯科治療	<p>わが国は超高齢者社会となり、高齢化率は今後も上昇すると推定され、高齢者の歯科治療を行う機会は今後も増加すると予測されている。そこで、高齢者の身体的、精神・心理的特徴や顎口腔領域の特徴について学び、さらに適正な歯科治療を行うための基本的事項を修得する。</p>	<p>1) 管理に留意すべき全身疾患について説明できる。” 2) 高齢者の栄養管理について説明できる。” 3) 高齢者の齲蝕の特徴を説明できる。 4) 高齢者の非齲蝕性硬組織疾患の特徴を説明できる。 5) 高齢者の歯の変色・着色の特徴を説明できる。 6) 高齢者の歯の硬組織疾患への対応を説明できる。”” 7) 高齢者の歯髄疾患の特徴を説明できる。 8) 高齢者の根尖性歯周組織疾患の特徴を説明できる。 9) 高齢者の歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療を説明できる。” 10) 高齢者に多くみられる疾患を説明できる。 11) 高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。 12) 高齢者に対する抜歯の適応症と禁忌を説明できる。” 13) 老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。 14) 加齢に伴う構造変化に対する口腔外科手術を説明できる。” 15) 高齢者に頻度の高い顔面・口腔に症状を呈する神経疾患を説明できる。 16) 高齢者に頻度の高い口腔に症状を呈する粘膜疾患を説明できる。” 17) 老化に伴う唾液腺の構造と機能の変化を説明できる。 18) 高齢者に多くみられる口腔乾燥症の種類と特徴、症状、診断法および治療法を概説できる。 19) 唾液腺の放射線障害について説明できる。</p>	○		○	◎		

			<p>20) 高齢者に多くみられる唾液腺腫瘍の種類と特徴、症状、診断法および治療法を説明できる。</p> <p>21) 高齢者に多くみられる腫瘍類似疾患の種類と特徴を列挙できる。”</p> <p>22) 高齢者特有の歯周病の特徴を理解する。</p> <p>23) 高齢者における歯周病への処置上の留意点を理解する。</p> <p>24) 高齢者に多くみられる全身疾患と歯周病の関わりを理解する。</p> <p>25) 老化に伴う歯周組織の変化を説明できる。</p> <p>26) 高齢者に多くみられる歯周病について説明できる。</p> <p>27) 高齢者における口腔ケアについて説明できる。</p> <p>28) 在宅要介護者も含む要介護高齢者の歯周病治療時の注意点を説明できる。</p> <p>29) 高齢者に多くみられる全身疾患と歯周病との関連を説明できる。”</p> <p>30) 患者の身体的心理的社会的背景を考慮した訪問歯科診療上の口腔管理を理解する。</p> <p>31) 訪問歯科診療における口腔ケアの留意点を理解する。</p> <p>32) 口腔機能維持の為の口腔ケアを理解する。</p> <p>33) 高齢者に多くみられる補綴装置の管理を理解する。</p> <p>34) 訪問先の患者を取り巻く諸環境を理解し、在宅要介護者も含む要介護高齢者の訪問歯科診療時の注意点を説明できる。</p> <p>35) 口腔管理プランを策定するにあたり、加齢が歯科疾患のリスクファクターであることを説明できる。</p> <p>36) 多職種が連携する必要性と重要性を理解し、訪問歯科診療における口腔管理プランを説明できる。</p> <p>37) 高齢者の心理と行動を理解し、口腔ケアについて説明できる。</p> <p>38) 在宅要介護者も含め要介護高齢者の口腔ケア時の注意点を説明できる。</p> <p>39) 高齢者から若年者まで訪問診療の要請があることを理解し、ライフステージに応じた口腔ケアが歯科疾患の予防になることを説明できる。</p> <p>40) 誤嚥性肺炎や摂食・嚥下機能との関わりを理解し、口腔衛生管理の重要性を説明できる。</p> <p>41) 全身的加齢変化に応じた口腔機能管理を説明できる。</p> <p>42) 加齢に伴う免疫機能の低下を理解し、口腔機能を維持するために特に歯周組織の炎症をコントロールする重要性を説明できる。</p> <p>43) 高齢者に多くみられる補綴処置や装置について説明できる。</p> <p>44) 補綴装置の機能を維持するために必要な管理について説明できる。</p> <p>45) 高齢者の心理と行動に配慮し、補綴装置の管理について説明できる。”</p> <p>46) 摂食・嚥下機能の加齢変化について説明できる。</p> <p>47) 摂食・嚥下障害の病因・病態について説明できる。</p> <p>48) 摂食・嚥下障害の評価・検査について説明できる。</p> <p>49) 摂食・嚥下障害の主な原因について説明できる。</p> <p>50) 摂食・嚥下障害に関与する諸因子について説明できる。</p> <p>51) 摂食・嚥下障害の評価・検査について説明できる。</p> <p>52) 摂食・嚥下障害の対応について説明できる。</p> <p>53) 残存組織の変化とその対応について説明できる。</p> <p>54) 咬合の変化とその対応について説明できる。</p> <p>55) 機能低下とその対応について説明できる。</p> <p>56) 補綴装置の破損とその対応について説明できる。</p> <p>57) 義歯の管理について説明できる。</p>						
70	障害者の歯科治療	障害者の身体的、精神的、心理的特徴と社会環境を理解し、障害者の歯科	<p>1) 障害者歯科の目的、意義を説明できる。</p> <p>2) 障害者の定義、分類を説明できる。</p> <p>3) 障害者の社会的問題と環境について説明できる。</p>	◎	△	○	◎		◎

		医療を行うために、必要な基本的事項について修得する。さらに、障害者の口腔環境、口腔機能、歯科疾患の特異性とその口腔健康管理の方法について理解する。	4)障害者の社会保障および障害者歯科の関連職種について説明できる。 5)感覚障害、精神遅滞、行動および情緒の障害について説明できる。 6)肢体不自由、脳血管障害およびその他の中途障害、てんかん、内部障害について説明できる。 7)小児期・成人期における摂食・嚥下障害について説明できる。 8)障害者に対する矯正歯科治療について説明できる。 9)障害者歯科における歯科保健支援について説明できる。							
71	顎顔面補綴	原疾患としては、腫瘍、外傷、感染症、先天奇形などがあり、応用補綴学とも言うべき顎顔面補綴処置は、これらの疾患に対するリハビリテーションとして、学際的な知識と技能が必要とされる治療である。本講では、この分野の特徴的な事項と、具体的な臨床対応策、各種補綴装置の意義などを履修する。	1) この分野の歴史的な推移と現在の守備範囲を理解し、顎顔面補綴学の目的と意義を説明できる。 2) 口唇口蓋裂患者の治療と補綴処置に関連する外科および言語治療について説明できる。 3) 口唇口蓋裂症例における補綴的問題点と把握とその対処法を説明できる。 4) 腫瘍による上顎欠損の病態とそれに対する補綴処置について説明できる。 5) 腫瘍による下顎欠損の病態とそれに対する補綴処置について説明できる。 6) 頭頸部腫瘍に対する放射線治療の概要とそれに利用される各種補助装置について説明できる。 7) 顎変形症の臨床的問題点と、その対応策を説明できる。 8) 顔表面部の欠損に適応されるエビテーゼの基礎と製作方法を説明できる。 9) 顎顔面補綴症例の治療後のメンテナンスやケアについて説明できる。	○	○	○		△	○	
72	実習：口腔・顎顔面領域の疾患	拔牙および縫合に関する基本の手術手技を理解するために、必要な知識を習得する。	1) 拔牙の基本事項について説明できる。 2) 拔牙の適応について説明できる。 3) 拔牙の器具、基本手技、術式について説明できる。 4) 縫合の基本事項について説明できる。 5) 縫合の適応について説明できる。 6) 縫合の器具・材料、基本手技、術式について説明できる。			△	◎			
		良好な患者－歯科医師関係を築くために必要な医療面接の基本的な態度、知識および技能を身につける。口唇・口腔・顎顔面領域の診察、検査、診断、治療および予防を行うために必要な基本的な知識、技能および態度を身につける。患者本位の医療を実践するため、適切な説明を行った上で、患者の主体的な同意を得るために必要な対話能力と態度および考え方を身につける口唇・口腔・顎顔面領域の基本的な診察技能についての知識、技能および態度を修得する。。口腔外科の基本的な手技についての知識、技能および態度を修得する。良好な患者－歯科医	医療面接の役割を説明できる。 主訴をよく聞き取るとともに、患者の病気に対する考えや治療に対する希望を把握できる。 患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。 患者の不安、不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。 患者に診断結果と治療方針を適切に説明できる。 必要に応じて、他の医療機関への適切な紹介を行うための手続きを説明できる。 患者のプライバシーに配慮できる。 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。顔面の色調変化の診察ができる。 顔面の対称性の診察ができる。 下顎の開閉口路の診察ができる。 顎関節部の診察ができる。 頭頸部の筋肉の診察ができる。 顎下リンパ節の診察ができる。 口唇・口腔内の状態を診察できる。 診察した口唇・口腔内状態を診療録に記載できる。 清潔操作を実施できる。 拔牙(小手術を含む)の器材の準備ができる。 外来手術のための手洗いと滅菌手袋の装着ができる。 術野の消毒を實踐できる。	○		△	◎			

			<p>師関係を築くとともに、患者の情報を聴取し、診断をして治療計画を立てるための知識、技能および態度を修得する。</p>	<p>適切な身だしなみ、言葉づかい、礼儀正しい態度で患者に接することができる。 医療面接における基本的なコミュニケーションができる。 患者の病歴(主訴、現病歴、既往歴、家族歴)を聴取できる。 患者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出、整理できる。 患者の不安、不満や表情、行動の変化に適切に対応できる。 診療録に得られた情報を POMR(問題志向型診療記録)形式で記載できる。 患者のプライバシーに配慮できる。 患者に診断結果と治療方針を説明できる。</p>							
5 年 生	73	臨床実習・総合歯学・総合研修	<p>歯科医療人としての基盤を構築するために必要な、患者との全人的関わりの理解と責任感、歯科医師としての適切な倫理観、態度、価値観を涵養し、基本的臨床技能と知識の習得をすすめる、科学的思考と、より自律的な自己省察能力を得るために、歯科医師としての基本的な態度、生涯学習のための態度と技能、口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する知識と基本的技能を修得する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の個性および権利を理解できる。 ・患者に配慮した行動ができる。 ・医療における倫理の重要性を理解できる。 ・歯科医師の義務について説明できる。 ・自ら問題点を探し出し解決を試みることができる。 ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーションができる。 ・医療スタッフに配慮した行動ができる。 ・初診時および再診時の医療面接において良好な患者－歯科医師関係を築くとともに、臨床推論のための患者情報を適切に聴取できる。 ・説明および指導時の医療面接において患者や家族のレディネスに応じた対応ができる。 ・診察において、口唇・口腔・顎顔面領域の基本的な診察ができる。 ・英語を用いた診療録記載ができる。 ・診断に必要な画像検査の選択ができる。 ・医療面接および診察結果の情報をもとに診断をして治療計画を立てる事ができる。 ・放射線の人体に対する影響と放射線防護について理解し、適切な撮影が実践できる。 ・医療安全・感染予防について適切な対応ができる。 ・保存修復の基本的な手技を理解し、実践できる。 ・歯内治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 ・歯周病治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 ・部分床義歯による補綴治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 ・全部床義歯による補綴治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 ・冠・橋義歯による補綴治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 ・口腔外科の基本的な手技を理解し、実践できる。 ・矯正歯科治療の基本的な手技を理解し、説明できる。 ・小児歯科における予防及び治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 ・口腔衛生に関する基本的な手技を理解し、実践できる。 ・歯科治療における全身管理、精神鎮静法、局所麻酔および全身麻酔の基本を説明できる。 ・口腔保健について説明し、実践できる。 ・地域医療、病診連携、多職種連携について保健・医療・福祉の視点から理解できる。 	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
6 年 生	74	隣接臨床医学	<p>医療者として国民の健康に寄与するために、歯科に深く関連のある医学的知識や保健・医療・福祉分野についての知識を修得する。</p>	<p>授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身と口腔との関わりを理解する。 ・歯科医療と社会との関わり方を理解する。 	○	○	○	○	△	◎	
	75	歯科法医学／ 歯科東洋医学	<p>歯科医師の社会的責任を自覚し、役割を果たすために、歯科医師に必要な歯</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法医学における死体現象、窒息、損傷、高温、低温による障害等の法医学的事項を理解する。 ・法医学における個人識別の意義および方法について理解する。 ・東洋医学の医学観、理論および診断を理解する。 		○	○	○		○	

	<p>／スポーツ歯学</p>	<p>科法医学、東洋医学およびスポーツ歯学の知識を修得する。</p>	<p>・スポーツ歯学の基礎および臨床を説明できる。</p>						
<p>76</p>	<p>総合示説(基礎医学示説・臨床医学示説)</p>	<p>臨床実習開始前に学んだ基礎系専門教育科目の授業内容について更に理解を深めるため、それらを臨床的観点から見直し、新たな知見も追加して、基礎系科目の授業内容と臨床系科目の内容の関連を理解する。</p>	<p>1) 授業科目「人体の構造」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 2) 授業科目「歯の構造」「細胞の構造と機能」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 3) 授業科目「生命の分子の基盤」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 4) 授業科目「人体の機能」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 5) 授業科目「病因・病態・診断」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 6) 授業科目「感染と免疫」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 7) 授業科目「生体と薬物」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。 8) 授業科目「生体材料・歯科材料」の授業内容で、歯科の臨床と深く関係する事項を列挙し、説明することができる。</p>	<p>△</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>◎</p>	<p>△</p>	<p>○</p>
<p>77</p>	<p>臨床実習・総合歯学・総合研修</p>	<p>歯科医療人としての基盤を構築するために必要な、患者との全人的関わりの理解と責任感、歯科医師としての適切な倫理観、態度、価値観を涵養し、基本的臨床技能と知識の習得をすすめ、科学的思考と、より自律的な自己省察能力を得るために、歯科医師としての基本的な態度、生涯学習のための態度と技能、口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する知識と基本的技能を修得する。 また、本科目は5年生時臨床実習のアドバンスコースとして再診歯科医療について学ぶと共に、歯科以外の医療・福祉分野との関わりについても修得する。</p>	<p>1) 患者の個別性および権利を理解できる。 2) 患者に配慮した行動ができる。 3) 医療における倫理の重要性を理解できる。 4) 歯科医師の義務について説明できる。 5) 自ら問題点を探し出し解決を試みることができる。 6) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションができる。 7) 医療スタッフに配慮した行動ができる。 8) 初診時および再診時の医療面接において良好な患者－歯科医師関係を築くとともに、臨床推論のための患者情報を適切に聴取できる。 9) 説明および指導時の医療面接において患者や家族のレディネスに応じた対応ができる。 10) 診察において、口唇・口腔・顎顔面領域の基本的な診察ができる。 11) 英語を用いた診療録記載ができる。 12) 診断に必要な画像検査の選択ができる。 13) 医療面接および診察結果の情報をもとに診断をして治療計画を立てる事ができる。 14) 放射線の人体に対する影響と放射線防護について理解し、適切な撮影が実践できる。 15) 医療安全・感染予防について適切な対応ができる。 16) 保存修復の基本的な手技を理解し、実践できる。 17) 歯内治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 18) 歯周病治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 19) 部分床義歯による補綴治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 20) 全部床義歯による補綴治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 21) 冠・橋義歯による補綴治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 22) 口腔外科の基本的な手技を理解し、実践できる。 23) 矯正歯科治療の基本的な手技を理解し、説明できる。 24) 小児歯科における予防及び治療の基本的な手技を理解し、実践できる。 25) 口腔衛生に関する基本的な手技を理解し、実践できる。 26) 歯科治療における全身管理、精神鎮静法、局所麻酔および全身麻酔の基本を説明できる。 27) 口腔保健について説明し、実践できる。</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>○</p>	<p>◎</p>

			28) 地域医療、病診連携、多職種連携について保健・医療・福祉の視点から理解できる。						
78	実習：歯科臨床解剖学	歯科臨床に必要な基礎知識として、身体諸器官の基本構造を理解する。	1) 頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 2) 頭頸部の脈管系を説明できる。 3) 口唇・口腔粘膜の特徴を部位ごとに説明できる。 4) 舌の構造と機能を説明できる。 5) 大唾液腺の構造と機能を説明できる。 6) 心臓の構造と血液循環を説明できる。 7) 顎関節の構造と機能を説明できる。 8) 消化管の基本構造と機能を説明できる。 9) 頭頸部の神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。	○	◎	◎	○		○